

2017年度
春学期入学
大学院入学試験要項

2017
CHUKYO UNIVERSITY

*2017年度学内特別選抜の入学試験要項は別の冊子となります。

*2017年度秋学期入学の入学試験要項は別の冊子となります（国際英語学専攻及び経済学専攻のみ実施）。

*ビジネス・イノベーション研究科の入学試験要項は別の冊子となります。

CONTENTS

研究科共通ページ〈出願者全員が確認してください〉	
1. 中京大学大学院入学受入の方針 1ページ	6. 受験票の受け取り 12ページ
2. 入学定員と試験区分（選抜方式）一覧 4ページ	7. 試験当日の注意事項（持ち物等） 12ページ
3. 2017年度春学期入学試験日程一覧 5ページ	8. 合格発表 12ページ
4. 出願資格および出願資格審査 7ページ	9. 入学手続 13ページ
5. 出願について 10ページ	10. 学費等 14ページ
（1）出願方法 10ページ	（長期履修制度について） 15ページ
（2）検定料 10ページ	11. 個人情報の取り扱いについて 15ページ
（3）研究科共通出願書類 10ページ	12. キャンパスマップ〈名古屋〉〈豊田〉 16ページ
（4）修学および受験に際して 特別な配慮を要する方へ 12ページ	

各研究科ページ〈出願する研究科のページを確認してください〉			
研究科	専攻	課程	設置キャンパス
文学	日本文学・日本語文化	博士前期（修士）・博士後期	名古屋
国際英語学	国際英語学	修士	名古屋
	英米文化学	修士	
心理学	実験・応用心理学	博士前期（修士）・博士後期	名古屋
	臨床・発達心理学	博士前期（修士）・博士後期	
社会学	社会学	博士前期（修士）・博士後期	豊田
法学	法律学	博士前期（修士）・博士後期	名古屋
経済学	経済学	博士前期（修士）・博士後期	名古屋
	総合政策学	博士前期（修士）・博士後期	
経営学	経営学	博士前期（修士）・博士後期	名古屋
工学 〈2017年4月開設〉	機械システム工学	修士	名古屋
	電気電子工学	修士	
	情報工学	修士	豊田
情報科学	情報認知科学	博士後期	豊田
	メディア科学	博士後期	
体育学	体育学	博士前期（修士）・博士後期	豊田

〈主な掲載内容〉

- ・選抜方法
- ・入学定員・試験日程・試験科目等
- ・出願書類
- ・研究科概要および特色・専任教員組織
- ・教員の研究分野の紹介

●巻末書類〈出願書類所定用紙〉

- 身元保証書〈外国人留学生のみ〉
- 志願書〈研究科別、一部専攻別〉
- 研究計画書表紙〈経営学研究科博士後期課程志願者のみ〉

●同封書類

- 受験票・写真票・検定料払込票
- 検定料払込用紙
- 宛名シール
- 出願用封筒

入学試験に関する問い合わせ先

中京大学 教学部 大学院事務課
 E-mail gs-office@mng.chukyo-u.ac.jp
 名古屋キャンパス
 〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2
 TEL：(052) 835-9863
 豊田キャンパス
 〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101
 TEL：(0565) 46-6141

1. 中京大学大学院入学者受入の方針

	博士前期（修士）課程	博士後期課程
文学研究科	本課程は、学部で修得した日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学のいずれか、またはその関連領域の、一般的ならびに専門的教養のうえに、批判的精神と犀利な問題意識をもって、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学等の諸分野を研究しようとする学生を受け入れる。	本課程は、博士前期課程で修得した人文系の諸領域における高い専門能力と基礎文献の活用能力のうえに、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学の分野において自律した研究者に相応しく高度で独創的な研究を行おうとする学生を受け入れる。
心理学研究科	心理学研究科は、「実験・応用心理学」と「臨床・発達心理学」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。 本課程では一般選抜のほか、社会人選抜を設けて入学試験を実施する。 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 ・現代の人間および人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。	本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 ・博士前期課程において心理学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。
社会学研究科	社会学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。 ・現代社会に生起する諸現象、諸問題を認識し、それを分析・洞察する能力を、一定の研究実績として示していること。 ・専門教育を受けるに適した社会学および隣接諸科学に関する基礎知識、ならびに外国語の能力を有していること。 ・自ら設定した課題を遂行する意欲を有していること。	・博士前期課程において社会学および隣接諸科学に関する高度な学識や、外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。 ・自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。
法学研究科	法学研究科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、そして、本研究科が定める「教育上の目的（理念、目的）」に賛同し、これまで培ってきた知識や技能を土台として、真理を探究する研究心の旺盛な且つ真摯な態度で法律学及び政治学を学び、昇華させようとする意欲的な人を広く求める。 本課程は、学部で修得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の基礎的な読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をもって、法学及び政治学その他の関連する諸分野を研究することを志す学生を受け入れる。	本課程は、博士前期課程（修士課程）において修得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をさらに研ぎ、今後、法律学及び政治学の学問水準を高める研究業績を博士論文において示しうる学生を受け入れる。
経済学研究科	経済学研究科は、「経済学専攻」と「総合政策専攻」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。 1. 本課程経済学専攻では一般選抜のほか、税理士選抜、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 2. 本課程総合政策学専攻では一般選抜のほか、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 3. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 ・現代の経済社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。	本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 ・博士前期課程において経済学または総合政策学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。

	博士前期（修士）課程	博士後期課程
経営学研究科	<p>経営学研究科は、「研究科の人材の養成に関する目的」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営に関する諸現象、諸問題を認識し、それを分析・洞察する能力を示していること。 ・専門教育を受けるに適した経営学および隣接諸科学に関する基礎知識を有していること。 ・自ら適切な研究課題を設定できる能力とそれを遂行する意欲を有していること。 ・外国人留学生には、日本語能力試験 N1レベル級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において経営学および隣接諸科学に関する高度な学識や、外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。 ・自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。 ・外国人留学生には、日本語能力試験 N1レベル級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。
	<p>〔修士課程〕〈2017年4月開設〉</p> <p>工学研究科修士課程は、「機械システム工学専攻」「電気電子工学専攻」「情報工学専攻」の3専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の人間および人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有する者。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有する者。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有する者。 	
情報科学研究科	<p>情報科学研究科博士後期課程においては「情報認知科学」、「メディア科学」の2専攻を設けて学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p>	<p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において情報科学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。
	<p>体育学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような方針で広く学生を募集し受け入れる。</p>	
体育学研究科	<p>1. 本課程では一般選抜のほか、社会人選抜と外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。</p> <p>2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育学・健康科学の領域における基礎的な知識を有し、さらなる専門知識を修得する意欲を有していること。 ・体育学・健康科学研究の専門職を目指す者については、特に高度な学術研究を遂行するための研究能力を修得する意欲を有していること。 ・スポーツ指導者を目指す者については、特に高度な技術と指導力を修得する意欲を有していること。 	<p>本課程は2か年の博士前期課程（修士課程）の上に3か年の博士後期課程を乗せるという積み上げ方式をとり、国外を含む他大学大学院の修士課程修了者を積極的に受け入れる方針を取っている。</p> <p>1. 本課程では一般選抜のほか、外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。</p> <p>2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において体育学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究者・教育者あるいは高度な技術と専門知識を有するスポーツ指導者として活躍するために、独創性と論理性を備えた研究を遂行し、学術的あるいは教育的に意義のある研究論文を執筆する基礎的能力と意欲を有していること。

修 士 課 程				
国際英語学 研究科	<p>国際英語学研究科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、および専攻科が定める教育研究上の目的（理念・目的）にある人材を育成するために、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p>			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: left;">国際英語学専攻</th> <th style="width: 50%; text-align: left;">英米文化学専攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 研究に必要とされる十分な英語力を有していること。 ・ 自ら設定した研究課題について遂行する意欲を有していること。 ・ 文化を異にする人達と良好な人間関係を構築できること。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する明確な問題意識を有していること。 ・ 語学力を含めて、専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。 </td> </tr> </tbody> </table>	国際英語学専攻	英米文化学専攻	<p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 研究に必要とされる十分な英語力を有していること。 ・ 自ら設定した研究課題について遂行する意欲を有していること。 ・ 文化を異にする人達と良好な人間関係を構築できること。
国際英語学専攻	英米文化学専攻			
<p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 研究に必要とされる十分な英語力を有していること。 ・ 自ら設定した研究課題について遂行する意欲を有していること。 ・ 文化を異にする人達と良好な人間関係を構築できること。 	<p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する明確な問題意識を有していること。 ・ 語学力を含めて、専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。 			

2. 入学定員と試験区分（選抜方式）一覧

研究科	専攻	課程	入学定員	試験区分（選抜方式）				
				一般選抜	社会人選抜	留学生選抜	税理士選抜	学内特別選抜
文学	日本文学・日本語文化	博士前期（修士）	5名	○	○	—	—	○
		博士後期	2名	○	—	—	—	—
国際英語学	国際英語学*	修士	5名*	○	—	—	—	—
	英米文化学	修士	3名	○	—	—	—	—
心理学	実験・応用心理学	博士前期（修士）	7名	○	○	—	—	—
		博士後期	3名	○	—	—	—	—
	臨床・発達心理学	博士前期（修士）	23名	○	○	—	—	—
		博士後期	3名	○	—	—	—	—
社会学	社会学	博士前期（修士）	5名	○	—	○	—	—
		博士後期	2名	○	—	○	—	—
法学	法律学	博士前期（修士）	10名	○	○	○	—	○
		博士後期	3名	○	—	○	—	—
経済学	経済学*	博士前期（修士）	5名*	○	○	○	○	○
		博士後期	2名*	○	—	—	—	—
	総合政策学	博士前期（修士）	5名	○	○	○	—	○
		博士後期	2名	○	—	—	—	—
経営学	経営学	博士前期（修士）	10名	○	○	—	—	○
		博士後期	3名	○	—	—	—	—
工学 〈2017年4月開設〉	機械システム工学	修士	7名	○	—	—	—	○
	電気電子工学	修士	7名	○	—	—	—	○
	情報工学	修士	8名	○	—	—	—	○
情報科学	情報認知科学	博士後期	4名	○	—	—	—	—
	メディア科学	博士後期	2名	○	—	—	—	—
体育学	体育学	博士前期（修士）	12名	○	○	○	—	—
		博士後期	4名	○	—	○	—	—

※国際英語学研究科国際英語学専攻および経済学研究科経済学専攻のみ、2017年度秋学期入学試験を実施します。表中の定員は2017年度秋学期入学試験の定員との合算人数です。

3. 2017年度春学期入学試験日程一覧

博士前期（修士）課程

	研究科	試験区分	出願期間 (最終日消印有効)	試験日	可否通知 発送日	第一次入学 手続期間	最終入学 手続期間	入学辞退 締切日
前期日程	経済学 (経済学専攻のみ)	一般/社会人/ 留学生/税理士/ 学内特別	2016年 6月13日(月) } 6月23日(木)	7月9日(土)	7月19日(火)	7月19日(火) } 7月26日(火)	2017年 3月3日(金) } 3月14日(火)	2017年 3月31日(金)
	工学 (2017年4月開設)	一般/学内特別	2016年 6月13日(月) } 6月17日(金)	7月1日(金)・ 2日(土)	7月15日(金)	7月15日(金) } 7月22日(金)		
	心理学	一般/社会人	2016年 8月18日(木) } 8月25日(木)	9月10日(土)・ 11日(日)	9月21日(水)	9月21日(水) } 9月28日(水)		
	法学	一般/社会人/ 留学生/学内特別	2016年 8月22日(月) } 8月31日(水)	9月15日(木)	9月26日(月)	9月26日(月) } 10月3日(月)		
	文学	一般/社会人	2016年 9月1日(木) } 9月12日(月)	10月1日(土)	10月11日(火)	10月11日(火) } 10月18日(火)		
	国際英語学	一般						
	経済学 (総合政策学専攻のみ)	一般/社会人/ 留学生/学内特別						
	経営学	一般/社会人/ 学内特別						
	体育学	一般/社会人/ 留学生						
	社会学	一般/留学生	2016年 8月29日(月) } 9月8日(木)	9月24日(土)	10月4日(火)	10月4日(火) } 10月11日(火)		
後期日程	心理学	一般	2017年 1月10日(火) } 1月18日(水)	2月2日(木)・ 3日(金)	2月13日(月)	2017年 合格発表日 } 3月14日(火) ※二段階納入方式ではありません		
	社会学	一般/留学生	2017年 1月16日(月) } 1月26日(木)	2月10日(金)	2月21日(火)			
	法学	一般/社会人/ 留学生/学内特別						
	国際英語学	一般						
	経済学 (経済学専攻のみ)	一般/社会人/ 留学生/税理士/ 学内特別	2017年 1月23日(月) } 2月2日(木)	2月11日(土)	2月28日(火)			
	経済学 (総合政策学専攻のみ)	一般/社会人/ 留学生/学内特別						
	経営学	一般/社会人/ 学内特別						
	文学	一般/社会人/ 学内特別	2017年 1月30日(月) } 2月9日(木)	2月18日(土)	3月7日(火)			
	体育学	一般/社会人/ 留学生						
工学 (2017年4月開設)	一般/学内特別		2月24日(金)・ 25日(土)					

外国人の方および外国在住日本人の方で日本国外から出願される場合は、出願期間以前の受付も可能です。事前に教学部大学院事務課にご相談ください。

国際英語学研究科国際英語学専攻および経済学研究科経済学専攻のみ、2017年度秋学期入学試験を実施します。2017年度秋学期入学試験の募集要項は2017年4月公表予定です。

博士後期課程

	研究科	試験区分	出願期間 (最終日消印有効)	試験日	可否通知 発送日	第一次入学 手続期間	最終入学 手続期間	入学辞退 締切日
前期日程	情報科学	一般	2016年 6月13日(月) } 6月17日(金)	7月1日(金)	7月15日(金)	7月15日(金) } 7月22日(金)	2017年 3月3日(金) } 3月14日(火)	2017年 3月31日(金)
	体育学	一般/留学生	2016年 9月1日(木) } 9月12日(月)	10月1日(土)	10月11日(火)	10月11日(火) } 10月18日(火)		
後期日程	心理学	一般	2017年 1月10日(火) } 1月18日(水)	2月2日(木)・ 3日(金)	2月13日(月)	2017年 合格発表日 } 3月14日(火) ※二段階納入方式ではありません		
	社会学	一般/留学生	2017年 1月16日(月) } 1月26日(木)	2月10日(金)	2月21日(火)			
	法学	一般/留学生						
	経済学	一般	2017年 1月23日(月) } 2月2日(木)	2月11日(土)	2月28日(火)			
	経営学	一般						
	文学	一般	2017年 1月30日(月) } 2月9日(木)	2月18日(土)	3月7日(火)			
	体育学	一般/留学生						
情報科学	一般							

外国人の方および外国在住日本人の方で日本国外から出願される場合は、出願期間以前の受付も可能です。事前に教学部大学院事務課にご相談ください。

経済学研究科経済学専攻のみ、2017年度秋学期入学試験を実施します。2017年度秋学期入学試験の募集要項は2017年4月公表予定です。

4. 出願資格および出願資格審査

博士前期（修士）課程

一般選抜

次の①～⑩のいずれかに該当する者。

- ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者および2017年3月卒業見込みの者
- ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および2017年3月までに授与される見込みの者
- ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2017年3月までに修了見込みの者
- ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および2017年3月までに修了見込みの者
- ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者および2017年3月までに修了見込みの者
- ⑥専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および2017年3月までに修了見込みの者
- ⑦文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- ⑧大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本研究科委員会において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- ⑨出願する研究科の研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達した者
- ⑩その他出願する研究科の研究科委員会において、学校教育法第83条に定める大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

【出願資格審査について】

出願資格⑧～⑩による出願を希望する（出願する研究科の研究科委員会において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。

対象者（例）…飛び級による出願希望者

外国における3年制大学の卒業生

短期大学・高等専門学校・専修学校・各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者等

社会人選抜

一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を要します。

〈文学研究科〉

入学時において、大学（短期大学も含む）卒業後7年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない。

〈心理学研究科〉

入学時において、大学（短期大学も含む）卒業後7年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない。心理学の基礎を学修済であり、心理学関連の業務に就いている者が望ましい。

〈法学研究科〉

次の①～③のいずれかに該当する者。

- ①2017年4月1日現在において30歳に達している者
- ②大学を卒業後5年以上の社会経験を有し、または、大学院を修了後3年以上の社会経験を有しており、本研究科に入学後、その社会経験に関連した事項について研究を行う予定の者
- ③その他、本研究科において社会人選抜に出願する資格があると認めた者

〈経済学研究科経済学専攻〉

入学時に大学卒業後3年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない。

〈経済学研究科総合政策学専攻〉

大学を卒業した者かつ入学時に職業経験がある者。

〈経営学研究科（有験者特別選抜）〉

大学を卒業後7年以上の職業経験を有し、本研究科に入学後、その職業経験に関連した事項について研究を行う予定の者。また、昼間開講科目の履修のみで卒業所要単位の取得が可能な者。

〈体育学研究科〉

入学時に社会人として3年以上の実務経験を有する者。

留学生選抜

一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を要します。

〈社会学・法学・経済学・体育学研究科〉

出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、または入学時に得られる者。

※法学研究科のみ

日本において、通常の高等学校教育の課程または大学教育の課程を含めて、学校教育における7年以上の課程を修了した者および修了見込みの者は、外国人留学生として留学生選抜には出願できない。

※体育学研究科のみ

日本において、高等学校段階までの教育を修了した者は、外国人留学生として留学生選抜には出願できない。

税理士選抜

一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を要します。

〈経済学研究科経済学専攻〉

税理士を志望する者。

学内特別選抜

学内特別選抜の出願資格については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

博士後期課程

一般選抜

次の①～⑦のいずれかに該当する者。

- ①修士の学位または文部科学大臣の定める学位を有する者および2017年3月までに取得見込みの者
- ②外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および2017年3月までに授与される見込みの者
- ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および2017年3月までに授与される見込みの者
- ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および2017年3月までに授与される見込みの者
- ⑤文部科学大臣の指定した者
- ⑥出願する研究科の研究科委員会において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達した者
- ⑦その他出願する研究科の研究科委員会において、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

【出願資格審査について】

出願資格⑥・⑦による出願を希望する（出願する研究科の研究科委員会において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。

留学生選抜

一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を要します。

〈社会学・法学・体育学研究科〉

出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、または入学時に得られる者。

※体育学研究科のみ

日本の大学における学部を卒業した者は、外国人留学生として留学生選抜には出願できない。

5. 出願について

(1) 出願方法

【郵送・窓口持参共通事項】

- ① 所定の封筒に必要事項を記入し、出願書類を入れてください。
- ② 論文等が大きく、所定の封筒に入らない場合は、所定の封筒の表面を切り取り、出願書類が入る大きさの任意の封筒に貼付してください。
- ③ 出願書類に不備がある場合は出願を受け付けません。

【出願書類を郵送する場合】

- ・ 出願期間最終日の消印有効とします。
- ・ 「速達の簡易書留郵便」で送付してください。
- ・ 豊田キャンパス設置研究科・専攻に出願される場合も、名古屋キャンパス教学部大学院事務課宛（所定の封筒に印刷された宛先）に送付してください。

【出願書類を大学窓口を持参する場合】

- ・ 名古屋・豊田両キャンパスの大学院事務課窓口（以下）にて出願を受け付けます。
〈大学院事務課のご案内〉
名古屋キャンパス：名古屋市昭和区八事本町101-2 14号館1階
豊田キャンパス：豊田市貝津町床立101 11号館1階
※両キャンパスとも受付時間は平日の9:00～17:00です。時間外の受付はいたしかねますのでご注意ください。

(2) 検定料

- ① 入学検定料（35,000円）は同封の検定料払込用紙を用いて、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口にて払い込んでください。
※本学在学生のうち《大学院進学奨励》制度で大学院進学を志望する者は、入学検定料を払い込む前に教学部大学院事務課に申し出てください。
- ② 「振替払込受付証明書（願書貼付用）」は、ゆうちょ銀行または郵便局の日附印を確認の上、検定料払込票の所定欄に貼付してください。
- ③ 現金や為替を封入したり、他の金融機関での振込、およびATMによる振込は受け付けることができません。
- ④ 振込手数料は個人負担となります。払い込まれた入学検定料は返還いたしませんのでご了承ください。
- ⑤ 「振替払込請求書兼受領証」は大学発行の領収書とみなしますので、大切に保管してください。
- ⑥ 払込用紙裏面の収入印紙については貼付する必要はありません。
- ⑦ 入学検定料納入期間は、出願開始日の一週間前から、出願締切日までです。

(3) 研究科共通出願書類

【注意事項】

- ① 書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して明確に記入してください。
- ② 証明書類は3カ月以内に作成されたものを提出してください。
- ③ 外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④ 所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出してください。
- ⑤ 出願後の出願書類の変更はできません。

受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】	① 写真（正面上半身、脱帽、縦4cm × 横3cm、3カ月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、貼付してください。 ② 検定料については、上記「(2) 検定料」を参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付してください。
宛名シール 【同封書類】	合否通知書発送に使用します。郵便番号・住所・氏名を明確に記入してください。
志願書 【巻末書類】	詳細は、各研究科ページを参照してください。
卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	詳細は、各研究科ページを参照してください。 ※3カ月以内に作成されたものを提出してください。
研究計画書・論文・ 出願理由書他	詳細は、各研究科ページを参照してください。 ※提出不要の研究科・専攻（課程）もあります。

次ページに続く

語学試験証明書	<p>〈国際英語学研究科修士課程志願者〉 「英語」試験の免除を希望する者は、各検定試験の成績証明書(コピー可)を提出してください。</p> <p>〈体育学研究科博士前期課程志願者〉 語学関係試験の免除を申請する場合には、証明書類の原本を提出してください。</p> <p>〈体育学研究科博士後期課程志願者〉 TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア票 (試験日の2年前までに受験したスコアに限る) の原本を提出してください。</p>
戸籍抄本等	<p>* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ提出してください。 氏名の変更を証明できる書類 (戸籍抄本等) を提出してください。</p>

以下は外国人留学生のみ提出してください。

日本語の学力に関する書類	<p>〈文学・国際英語学・心理学・経済学・工学・情報科学・体育学研究科志願者〉 日本語の学力を客観的に証明できる者 (指導教員等) が作成・発行した成績証明書を提出してください。 ※日本の学校を卒業 (含見込) した者および大学院を修了 (含見込) した者は提出を免除します。</p> <p>〈社会学研究科志願者〉 日本語の学力を客観的に証明できる者 (指導教員等) が作成・発行した成績証明書を提出してください。さらに、以下の①②に該当する者は指定する書類を提出してください。 ※日本の学校を卒業 (含見込) した者および大学院を修了 (含見込) した者は提出を免除します。 ①「日本語能力試験 N1 レベルあるいは1級」を受験した者は、成績証明書を必ず提出。 ②「日本留学試験」を受験した者は、受験票を必ず提出 (本学が独立行政法人日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績請求を希望する回のもの)。</p> <p>〈経営学研究科志願者〉 日本語の学力を客観的に証明できる者 (指導教員等) が作成・発行した成績証明書を提出してください。さらに、以下の①②に該当する者は指定する書類を提出してください。 ①「日本語能力試験 N1 レベルあるいは1級」を受験した者は、成績証明書を必ず提出。 ②「日本留学試験」を受験した者は、受験票を必ず提出 (本学が独立行政法人日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績請求を希望する回のもの)。</p> <p>〈法学研究科志願者〉 以下の①②のいずれかを提出してください。 ※日本の学校を卒業 (含見込) した者および大学院を修了 (含見込) した者は提出を免除します。 ①「日本語能力試験 N1 レベルあるいは1級」の成績証明書。 ②「日本留学試験」の受験票 (本学が独立行政法人日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績請求を希望する回のもの)。</p>
住民票 (写し)	<p>外国人登録をしている市役所や区役所で取得できます。出願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出してください。 なお、在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておいてください。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができます。</p>
身元保証書 【巻末書類】	<p>所定用紙 (巻末書類) を使用してください。 保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出してください。 保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とします。</p>
パスポートのコピー	<p>顔写真のページのコピーを提出してください。</p>

(4) 修学および受験に際して特別な配慮を要する方へ

中京大学では、障がい等により、受験および修学に際して配慮を希望する方からの相談を随時受け付けています。なお、相談の内容によっては、出願前に志願者ご本人（および保護者）に面談を依頼することがありますので予めご承知ください。

※この面談は、受験上および修学上の配慮について確認するものであり、合否判定等とは一切関係ありません。出願の検討段階での相談でも構いませんので、できる限り早めに教学部大学院事務課までお申し出ください。特に、受験に際しての配慮を希望される方は、各試験の出願開始の4週間前までに必ずご連絡ください。

6. 受験票の受け取り

- ① 受験票は出願期間締切後、随時郵送します。
- ② 受験票が試験日の3日前になっても届かない場合は、教学部大学院事務課 TEL(052)835-9863へ連絡してください。
- ③ 受験票を紛失した場合や忘れた場合は、試験当日に中京大学大学院入試担当係員に申し出て、「仮受験票発行」の手続きをとってください。

7. 試験当日の注意事項

(1) 持参するもの

- ① 受験票 ● 受験票を忘れた場合、または出発時までに受験票が届かなかった場合は、試験当日に中京大学大学院入試担当係員に申し出てください。
- ② 筆記用具 ● HBの黒鉛筆またはシャープペンシル、プラスチック消しゴム
※下敷き、定規、コンパス等の使用は認めません。
- ③ 時計 ● 試験会場（試験室）には時計がありません。
● 時計以外の機能が付いたものの使用は認めません（タイマーや大型時計の使用は認めません）。
また携帯電話（スマートフォン含む）・PHS等を時計として使用することもできません。

※研究科・専攻により、辞典・辞書等の持込を許可している場合があります。詳細は各研究科ページを参照してください。

(2) 試験室への案内

- ① 試験開始30分前までに、各研究科・専攻が指定する場所に集合してください。なお、試験室への案内は、掲示・大学院入試担当係員の誘導などにより行います。
※集合場所は各研究科ページを参照してください。
※前日に試験室を下見することはできません。
- ② 試験開始10分前までに所定の試験室、座席に着くようにしてください。
- ③ 各試験会場内は禁煙とします。

(3) 遅刻について

私的な理由による遅刻については試験開始後30分まで入室を認めます。それ以降の遅刻は一切認めません。なお、時間延長等の特別措置はありません。公共交通機関の遅延によって試験に遅れる場合は、遅延証明書をお持ちください。

8. 合格発表（合否通知発送）

- ① 合否通知発送日（前述「3. 2017年度春学期入学試験日程一覧」参照）に合否通知を発送します。
- ② 合格者の入学手続書類は、合格通知書とともに郵送します。

9. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

入学手続は「**第一次入学手続**」と「**最終入学手続**」の二段階納入方式です。詳しくは合格通知書同封の『入学手続要項』で確認してください。

※後期日程は、二段階納入方式ではなく、第一次入学手続と最終入学手続が同一期間となります。詳細は前述「3. 2017年度春学期入学試験日程一覧」を参照してください。

〈第一次入学手続〉

入学金のみ納入することで、第一次入学手続が完了となります。

※一旦納入した入学金は、いかなる理由があっても返還できません。予めご了承ください。

〈最終入学手続〉

第一次入学手続を完了された方は、最終入学手続期間に授業料等の納入および、入学手続書類の送付をすることで最終入学手続が完了となります。

〈入学辞退〉

最終入学手続完了後、入学辞退締切日までに「入学辞退届」を提出した場合は、入学金を除く入学時納付金（授業料等）を返還いたします。

※入学辞退締切日は前述「3. 2017年度春学期入学試験日程一覧」を参照してください。

外国人留学生のみ

外国人留学生の入学手続者は、最終入学手続完了後ただちに、中京大学国際センターまで必ず連絡してください。

中京大学国際センター TEL (052) 835-7133

心理学研究科博士前期（修士）課程入学者のみ

有職者については、入学時に人事部長または所属長の大学院通学承諾書を提出していただきます。予めご了承ください。

10. 学費等

※この学費は2016年度入学生のもので、2017年度入学生の場合は、事情により改定することがあります。
工学研究科〈2017年4月開設〉は、2016年2月時点で予定されている学費を記載しています。

I：文学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	※学会費	年額計	入学時納付金
博士前期課程 (修士課程)	200,000	440,000	200,000	1,000	841,000	521,000
博士後期課程	200,000	400,000	150,000	1,000	751,000	476,000

II：心理学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	年額計	入学時納付金
博士前期課程 (修士課程)	200,000	440,000	220,000	30,000	890,000	545,000
博士後期課程	200,000	400,000	170,000	30,000	800,000	500,000

III：工学研究科〈2017年4月開設〉

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	年額計	入学時納付金
修士課程	200,000	505,000	245,000	100,000	1,050,000	625,000

IV：情報科学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	年額計	入学時納付金
博士後期課程	200,000	400,000	200,000	100,000	900,000	550,000

V：体育学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	年額計	入学時納付金
博士前期課程 (修士課程)	200,000	440,000	245,000	50,000	935,000	567,500
博士後期課程	200,000	400,000	200,000	50,000	850,000	525,000

VI：国際英語学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	※学会費	年額計	入学時納付金
修士課程	200,000	440,000	200,000	1,000	841,000	521,000

VII：社会学・法学・経済学・経営学研究科

(単位：円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	年額計	入学時納付金
博士前期課程 (修士課程)	200,000	440,000	200,000	—	840,000	520,000
博士後期課程	200,000	400,000	150,000	—	750,000	475,000

【補足事項】

- ①博士前期（修士）課程の2年次納付金は、1年次と同額です（入学金を除く）。
※体育学研究科の2年次納付金は、授業料・教育充実費については1年次と同額ですが、実験実習費については年20,000円減額になります。
- ②博士後期課程の2年次および3年次の納付金は、1年次と同額です（入学金を除く）。
- ③「入学金」は入学時のみ納入、「授業料、教育充実費および実験実習費」は春学期・秋学期の2回に分けて納入していただきます。ただし、入学時の春学期分については、入学時納付金に含まれます。
- ④中京大学卒業の博士前期（修士）課程入学者は、入学金 20,000円、教育充実費は入学時の1年次春学期分のみ半額です（この取り扱いの詳細は、別表を参照してください）。
- ⑤本学博士前期（修士）課程から、同一の研究科の博士後期課程への進学者は、入学金を免除します。
- ⑥入学後、いくつかの特定科目の履修に際して別途履修費および実習費を徴収することがあります。
- ⑦学費は「学則」の改定にともない在学中に変更することがあります。
- ⑧外国人留学生は、学費のうち「授業料」について3割減免措置を、博士前期（修士）課程に対しては入学後2年間、博士後期課程に対しては入学後3年間の各期間適用いたします。
- ⑨入学辞退締切日までに入学辞退手続をした場合、入学時納付金のうち、入学金を除くその他の納付金を返金いたします。
- ⑩文学研究科・国際英語学研究科は「学会費」を春学期に納入していただきます。
- ⑪法学研究科博士前期（修士）課程社会人選抜の合格者で修学期間3・4年を選択した入学者の授業料については、標準修学期間（2年間分）の授業料を、選択した修学期間（3・4年）で納入していただきます。
- ⑫経済学研究科経済学専攻博士前期（修士）課程および体育学研究科博士前期（修士）課程の社会人選抜の合格者で修学期間3年を選択した入学者の授業料については、標準修学期間（2年間分）の授業料を、選択した修学期間（3年）で納入していただきます。

別表

	入学金	教育充実費	
春学期入学者	20,000円	入学時の1年次春学期	半額
秋学期入学者	20,000円	入学時の1年次秋学期	半額

【長期履修制度について】

博士前期（修士）課程「社会人選抜」志願者対象
(法学研究科、経済学研究科経済学専攻、体育学研究科のみ)

本学大学院学則において、博士前期（修士）課程の標準修業年限は2年間と定められていますが、職業を有している等の事情により、十分な学習・研究時間が確保できない場合、経済学研究科経済学専攻および体育学研究科は3年間、法学研究科は3年間または4年間での計画的な教育課程の履修を可能としています。前述の研究科・専攻における社会人選抜志願者のうち、長期履修制度の適用を希望する場合には、志願書の「在学期間」欄にて申請してください。

※長期履修は、申請すれば必ず認められるものではありません。審査により不可となる場合もありますのでご注意ください。

※入学後に長期履修制度の適用申請はできません。また、この制度は学業不振などの理由により修了が延期となる者を救済するためのものではありません。

※いずれの在学期間を選択しても、4年を超えて在学することはできません。

※学費の納入については、上記【補足事項】の⑪・⑫を参照してください。

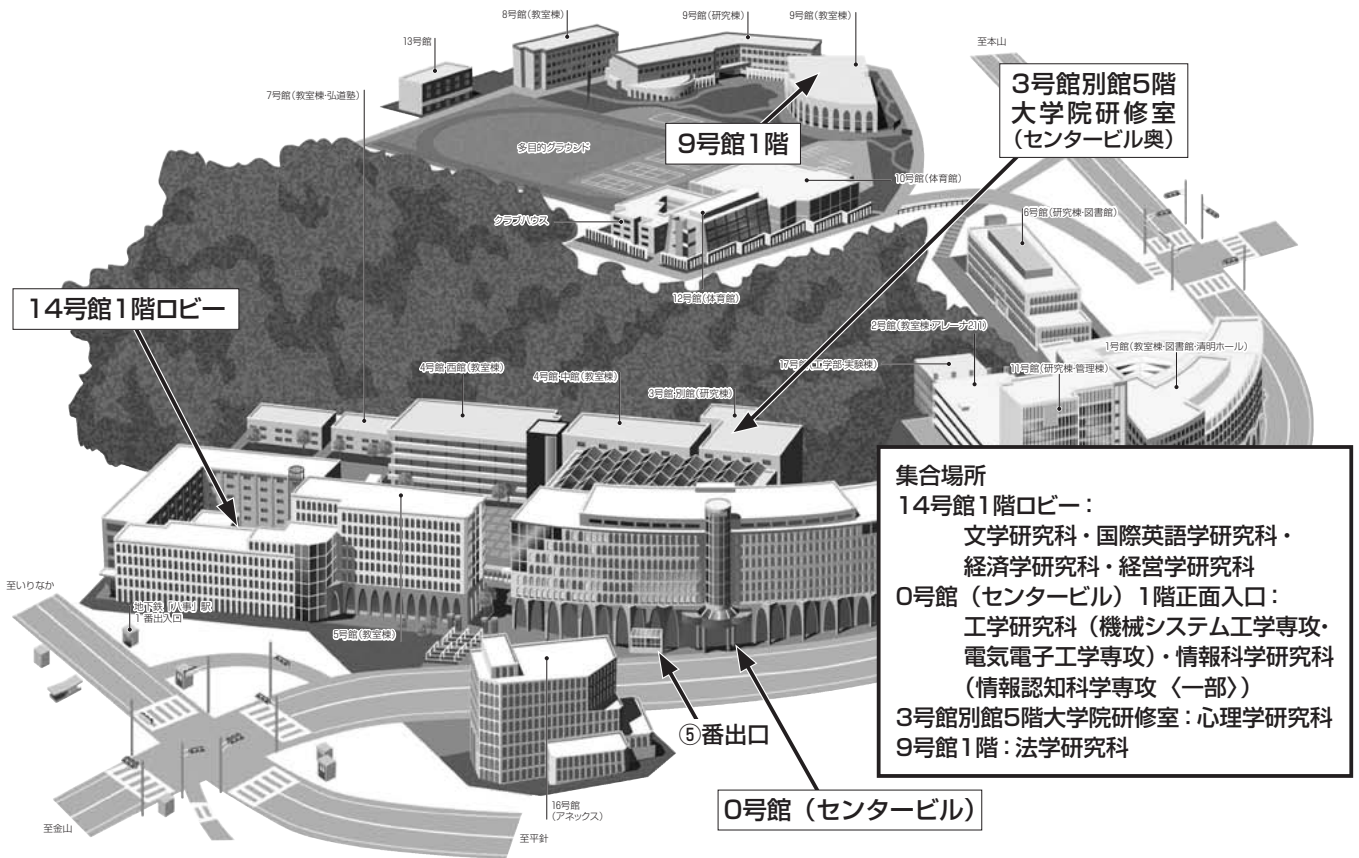
11. 個人情報の取り扱いについて

- ①志願書等に記入された住所・氏名・その他個人情報については、合否結果通知および合格者・入学手続者への各種案内の発送に利用します。
- ②大学が業務を委託した会社に、個人情報の全部または一部を提供しますが、目的以外の用途に使用することはありません。予めご了承ください。

12. キャンパスマップ

名古屋キャンパス

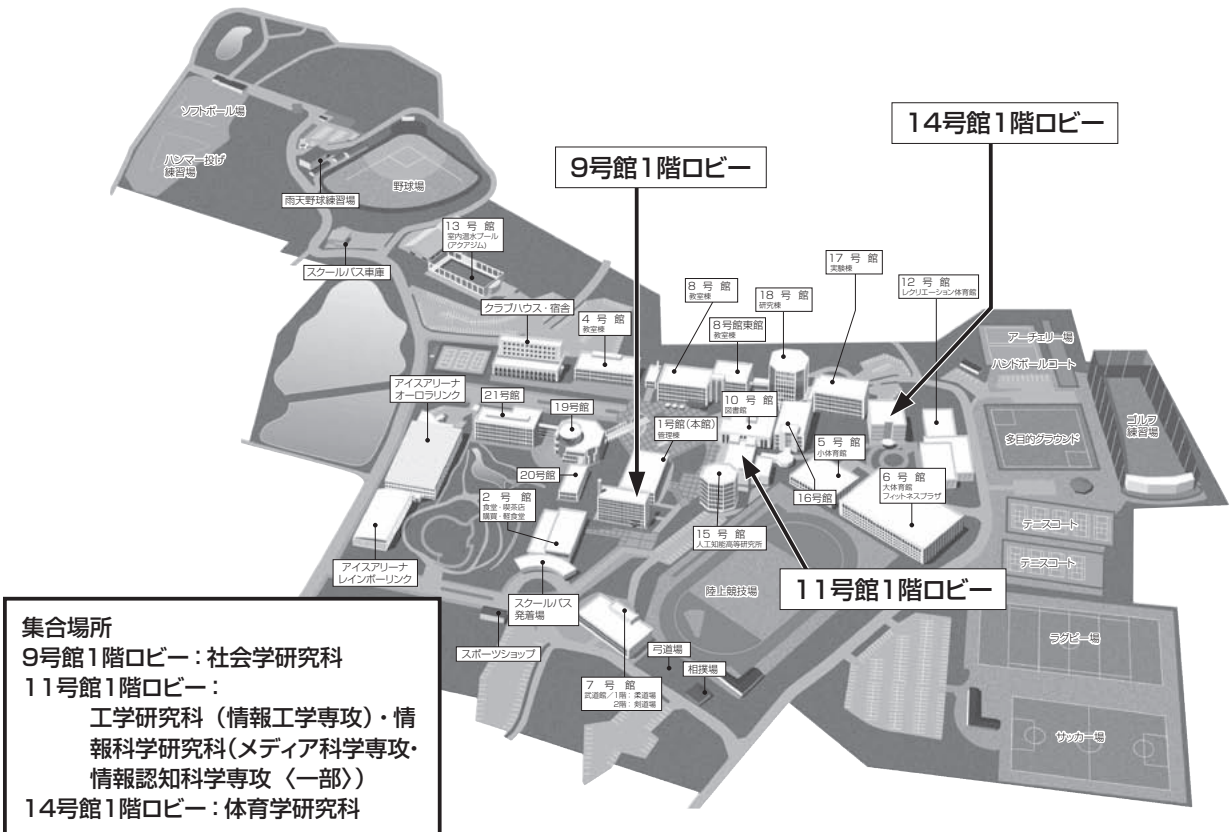
〒466-8666
 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-7111<代表>



研究科共通

豊田キャンパス

〒470-0393
 豊田市貝津町床立101 TEL(0565)46-1211<代表>



文学研究科

日本文学・日本語文化専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・専任教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先
 教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

2017
 CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

博士前期（修士）課程

一般選抜……①当日の試験、②出身大学の成績、③その他出願書類（研究計画の内容を重視する）——によって行います。

社会人選抜……①当日の試験、②その他出願書類（研究計画の内容を重視する）——によって行います。

学内特別選抜……別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

※一般選抜・社会人選抜とも、前期日程・後期日程あわせて年2回の受験機会を設けています。ただし、学内特別選抜は年1回（後期日程のみ）の実施となります。

博士後期課程

①当日の試験、②出身大学院の成績、③修士論文等、④その他提出書類（研究計画の内容を重視する）——によって行います。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期（修士）課程

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

入学定員 日本文学・日本語文化専攻 5名
※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。

出願期間 (前期日程) 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月) 消印有効
(後期日程) 2017年 1月23日(月)～ 2月 2日(木)

※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

試験日 (前期日程) 2016年10月 1日(土)
(後期日程) 2017年 2月18日(土)

集合場所 名古屋キャンパス 14号館1階ロビー
集合時間 9:30集合

試験時間	一般選抜 試験時間	10:00～12:00	専門科目
		13:00～14:00	英語
		14:30～	口頭試問
試験時間	社会人選抜 試験時間	10:00～12:00	専門科目
		13:30～	口頭試問

試験科目	専門科目	必修科目	日本語学 日本語学に関する基本的な知識を問うものです。
		選択科目	日本文学……①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 日本語文化…⑥書学 ⑦出版論 ⑧著作権論 日本語学……⑨日本語史 ⑩現代日本語 ⑪比較文学（日中） 専門的な知識を問うものです。 上記11科目の中から、専攻の1科目および専攻以外の任意の1科目の計2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験してください。
		英語	英和辞典持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。
	口頭試問		研究計画を中心とします。

合 否 通 知 発 送 日	(前期日程) 2016年10月11日(火) (後期日程) 2017年 2月28日(火)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入 学 手 続 締 切 日	(前期日程) 第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年10月18日(火) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 (後期日程) 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効	
入 学 辞 退 締 切 日	2017年 3月31日(金) 必着	

博士後期課程

入 学 定 員	日本文学・日本語文化専攻 2名	
出 願 期 間	2017年 1月23日(月)～ 2月 2日(木) 消印有効 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。	
試 験 日	2017年 2月18日(土)	
集 合 場 所 集 合 時 間	名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合	
試 験 時 間	10:00～12:00	専門科目
	13:00～14:00	外国語
	16:00～※	口頭試問 ※開始時刻が早まる場合があります(試験当日に通知)。
試 験 科 目	専門科目	①日本文学 ②日本語文化 ③日本語学 上記3科目の中から、1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験してください。
	外国語	①英語 ②漢文 ③資料解読 上記3科目の中から、1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験してください。 ※英語のみ英和辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。
	口頭試問	研究計画および提出論文を中心とします。
合 否 通 知 発 送 日	2017年 2月28日(火)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入 学 手 続 締 切 日	入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効	
入 学 辞 退 締 切 日	2017年 3月31日(金) 必着	

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのを提出してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票
写 真 票
検定料払込票
宛 名 シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—文学・志願書**
- ②「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ③「推薦書」欄の記入は任意です。なお、推薦書記入者は、博士前期（修士）課程志願者においては出身大学の学部長または指導教員、博士後期課程志願者においては出身大学院の研究科長または指導教員を原則とします。
※中京大学出身者および社会人選抜志願者は推薦書の記入不要。
- ④「修士論文」欄は博士前期（修士）課程修了者のみ、修士論文の題目と概要を記入してください。
なお、作成中の場合は予定を記入してください。
- ⑤「入学後の研究計画」欄は博士前期（修士）課程志願者のみ記入してください。
※博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため入学後の研究計画は記入不要。

証 明 書
そ の 他

博士前期課程
(修士)

卒業証明書
成績証明書
(見込を含む)

一般選抜志願者は卒業証明書と成績証明書、社会人選抜志願者は卒業証明書のみ、いずれも最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

博士後期課程

学位授与証明書
成績証明書
(見込を含む)

最終出身大学院作成のものを提出してください。

論 文

- ①修士論文またはこれに代わる業績。
 - ②学術雑誌・紀要・学会発表論文集等に掲載された業績。
 - ③上記の業績目録（別紙にて提出）。
- ※①は作成途中のものでも可。
※②は該当するものがあれば提出。
※いずれもそのコピーで可。返却はしません。

研究計画書

博士後期課程における研究計画について記載した書類（書式自由、400字詰原稿用紙10枚程度）。

*証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

1. 沿革

1973年国文学専攻修士課程設置

1982年国文学専攻博士後期課程増設。上代・中古・中世・近世・近代の各時代文学専攻および国語教育・漢文学専攻の教授をそろえて発足。

2009年度専攻名を「日本文学・日本語文化」に改称。日本文学のみでなく、広く日本語文化も学べる態勢となる。

2. 開講科目

上代・中古・中世・近世・近代・漢文学（日本文学の分野）、および日本語学、出版論、著作権論、書道（日本語文化の分野）などの科目をそろえる。日本文学はもとより、広く日本語文化に関連した研究に対応できる陣容を整えている。

3. 施設・設備

本学は名古屋・豊田両キャンパスの図書館に約100万冊の図書を蔵している。そのうち文学部・同研究科のある名古屋キャンパスにおける文学・芸術・語学・歴史の図書は17万冊である。大学院増設以来、図書の充実につとめ、特に明治以前の写本・刊本の蒐集では中部地区屈指の蔵書となっている。貴重本や叢書などを写したマイクロ・フィルムも市販されているものは殆ど揃え、院生の要望にこたえている。

4. 資格

博士前期（修士）課程においては、国語および書道の専修免許状を得ることが出来る。国語および書道の1種免許状を取得している者は、大学院に2年以上在学し32単位以上を修得することによって、それぞれの専修免許が与えられる（書道専修免許の取得には、「書道研究・同特殊研究」の修得が必要）。本大学院においては修士の学位を取得すると同時に本学で専修免許状を一括で申請し、修了時に交付している。

5. 進路

博士前期（修士）課程・博士後期課程修了者とも、教育方面への進路が多く、具体的には、大学教員（外国も含む）、短期大学教員、大学研究所員、中学・高校教員などである。また留学生の中には、母国の大学教員になった者もいる。

6. 在籍者数および定員

2016年度は博士後期課程0名、博士前期（修士）課程6名が在籍している。

定員は博士前期（修士）課程が各年度5名、博士後期課程が各年度2名である。

7. 受験者数

2016年度の博士前期（修士）課程の受験者は4名（のべ人数）、合格者3名。博士後期課程の受験者は0名、合格者0名。

8. 学位取得者

学位取得者は、課程博士（文学）8名、論文博士（文学）7名である。

9. 院生による研究活動

大学院と学部には、共通の研究組織として「中京大学文学会」があり、日本文学と日本語文化の発展に寄与している。この学会では毎年、内外の研究者に呼びかけて大会を開いている。なかでも秋の大会では、各分野で活躍する方々に講演をお願いするとともに、さらに本専攻所属の院生たちも、自分の研究成果を発表している。院生たちにとっては大変な労苦だが、この発表によって研究への自覚が生じ、研究者としての自己を点検することにもなる。大会の参加者には、学外からの研究者も多く、中部地区の学会として広く認知されている。また30年以上、学会誌を刊行して研究成果を公表し、学界に貢献しつづけている。

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●文学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 日本文学・日本語文化専攻博士前期課程は、長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移り行く流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を追究している。こうした追究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代の者に伝えてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、上代から現代までの日本文学、日本語、漢文、書道など多様な方面への専門的研究をおこない、日本語や日本文学の研究者や教員、さらには豊かな日本語や文学的教養を有した人材の社会への輩出を図る。
- (2) 日本文学・日本語文化専攻博士後期課程は、日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながら、その普遍的な意義を追究してゆく。こうした追究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置づけてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、専攻する各分野の文献や原典を正確に解析する高度な能力を錬磨してゆき、広範な視野から日本の文学や言語の価値を判断しうる研究者等の社会への輩出を図る。

専任教員組織

文学研究科長 福井佳夫

博士前期課程 (修士課程)

専任教授	後藤英次	日本語日本文学研究・同特殊研究
〃	酒井敏	日本語日本文学研究・同特殊研究
〃	佐藤隆★	日本語日本文学研究・同特殊研究
	徳竹由明	日本語日本文学研究・同特殊研究
〃	柳沢昌紀	日本語日本文学研究・同特殊研究
〃	浅岡邦雄★	日本語文化研究・同特殊研究
〃	甘露純規	日本語文化研究・同特殊研究
〃 准教授	宮内佐夜香	日本語文化研究・同特殊研究
〃 教授	大池茂樹	書道研究・同特殊研究
〃	福井佳夫	漢文学研究・同特殊研究

博士後期課程

専任教授	酒井敏	日本語日本文学研究・同特別研究
〃	佐藤隆★	日本語日本文学研究・同特別研究
〃	柳沢昌紀	日本語日本文学研究・同特別研究
〃	浅岡邦雄★	日本語文化研究・同特別研究
〃	福井佳夫	漢文学研究・同特別研究

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

★は在学期間中に指導教員を変更する予定があります。詳細は大学院事務課までお問い合わせください。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
GOTO, Eiji 後藤英次 日本語学 Japanese Philology	専攻分野は日本語学（日本語史）。主に中古～近世の変体漢文（公家日記等に見られるもの。和化漢文、記録体ともいう）の語彙・語法・文体について調査・研究を進めている。変体漢文の語彙・語法の共時的変種、通時的变化、また、その和漢混淆文（軍記や説話等）への影響の解明等が、目下の課題である。
SAKAI, Satoshi 酒井敏 近代文学 Modern Literature	もととの専攻分野は、森鷗外を中心とする明治・大正時代の文学の研究であり、今日までの研究業績の中核をなす。現在では、新美南吉を中心とする近現代の児童文学・文化、メディア研究なども含め、漫画やライトノベルにも及ぶ近現代の文学・文化を幅広く研究対象としている。 （参考）『森鷗外とその文学への道標』（新典社）、『鷗外近代小説集』第6巻（共編・岩波書店）、『森鷗外と美術』（共編・双文社、編集長）、『〈東海〉を読む』（共編・風媒社、編集長）、『メディアの中の子ども』（共編・勁草書房）他
SATO, Takashi 佐藤隆 上代文学・万葉集 Japanese Ancient Literature (Man'yo-shu)	日本文学の中の上代文学は、韻文学と散文学とに大別できるが、専攻分野としては、特に韻文学の代表である『万葉集』を中心とする。現在力を注いでいるのは、後期万葉の代表歌人である大伴家持や大伴坂上郎女についてである。奈良時代には確立しはじめた歌学についても興味を持って研究している。 （参考）『大伴家持作品論説』（おうふう）、『大伴家持作品研究』（おうふう）、『東海の万葉歌』（おうふう）
TOKUTAKE, Yoshiaki 徳竹由明 日本中世文学 Japanese Middle period Literature	専攻分野は、もともとは『平家物語』、『義経記』等の軍記物語及び伝承文芸であったが、最近はお伽草子や寺社縁起類にも興味を持っている。特定のテキストを読み込むというよりは、ある人物や寺社等に纏わる伝承が、時間の経過や取り巻く環境の変化によってどのように変容していくかを考察することに興味がある。
YANAGISAWA, Masaki 柳沢昌紀 近世文学 Japanese Edo period Literature	専攻分野は、近世文学および板本書誌学。特に仮名草子や『信長記』『太閤記』等の近世軍書を中心に伝本調査を行いつつ、個々の作品の読みの可能性を探っている。また、近世前期の出版書肆の動向にも関心を持ち、書物が生産され、流通してゆく過程の諸相を明らかにすべく、研究を進めている。 （参考）『仮名草子集成』40巻、43巻、45巻、49巻（いずれも共編） 『江戸時代初期出版年表』（共編）
ASAOKA, Kunio 浅岡邦雄 出版論 Study of Publishing	近代日本の出版史・出版文化全般を研究対象としている。最近では、著者と出版社との経済・権利関係の諸相について、および出版法制とそれに関連する検閲の動向について研究を進めている。出版物が読者に流通するまでの過程における諸問題を、実証的に解明することをめざしている。 （参考）『明治の出版文化』（臨川書店）2002年、『日本出版関係書目—1868-1996』（日本エディタースクール出版部）2003年、『〈著者〉の出版史』（森話社）2009年
KANRO, Junki 甘露純規 著作権論 Study of Copyright and Plagiarism	著作権と盗作事件について、文化的背景を参照しながら研究を行なっている。関連する研究領域は、文学研究・出版研究・法制史研究と多岐にわたる。 （参考）『剽窃の文学史』（森話社）2011年

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
MIYAUCHI, Sayaka 宮内 佐夜香 現代日本語学 Present-day Japanese Linguistics	日本語の接続表現が主な研究対象。特に逆接表現形式の通時的変化について、形態、機能、文体等さまざまな観点から記述し、実証的な解明を目指す。近世以降の文献（現代も含む）を調査資料としており、近年整備されつつある日本語の言語コーパス（電子的な日本語データベース）を利用して、接続表現形式の実態の計量的な調査も進めている。
OIKE, Shigeki 大池 茂樹 書道 Calligraphy	漢字書道を専門としているが、仮名についても研究する。実技実践を踏まえた上で、書道の歴史・理論およびその周辺の学にも及びたい。また、書道教育についても考える。（書道専修免許状取得予定者は履修してほしい。）
FUKUI, Yoshio 福井 佳夫 漢文学 Chinese Literature	中国六朝期の文学を研究しているが、この時期の文学が日本の上代・中古に強い影響を与えた関係で、日中の文学交流にも関心を寄せている。具体的にいえば六朝の四六駢儷文とそれを模した日本上代の漢文学、さらに六朝志怪とそれを模した日本靈異記などの文学交流である。最近では、唐代伝奇小説の『広異記』を院生と一緒に講読しながら、この書が日本へ与えた影響を考察している。 (参考)『六朝美文学序説』、『六朝の遊戯文学』、『六朝文体論』（いずれも汲古書院）

国際英語学研究科

国際英語学専攻【修士課程】

英米文化学専攻【修士課程】

掲載内容

1. 選抜方法
2. 入学定員・試験日程・試験科目等
3. 出願書類
4. 研究科概要および特色・専任教員組織
5. 教員の研究分野の紹介

出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学
手続等については「[研究科共通ページ](#)」を参照してください。

出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

国際英語学専攻のみ2017年度秋学期入学試験を実施します。2017年度秋学
期入学の募集要項は2017年4月公表予定です。

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

2017
CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

入学者の選抜は、①当日の試験、②出身大学・大学院の成績、③その他提出書類によって行います。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

国際英語学専攻 修士課程

入学定員	国際英語学専攻 5名 ※上記定員は2017年度秋学期入学試験の募集定員との合算人数です。
出願期間	前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月) 後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	前期日程 2016年10月 1日(土) 後期日程 2017年 2月11日(土)
集合場所 集合時間	名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合
試験時間	10:00～12:00 国際英語学(辞書等の持込は一切不可) 13:30～15:00 英語(辞書等の持込は一切不可) 15:30～ 口頭試問
試験科目	①国際英語学: 英語学、社会言語学、外国語教育学、地域研究などの基本的知識の有無を見るものです。 ②英語: TOEFLスコア88点(iBT基準)以上またはTOEICスコア800点以上または英検準1級以上の者は受験を免除します。 ③口頭試問: 志望領域の関心と学識、入学後の研究計画などについて試問を行います。
可否通知 発送日	前期日程 2016年10月11日(火) 後期日程 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入学手続 締切日	前期日程 第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年10月18日(火) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 後期日程 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着

英米文化学専攻 修士課程

入学定員

英米文化学専攻 3名

出願期間

○前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月)

消印有効

○後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木)

※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

試験日

○前期日程 2016年10月 1日(土)

○後期日程 2017年 2月11日(土)

集合場所
集合時間

名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合

試験科目・
時間等

10:00～12:00 英語(電子辞書を含め、辞書持込可)

※ TOEFL スコア173点(CBT基準)/500点(PBT基準)/61点(iBT基準)以上または
TOEIC スコア700点以上または英検準1級以上の者は、英語の試験を免除します。

13:30～ 口頭試問

合否通知
発送日

○前期日程 2016年10月11日(火)

合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

○後期日程 2017年 2月21日(火)

入学手続
締切日

○前期日程 第一次入学手続(入学金の納入のみ)

2016年10月18日(火)

最終入学手続(授業料の納入および手続書類送付)

2017年 3月14日(火) 消印有効

○後期日程 入学手続(入学金・授業料の納入および手続書類送付)

2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退
締切日

2017年 3月31日(金) 必着

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票
写 真 票
検定料払込票
宛 名 シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—国際英語学・志願書**

〈国際英語学専攻の場合〉

- ②「卒業論文または修士論文」欄には、卒業論文または修士論文の題目と概要（400字程度）を記入してください。なお、作成中の場合は予定を記入してください。別紙（A4判用紙）で提出する場合は記入不要です。
卒業論文等を作成していない場合はその旨を記入してください。
- ③「入学後の研究計画案」欄には、研究計画や研究したい内容を400字程度にまとめて記入してください。別紙（A4判用紙）で提出する場合は記入不要です。

〈英米文化学専攻の場合〉

- ④「卒業論文または修士論文」欄には卒業論文または修士論文の題目と概要（400字程度）を記入してください。なお、作成中の場合は予定を記入してください。別紙（A4判用紙）で提出する場合は記入不要です。
卒業論文等を作成していない場合は研究計画書を提出してください（「証明書その他」の項参照）。

証 明 書
そ の 他

卒業証明書
成績証明書
(見込を含む)

最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

検定試験証明書

「英語」試験の免除を希望する者は、各検定試験の成績証明書（コピー可）を提出してください。

〈英米文化学専攻のみ〉

志望理由書

当専攻を志望する理由をまとめて記入してください（A4判用紙・800字程度）。

卒業論文
(修士論文)
研究計画書

卒業論文もしくは修士論文、または研究計画書（A4判用紙・2,000字程度）のいずれかを提出してください。
※いずれもそのコピーで可。返却はいたしません。

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

国際英語学研究所 国際英語学専攻 修士課程

概要および特色

1. 沿革

1966年4月に設立された文学部英文学科を改組転換し、国際英語学部が国際英語学科と英米文化学科を擁して2002年4月に設立された。2006年3月にその第1期生を送り出すのを期に、文学研究科英文学専攻を改組転換し、国際英語学研究所を開設することとなった。本研究所は国際英語学専攻と英米文化学専攻の2専攻で構成されている。

2. 専門分野・教員組織

国際英語学専攻は、国際英語学、異文化間コミュニケーション、国際英語教育学の3つの主分野を核にして構成され、国際社会で活躍できる高度な知識と能力を有する人材の育成を目指している。教育組織は、専任教授・准教授・講師を中心に構成されていて、多彩な研究と総合的な研究指導を展開している。

3. 教育理念およびカリキュラム

英語が世界に広まり「国際共通語」とまで言われる現在、英語を使う非英語母語話者は英米などの母語話者の数倍に達し、様々な英語変種を生み出している。それに伴い、英米をはじめとする英語圏の英語も変種の一つと考える新しい国際英語の概念が注目されている。国際英語学専攻では、この国際英語論の更なる理解を深め、様々な分野で活躍できる人材の育成を基本的な目的としている。

教育課程は、「国際英語学特殊演習」の研究科目の他、「国際英語学」、「言語政策」、「国際英語教育学」、「異文化理解」、「早期英語教育」、「社会言語学」などの多彩な研究教育科目で構成されている。

4. 施設・設備

中京大学図書館は、名古屋、豊田両キャンパスで約100万冊の図書を所蔵している。人文系の図書は約20万冊で、言語学、英語学、社会学関連の図書も充実しており、研究に資するようになっている。

5. 入学時期

国際英語学専攻では春学期からだけでなく秋学期からの入学も可能である。前期日程で行われる入試が秋学期入学に対応している。学年暦が Semester 制であることや、外国の大学修了者の受験を考慮した入学システムを採用し、自己の研究計画に合った入学時期を選択することができるようになっている。

6. 院生の研究活動

大学院生は、それぞれの専攻とする分野を定めて研究を行い、機会を得てその成果を発表することが期待されている。特に国際英語学専攻では、国際英語学科の組織をも含む「中京大学国際英語学会」と称する研究機関を組織していて、研究発表の機会を定期的に設けている。また、院生の学術論文の公刊も積極的に勧めている。更に、世界国際英語学会、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会等の学外の学会に所属し、積極的な学会活動を行うよう奨励している。

7. 課程修了後の進路

高度な英語力を有する国際人、企業人、教育従事者を社会に送り出すことを想定している。具体的な進路としては、国連機関、多国籍企業、NGO、NPO等の外務省外郭団体、観光・旅行業関係、日本語教師、海外の日本人学校教員、外国人研修生指導員などを想定している。また、英語専修免許の資格を取得させ、国際英語の視点に立った英語教育者を育成し、さらに現在既に英語教育に携わっている教師を再研修し、現場に送り出すことも想定している。加えて、国際英語学における研究従事者の育成も視野に入れ、博士課程への進学者の研究指導も考慮している。

専任教員組織

国際英語学研究科長 クリストファー・J・アームストロング

修士課程	専任教授	ジェームズ・ダンジェロ	国際英語教育学特論	
	〃	〃	奥村みさ	異文化理解特論
	〃	〃	榎木 薫 鉄也	言語政策特論
	〃	〃	都築 雅子	国際英語学特殊演習
	〃	准教授	リチャード・モリソン★	英語プレゼンテーション特論
	〃	講師	松元 洋介★	英語論文作成法特論
	〃	〃	メリサンダ・ベルコウィッツ★	国際関係学特論

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

国際英語学研究科 英米文化学専攻 修士課程

概要および特色

1. 沿革

2002年4月に文学部英文学科を改組転換して発足した国際英語学部英米文化学科が、2005年度に完成年度を迎えるのを期に、文学研究科英文学専攻に代わり、2006年4月に、英米文化に関する高度専門職業人・企業人、研究員育成の高等教育研究組織として国際英語学研究科英米文化学専攻を設置した。

2. 専門分野・教員組織

組織は、イギリス文化、北米文化等を対象とする地域文化専攻、演劇文化、文化批評等を対象の表象文化専攻、言語デザイン・データ処理等を領域とする言語学専攻、アカデミック・ライティング等の高度英語能力養成を専門とするものを含めた専任教員から構成されていて、英米諸国のみならず環太平洋英語圏諸国における文化、言語・コミュニケーション、地域について多彩な研究、総合的教育・研究指導が行われる。

3. カリキュラム

教育課程は、専門教育科目と研究科目の二領域から構成され、専門教育科目では、基幹科目を7、地域文化科目を6、表象文化科目を4、言語文化科目を6それぞれ開設し、研究科目では、「特殊演習」科目を開設している。二領域は有機的に融合し、論文指導へ発展するよう編成されている。

本専攻のカリキュラムでは、狭義の英米文化研究のみならず、同時に実践的英語能力の向上も目指している。英語圏の地域研究、演劇や批評などの研究や、英米の言語にかかわるさまざまな科目群を開講している。これに加え、英語教育にも力を入れている。文化研究コースでは、文字媒体の他に視聴覚媒体を通して英米文化を多面的に研究することを目指している。また、言語研究コースでは、電子化された膨大な言語資料（BNCなどのコーパス）を駆使して、英語の語法・文法研究や言語使用域の観点からの社会言語学的研究を行う。

当カリキュラムでは、海外グラデュエート・ディプロマ・コース等海外留学を促進するため、高度英語能力向上を図る諸科目を配置したり、海外留学で取得した単位を読み替える（10単位まで）制度を設置している。

4. 施設・設備

国際英語学研究科英米文化学専攻は、文学研究科英文学専攻の所蔵資料の多くを引き継いでいることもあって、特にイギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、スコットランド、アイルランドの文化・文学に関する研究書、雑誌の蔵書が稀覯本を含め極めて豊富である。とりわけ演劇領域におけるシェイクスピアに関する蔵書は、テキスト、研究書、雑誌、関連文化資料等広範囲に及んでいる。

また、19世紀から20世紀アメリカのダイム・ノベルや新聞資料などのマイクロフィッシュも豊富に所蔵されている。

こうした研究資料の他に、英米文化圏で発行された多くの映画資料など、多様な視聴覚資料も整備され、さらに、言語研究および実践的英語能力養成のためのコーパスも利用可能である。また、研究教育サポートのために多彩なデータベースも整備されており、多数のコンピュータの配備、インターネットの利用整備とともに、教育、研究の便宜が多角的に計られている。文化研究の諸分野をカバーするこれらのデータベースソフト以外にも、実際の英語力の練成を目指す学習者のためには、TOEICなど英語資格試験対策のためのオンライン学習システムも整備され、英語運用能力拡充のための対策も整っている。

5. 院生による研究活動

院生は、各自の専攻とする分野に従って独自の研究を行い、その成果を適宜公表する。国際英語学部英米文化学科を含めた「中京大学英米文化・文学会」に参加して、口頭発表を行ったり、学会機関誌『中京英文学』に投稿することが奨励される。

専任教員組織

国際英語学研究科長 クリストファー・J・アームストロング

修士課程	専任教員	氏名	専攻
	専任教授	細川 眞	演劇文化特論
	〃	岩田 託子	イギリス文化研究特論
	〃	足立 公也	言語システム研究特論
	〃	クリストファー・J・アームストロング	北アメリカ文化研究特論
	〃	森 有礼	英米文化学特論
	〃	中川 直志	英米文化学特論
	〃 准教授	杉浦 清文★	比較地域文化特論

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●国際英語学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 国際英語学専攻修士課程は、国際英語の視点に立ち、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野をもつ英語教育者を養成すること、および、そのような英語教育者の養成に自ら貢献しうる国際英語学研究者を育てることを目的とする。また、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。
- (2) 英米文化学専攻修士課程は、国際英語の観点も視野に入れた高いコミュニケーション能力を有するとともに英米文化に関する専門性を持った高度専門職業人・企業人、研究員を養成することを目的とする。文化研究コースでは、旧来の英文学専攻に見られる文学偏重を排し、英米の音楽・映画等の現代文化も題材にして多面的な英米文化研究を目指す。また、言語研究コースでは、実際の言語運用の側面にも配慮した研究・教育を行う。こうした専門教育に加えて、実践的英語運用能力の向上を配慮した科目を配することで高度な専門知識を備えた国際人の養成を目的とする。

<国際英語学専攻>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
James D'ANGELO ジェームズ・ダンジェロ 応用言語学 Applied Linguistics, World Englishes	James D'Angelo's research interests focus on a world-Englishes-informed approach to defining and codifying an Educated Variety of Japanese English, and of identifying pedagogical practices — such as interdisciplinary studies — to help build such a variety. His most recent research is in the area of EIL and English as a lingua franca. He is editor-in-chief of the journal <i>Asian Englishes</i> . (参考) Curriculum and world Englishes: Additive language learning as SLA paradigm, in Low, E.L. & A. Hashim, <i>English in Southeast Asia</i> . John Benjamins. (2012)
OKUMURA Misa 奥村みさ 国際社会学 International Sociology	アジアの英語文化圏におけるポストコロニアリズムの現状について、シンガポールを中心に研究している。現在は、特にシンガポールにおける現代の英語教育と文化的アイデンティティ育成問題に関する研究と植民地時代のヨーロッパ人による現地人教育の歴史的研究の二つの観点から研究を進めている。 (参考) 奥村みさ、郭俊海、江田優子ペギー著、『多民族社会の言語政治学』、ひつじ書房 (2006年)。
ENOKIZONO Tetsuya 榎木 鉄也 社会言語学 Sociolinguistics	インドなど南アジアの①英語変種の記述、②言語政策、③言語選択、④教育制度（特に言語教育）の研究をしている。また、言語や文化の接触と伝播、英語・インド諸語・日本語間の語句の借用関係、多言語学習法等にも関心を持つ。 (参考) 『アジア英語辞典』三省堂（共著）、『事典アジアの英語事情』大修館書店（共著）、『世界の言語政策：第二集』くろしお出版（共著）
TSUZUKI Masako 都築 雅子 語彙意味論・コーパス言語学 Lexical Semantics and Corpus Linguistics	語彙意味論・文法研究および日本人の話す英語のインテリジェンティリティに関する研究を行っている。英語の語彙や構文に関しては、現代英語の電子コーパス（実際の書き言葉や話し言葉をコンピュータ上で利用可能にしたテキストの集合体）を利用し、最近では、コーパスの英語学習や教育への活用にも興味がある。 (参考) 『認知文法論Ⅱ』大修館書店（共著）
Richard MORRISON リチャード・モリソン 英語教育学 Teaching English as a Foreign Language	Richard Morrison's research interests are based around curriculum development and reform. He works closely with teachers in finding the strengths and weaknesses of Japanese English language learners in the university setting, with regards to reading, listening, and speaking. His work centers on improving the English language learning opportunities in the classroom. His classes will be designed to learn about the best ways to promote quality English education in the Japanese English language classroom.
MATSUMOTO Yosuke 松元 洋介 史的統語論 Historical Syntax	生成文法理論に基づき、現代英語のみならず英語史における言語事実の研究を行っている。最近では英語史における前置詞残留の使用拡大、現代英語の不定詞関係節におけるWH句の生起制限を研究対象とする。 (参考) 『言語変化：動機とメカニズム』開拓社（共著）
Melisanda Berkowitz メリサンダ・ベルコウィッツ 文化人類学と国際協力 Anthropology and Development	健康をウェルビーイングとし、その社会・政治的要因をグローバルな視野で探る。特に、国際協力実践において文化相対主義の視点から自然科学をどのように考え、応用するかをテーマに、文化人類学的なフィールド調査やアーカイブ調査を行う。フィールドは、バングラデシュ、フィリピン、日本で、最近では障がい者家族の権利、住民の組織化（community organizing）の事例研究も行う。

<英米文化学専攻>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
<p>HOSOKAWA Makoto 細川 眞 イギリス文学 (シェイクスピア) English Literature (Shakespeare)</p>	<p>主として、イギリス・ルネサンス演劇の W・シェイクスピア研究。シェイクスピア演劇と伝統的文化の関連、現代文化批評との関連に関心が深い。また、イギリス近現代演劇のオスカー・ワイルドや、ハロルド・ピンター等も研究対象としている。 (参考)『虚と実の狭間で—シェイクスピアのディスガイズの系譜—』英宝社</p>
<p>IWATA Yoriko 岩田 託子 イギリス研究 British Literary and Cultural Studies</p>	<p>文学・映画・美術・音楽のみならず、ファッションやインテリアや広告をもふくむイギリス文化を研究対象とする。法改正、経済状況の変化などを視野におさめる。目下は19世紀の啓蒙運動においてエンタテインメントの果たした役割を、禁酒運動における幻灯機上映に探っている。 (参考)『イギリス式結婚狂騒曲』中公新書、『英国レディになる方法』河出書房(共著)</p>
<p>ADACHI Kimiya 足立 公也 英語統語論 English Syntax</p>	<p>研究の中心分野は生成文法に基づく英語の分析であるが、最近では、比較統語論の観点から日英語の、特に動詞の類似性と相違点に強い関心をもっている。また、言語というシステムにおいてルールを操作するという意味で、「ことば遊び」も重要な研究テーマになりつつある。 (参考)『一歩進んだ英文法』大修館書店(共著)、『右方移動と焦点化』研究社出版(共著)</p>
<p>Christopher J. ARMSTRONG クリストファー・アームストロング カナダ地域研究 Canadian Literary and Cultural Studies</p>	<p>I am interested in questions of Canadian identity in literature, film, and other media. A focus of much of my recent work is on regional and multicultural identities in Canada, considered in a historical and social perspective. (参考) “Postcolonial Historicity: Halifax, Region and Empire in <i>Barometer Rising</i> and <i>The Nymph and the Lamp</i>.” <i>Downtown Canada</i>. Eds. Justin Edwards and Doug Ivison. Toronto: U Press, forthcoming in 2005. “Migrant Imaginings and Atlantic Canadian Regionalisms.” <i>Canadian Migration Patterns</i>. Ed. Barbara Messamore. U Ottawa Press, 2002.</p>
<p>MORI Arinori 森 有礼 アメリカ文学 (南部文学) American Literature (Studies of Southern Literature)</p>	<p>ウィリアム・フォークナーを中心として、19世紀以降の南部文学を、小説作品を中心に研究している。特に関心があるのは南部における人種、性差、階級のイデオロギー性と、南部の歴史表象との関連である。また、精神分析を初めとした文学批評理論にも関心があり、非文字媒体を含めた文化的諸現象を、こうした理論的側面から批評する。</p>
<p>NAKAGAWA Naoshi 中川 直志 英語統語論 English Syntax</p>	<p>英語の節構造、とりわけ、tough 構文と呼ばれる、難易を表す形容詞が不定詞節を補部にとる構文について、生成文法理論に基づく共時的・通時的研究を行ってきた。近年では対象を、不定詞節を含む他の構文にまで拡大すると共に、それらの不定詞節に現れるとされる空演算子や PRO などの空範疇の認可についても研究している。</p>
<p>SUGIURA Kiyofumi 杉浦 清文 英語圏ポストコロニアル文学 Postcolonial Literature in English</p>	<p>既成のイギリス文学・文化概念をポストコロニアル研究の視点から再考している。カリブ海地域の文学を研究対象としてきたが、さらに現在では、研究の射程を日本の引揚者の文学にまで押し広げ、かつての植民地主義の「後腐れ」を地球・惑星規模で検証している。 (参考)『ポストコロニアル文学の現在』晃洋書房(共著)、『英語文学の越境—ポストコロニアル／カルチュラル・スタディーズの視点から—』英宝社(共著)</p>

心理学研究科

実験・応用心理学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

臨床・発達心理学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・専任教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

2017
CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

合否判定 選抜にあたっては、次の内容を総合して合否を判定します。

一般選抜

- ①筆記試験…英語、心理学
- ②口頭試問
- ③論文（卒業論文・修士論文・その他）、またはそれに代わる研究成果・研究計画
- ④出身大学（学部・大学院）の成績

社会人選抜

- ①筆記試験…英語、小論文
 - ②口頭試問
 - ③論文（卒業論文・修士論文・その他）、またはそれに代わる研究成果（該当するものがなくても構いません）・研究計画
 - ④出身大学（学部・大学院）の成績
- ※社会人選抜は心理学の基礎を学修済であり、現在、心理学関連の業務に就いている方のリカレント教育を主眼にしています。

博士前期課程(修士)課程

同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

なお、臨床・発達心理学専攻は、入学後に発達心理学領域から臨床心理学領域へ所属を変更することはできません。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期(修士)課程

入学定員	30名	(実験・応用心理学専攻 7名) (臨床・発達心理学専攻 23名)	※上記定員は全試験区分(選抜方式)合算の人数です。
出願期間	前期日程	一般選抜 社会人選抜	2016年 8月18日(木)～ 8月25日(木) 消印有効
	後期日程	一般選抜	2017年 1月10日(火)～ 1月18日(水) ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	前期日程	一般選抜 社会人選抜	2016年 9月10日(土)・11日(日)
	後期日程	一般選抜	2017年 2月 2日(木)・ 3日(金)
集合場所 集合時刻	前期日程	1日目：名古屋キャンパス 3号館別館5階 大学院研修室	9:30集合
	後期日程	1日目：名古屋キャンパス 3号館別館5階 大学院研修室	9:30集合
	※2日目の集合場所・集合時刻は1日目に通知します。		

試験時間	一般選抜	1日目	10:00~12:00	筆記試験／英語
			13:30~15:30	筆記試験／心理学
		2日目	10:00~	口頭試問
			※受験者数により、開始時刻が9:00~に変更になる場合があります（1日目に通知）。	
試験科目	社会人選抜	1日目	10:00~12:00	筆記試験／英語
			13:30~15:30	筆記試験／小論文
		2日目	10:00~	口頭試問
			※受験者数により、開始時刻が9:00~に変更になる場合があります（1日目に通知）。	
試験科目	一般選抜	①筆記試験／英語：心理学英語文献の読解力を試すものです。 ※英和辞典持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込不可）。		
		②筆記試験／心理学：研究科共通問題と領域固有問題により構成されます。 研究科共通問題は心理学全般にわたる基本的学識、領域固有問題は各専門領域に特化した基礎知識を試すものです。		
		③口頭試問：志望領域への関心と学識、入学後の研究計画などについて、志望領域の教員が中心になって試問を行います。		
	社会人選抜	①筆記試験／英語：英語文献の読解力を試すものです。 ※英和辞典持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込不可）。		
		②筆記試験／小論文：志望領域に関する課題について専門的知識や論述能力を試すものです。		
		③口頭試問：志望領域への関心と学識、入学後の研究計画などについて、志望領域の教員が中心になって試問を行います。		
合否通知 発送日	前期日程	一般選抜 社会人選抜	2016年 9月21日(水)	
			合格者・不合格者とも通知書を郵送します。	
	後期日程	一般選抜	2017年 2月13日(月)	
入学手続 締切日	前期日程	第一次入学手続（入学金の納入のみ） 2016年 9月28日(水)		
		最終入学手続（授業料等の納入および手続書類送付） 2017年 3月14日(火) 消印有効		
	後期日程	入学手続（入学金・授業料等の納入および手続書類送付） 2017年 3月14日(火) 消印有効		
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着			

博士後期課程

入学定員	6名	(実験・応用心理学専攻 3名) (臨床・発達心理学専攻 3名)
出願期間	2017年 1月10日(火)～ 1月18日(水) 消印有効 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。	
試験日	2017年 2月 2日(木)・ 3日(金)	
集合場所 集合時刻	1日目：名古屋キャンパス 3号館別館5階 大学院研修室 9:30集合 ※2日目の集合場所・集合時刻は1日目に通知します。	
試験時間	一般選抜	1日目 10:00～12:00 筆記試験／英語
		13:30～15:30 筆記試験／課題論述
		2日目 10:00～ 口頭試問
		※受験者数により、開始時刻が9:00～に変更になる場合があります(1日目に通知)。
試験科目	①筆記試験／英語：課題研究を行う上で必要な専門書(英語)の読解力を試すものです。 ※英和辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込不可)。 ②筆記試験／課題論述：心理学的問題を総括的に論じる力量を評価するものです。 ③口頭試問：自身の研究課題に即して今後の展開を中心に試問を行います。	
合否通知 発送日	2017年 2月13日(月) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。	
入学手続 締切日	入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効	
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着	

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票
写 真 票
検 定 料 払 込 票
宛 名 シ ー ル

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—心理学・志願書**
- ②「学部・大学院在学時指導教員名」欄は、フルネームを記入してください。
- ③「入学後の研究計画案」欄については、博士前期(修士)課程志願者のみ記入してください。別紙(A4判用紙)で提出する場合は記入不要です。

証 明 書 他

博士前期課程(修士)	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学作成のものを提出してください。 ※大学院を修了した者および修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。
	論 文	<p>【一般選抜志願者】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①卒業論文あるいはこれに代わる論文(必要に応じて図や表を含めてよい)を提出してください。 ②提出論文には別紙にて要約(1,500字程度)を添付してください。 ③前期日程志願者のうち、2017年3月卒業見込で卒業論文未完の者は、別紙にてその論文の概要(2,000字程度)を提出してください。 ④卒業論文を作成していない場合は、別紙にその旨を記入し提出してください。 <p>※いずれもそのコピーで可。返却はいたしません。</p> <p>【社会人選抜志願者】</p> <p>参考資料として、卒業論文または大学卒業後に作成した論文等があれば、その要約(1,500字程度)を提出してください。 ※コピーで可。返却はいたしません。</p>
	出願理由書	社会人選抜志願者のみ提出してください(A4判用紙、書式自由、1,500字程度)。
博士後期課程	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学院作成のものを提出してください。
	論 文	<ol style="list-style-type: none"> ①修士論文またはこれに代わる業績(修士論文作成中の場合は修士論文要旨、字数指定なし)。 ②学術雑誌・紀要・学会発表論文集等に掲載された業績(該当するものがある場合のみ提出)。 ③上記の業績目録(別紙にて提出)。 <p>※いずれもそのコピーで可。返却はしません。</p>
	研究計画書	博士後期課程における研究計画について記載した書類(A4判用紙、書式自由、4,000字程度)。

*証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類(戸籍抄本等)も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票(写し)」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

1. 経緯

本学では、1966(昭和41)年4月、文学部に心理学科が開設され、1971(昭和46)年に大学院文学研究科心理学専攻修士課程、1978(昭和53)年に同専攻博士後期課程が置かれて、心理学教育・研究体制が整備されました。そして、2000(平成12)年度の心理学部、2002(平成14)年度の心理学研究科の設置により、新たな展開の段階に入りました。

2. 組織

心理学研究科には、「実験・応用心理学」と「臨床・発達心理学」の2専攻があります。それぞれの専攻には、現代心理学の主要な領域である実験・応用・臨床・発達の4系を専攻する専任教員が配置され、さらに兼任講師および兼任講師の協力をも得て、多岐にわたる教育研究活動が行われています。

3. 教育理念およびカリキュラム

誕生以来著しい発展を遂げてきた心理学は、現在では多くの領域に分化してそれぞれ固有の課題達成をめざしています。しかしながら、“心理”は複雑であり、その解明には異なる領域間の連携協力が欠かせませんし、それなくして心理学が真の学術的・社会的貢献を果たすことはできません。

本研究科の博士前期(修士)課程では、領域横断型の問題を扱う授業科目(研究科共通科目および専攻共通科目)と各領域に特化した授業科目(領域固有科目)の双方を設け、カリキュラム構成をいっそう明確にしました。それによって、学問体系における心理学の位置づけやその特徴など現代心理学の全体像を把握するとともに、領域固有の理論や方法を理解して各自の課題研究を展開できるように指導が行われます。また、博士後期課程では、博士(心理学)学位取得に向けた課題研究指導を通じ、高度の専門性を具えた学術研究を担う人材の養成をめざしています。

本研究科は、明確な問題意識と旺盛な知的探究心をもつ人たちの入学を歓迎します。

4. 昼夜開講制

近年、現職者など社会人の大学院入学希望者が増えていますが、それに応じるために博士前期(修士)課程に限って社会人を受け入れ、特に有職者の履修を考慮して昼間(第1～5時限)と夜間(第6・7時限:18:20～21:30)の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施しています。

ただし、課程修了の要件に加えて臨床心理士の資格を得ようとする場合には、夜間開講の授業だけで所定の単位を充足することが困難です。さらに学外での臨床実習も昼間時間帯に行われ、毎週半日ないし全日をそれに費すことになる場合もあります。これらの点をあらかじめ承知しておいてください。

5. 修了要件

博士前期(修士)課程を修了するには、所定の単位を修得するとともに修士学位論文を提出して審査に合格することが、また博士後期課程を修了するには、所定の単位を修得するとともに博士学位論文を提出して審査に合格することが、それぞれ要件となります。

6. 入学定員および志願状況

入学定員は、博士前期(修士)課程が30名、うち実験・応用心理学専攻7名、臨床・発達心理学専攻23名です。なお、各専攻の領域別定員については特に定めていませんが、臨床・発達心理学専攻(定員23名)については、臨床心理学領域15名、発達心理学領域8名を目途とします。また、博士後期課程は6名で、両専攻それぞれ3名となっています。

参考までに、最近数年間の入学試験出願者数は、一般選抜と社会人選抜を合わせて40～50名程度で、全国各地の大学等出身者が受験しています。

7. 課程修了後の進路

社会的状況の影響を受けて就職には厳しさがともないますが、過去の課程修了者はそれぞれの専攻に応じて社会の多方面で活躍しています。

なお、本研究科臨床・発達心理学専攻のうち臨床心理学領域は、日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士養成第一種指定を受けています。従って博士前期（修士）課程を修了した年に同協会が実施する臨床心理士の資格試験を受けることができます（専門性が特化されるため、入学後に発達心理学領域から臨床心理学領域へ所属を変更することはできません）。

8. 施設・設備

心理学部・心理学研究科は、名古屋市内の交通至便の地「八事」にある都市型の名古屋キャンパスに設置されています。大学院生には共同研究室、研修室、講義室、演習室、実験室・検査室、資料室・資料解析室が設けられており、附属図書館や情報センターなど全学施設も利用できます。

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●心理学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 実験・応用心理学専攻博士前期課程は、基本的心理過程に関する学識を有し、その応用により快適で安全な人間環境系の設計に寄与する専門の実務者又は学術研究者の養成を目的とする。実験心理学領域では、実験・測定・解析等基礎と応用を繋ぐ多様な方法に精通した人材を養成し、応用心理学領域では、基礎研究の成果を踏まえ、現実的諸問題の解決を可能にする心理技術を修得し、社会的要請に応じて専門の実務に従事する人材を養成する。
- (2) 実験・応用心理学専攻博士後期課程は、人間の基本的な心理過程を解明するとともに、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究・教育者又は高度専門の実務者の養成を目的とする。実験心理学領域では、人間の基本的心理過程を解明する先端的研究を推進する人材を養成し、応用心理学領域では、現実的諸問題の解決を可能にするための心理技術の高度化を行うとともに、社会的要請に応じて諸問題を解決する人材を養成する。
- (3) 臨床・発達心理学専攻博士前期課程は、心理学全般にわたる広い学識を有し、適応事象の基本を身につけた専門の実務者又は学術研究者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、心理的適応の困難な個人または集団に対し適切な援助を行う人材を養成し、発達心理学領域では、重要な発達研究法である観察・面接・質問紙調査等を駆使した行動の発達過程の追跡及び分析を通して、現実社会で生起する諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (4) 臨床・発達心理学専攻博士後期課程は、人間全般にわたる広い学識を有し、適応過程を解明するとともに、適切な援助を与えることのできる学術研究・教育者又は高度専門の実務者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、適応、人格、心理査定等に関する基礎的研究及び臨床事象に関する研究に従事するとともに、適切な心理臨床を行う人材を養成し、発達心理学領域では、人間の生涯にわたる発達を体系的に解明するとともに、発達の諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (5) 前各号の目的を達成するため、両専攻・各領域の連携及び協力を推進する。

博士前期（修士）課程

担当領域	職	氏名	主要研究テーマ
実験心理学	教授	鬢 櫛 一 夫	視覚のメカニズム
〃	准教授	高 橋 康 介	認知心理学、認知科学、認知神経科学
応用心理学	教授	向 井 希 宏	産業心理、技能習熟
〃	〃	尾 入 正 哲	環境心理学、組織と安全
〃	准教授	松 本 友 一 郎	組織心理学、職場の人間関係
臨床心理学	教授	坂 井 誠 *	行動療法、認知行動療法
〃	〃	永 田 法 子 *	学校教育臨床、心理療法
〃	〃	神 谷 栄 治 *	心理アセスメント、心理面接
〃	〃	馬 場 史 津 *	心理アセスメント、心理療法
〃	准教授	明 翫 光 宜 *	発達障害、心理アセスメント、心理療法
発達心理学	教授	水 野 里 恵	発達心理学、気質、パーソナリティ
〃	〃	小 島 康 生	家族発達行動学
〃	准教授	川 島 大 輔	生涯発達心理学、死生学、自殺予防学

*…臨床心理士有資格者

※上記は、2016年5月現在の教員組織です。

博士後期課程

担当領域	職	氏名	主要研究テーマ
実験心理学	教授	鬢 櫛 一 夫	視覚のメカニズム
〃	准教授	高 橋 康 介 ★	認知心理学、認知科学、認知神経科学
応用心理学	教授	向 井 希 宏	産業心理、技能習熟
〃	〃	尾 入 正 哲	環境心理学、組織と安全
〃	准教授	松 本 友 一 郎 ★	組織心理学、職場の人間関係
臨床心理学	教授	坂 井 誠 *	行動療法、認知行動療法
〃	〃	永 田 法 子 *	学校教育臨床、心理療法
〃	〃	神 谷 栄 治 *	心理アセスメント、心理面接
〃	〃	馬 場 史 津 *	心理アセスメント、心理療法
〃	准教授	明 翫 光 宜 *★	発達障害、心理アセスメント、心理療法
発達心理学	教授	水 野 里 恵	発達心理学、気質、パーソナリティ
〃	〃	小 島 康 生	家族発達行動学
〃	准教授	川 島 大 輔	生涯発達心理学、死生学、自殺予防学

*…臨床心理士有資格者

★…指導教員として選択できません。

※上記は、2016年5月現在の教員組織です。

【実験・応用心理学専攻】

専攻領域	教員名	研究分野の内容
実験心理学	びん ぐし かず お 鬘 櫛 一 夫	知覚心理学を専攻。両眼立体視、仮現運動および視野闘争について、対応問題という共通の問題構造をモデル化し、実験方法として共通に累積消失時間を測定することで、これらを効率的に検討している。視野闘争において従来考えられてこなかった刺激全体の大きさが対応づけられて視野闘争を起こしていることを示し、これに基づき両眼単一視については両眼対応と単眼系との相互作用を仮定し、両眼単一視に対する新たな理論化を試みている。
	たか はし こう すけ 高 橋 康 介	認知心理学を専攻。関連分野は認知神経科学、認知科学。心理学、脳神経科学の実験を通して心を生み出す脳の仕組みを探求している。現在は錯視や錯覚などの現象を利用して主観的な世界と物理的な世界をつなぐ脳の働きをモデル化することを目指し、文化人類学、霊長類学、計算機科学といった異分野研究者との学際的研究も進めている。研究のキーワード：錯視・アニメシー知覚・時間認知・意識・意思決定・選好形成・食認知・認知の異文化比較。
応用心理学	むか い まれ ひろ 向 井 希 宏	産業心理学を専攻。技能習熟プロセスの解明を行い、動作時間分析法にもとづく詳細な作業行動分析によって、作業者の行動特性、作業への適応過程、動作錯誤の発生メカニズム、効果的な教示方法の検討などを進めるほか、最近では高齢者の作業特性・高齢ドライバーの運転行動特性の把握へと研究を展開している。
	お いら まさ あき 尾 入 正 哲	産業心理学を専攻。特にヒューマンエラー、作業環境の快適性、職場のメンタルヘルスなどに関する実験・調査を行っている。また、リスクテイキング行動、安全文化、環境配慮行動といった、安全と環境に関わる個人差や組織・社会的要因にも注目している。
	まつ もと ともいちろう 松 本 友一郎	組織心理学を専攻。組織における対人ストレスについて研究している。また、対人ストレスそのものだけではなく、職場に存在する他の問題との関連を検討している。たとえば、対人ストレスによって仕事の失敗が増えることはないのか、もしあるとすれば、どのような対人ストレスによってどのような失敗が増えるのか、ということにも関心がある。主に質問紙調査、面接調査、研修を実施している。

【臨床・発達心理学専攻】

専攻領域	教員名	研究分野の内容
臨床心理学	<p>さか い まこと 坂 井 誠</p>	<p>これまで病院臨床に従事してきた関係で、パニック障害や強迫性障害などの不安障害に対する行動療法・認知行動療法を専門としている。また最近では、学校領域、産業領域におけるストレスの問題に興味があり、自律訓練法や社会的スキル訓練などを援用したストレス・マネジメントを研究している。</p>
	<p>なが た のり こ 永 田 法 子</p>	<p>本学着任前は病院臨床に従事し、幼児から成人までを対象として臨床実践を行ってきた。関心の中心は、幼児、児童から青年期の人たちとその家族の問題であり、スクールカウンセラーとしても活動している。ユング心理学を基盤としたイメージ表現や箱庭療法、遊戯療法なども取り組み、臨床場面における関係性に主眼をおいた研究・実践を行っている。</p>
	<p>かみ や えい じ 神 谷 栄 治</p>	<p>心理アセスメント、心理療法面接、心理的支援を実践・研究してきた。アセスメントについては、疾病分類にとどまらない総合的見立てや、パーソナリティ構造の検討を行ってきた。心理療法面接は、力動的立場から、幼児から成人、健常者から重篤なケースへの対応を検討してきた。支援は、犯罪被害者の支援について活動している。</p>
	<p>ば ば し づ 馬 場 史 津</p>	<p>臨床活動の中心は精神科・心療内科などの病院で、主に成人を対象とした心理療法、心理査定に携わってきた。心理療法は力動的な観点から実践しており、心理査定はロールシャッハ・テストおよび描画テストが専門である。特に母子画は、数量的研究に基づく解釈仮説の検討や、臨床群の描画特徴を研究している。</p>
	<p>みょう がん みつ のり 明 翫 光 宜</p>	<p>臨床心理学的援助として自閉症スペクトラム障害の発達支援および家族支援を行ってきた。心理アセスメントでは投映法に関心があり、ロールシャッハ・テストを発達障害の心理アセスメントに活かす研究に取り組んできた。最近では発達障害を対象にした怒り・不安のコントロールプログラムの開発やその介入研究にも取り組んでいる。</p>
発達心理学	<p>みず の り え 水 野 里 恵</p>	<p>乳幼児期の子どもの社会化過程について、発達初期の子どもの気質が母親の心理面やしつけ方略とどのように影響し合うかの観点から実験的観察法・調査法を使用した縦断研究を行ってきた。現在は、発達初期の子どもの気質的個人差を要因に組み込み、自己制御行動の発達過程に焦点を当てた研究を展開している。また、同胞集団でのモラル、一般他者に対するモラルがどのように発達していくかの観点から青年期・成人期に焦点を当てた研究も行っている。</p>
	<p>こ しま やす お 小 島 康 生</p>	<p>家族発達心理学が専門。子どもの誕生や成長に応じて家族関係や親の心理・行動がどのように変化していくかを観察法や質問紙法、面接法などにより調査してきた。最近では、家族ダイナミクスに関する文脈横断的な観察研究に関心がある。また、行政やNPO団体と連携しながら地域に根ざした子育て支援活動を展開することにも力を注いでいる。</p>
	<p>かわ しま たい すけ 川 島 大 輔</p>	<p>生涯発達心理学の観点から、青年期から老年期にわたる死の意味づけと宗教との関係について、インタビューや質問紙を用いた研究を行っている。また医療・教育現場での実践に向けた、自殺予防研究にも携わっている。最近ではエスノグラフィーの手法を用いて、園・学校での教育実践や、震災による喪失と宗教との関わりについて研究を行っている。死や老い、あるいは自殺といった従来の発達心理学ではあまり扱われてこなかったテーマから、多様でゆらぎを含んだ人の発達のかたちを捉えたいと思っている。</p>

社会学研究科

社会学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・専任教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課豊田オフィス TEL：(0565) 46-6141

2017
CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

入学者の選抜は、①当日の試験(筆記試験、口頭試問)、②論文またはこれに代わる業績を記す書類、③出身大学・大学院の成績、④その他出願書類(研究計画の内容を重視する)によって行います。

※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期(修士)課程

入学定員	社会学専攻 5名 ※上記定員は全試験区分(選抜方式)合算の人数です。														
出願期間	前期日程 2016年 8月29日(月)～ 9月 8日(木) 後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効 ※出願する前に、指導を希望する教員に連絡をとることが望ましい。 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。														
試験日	前期日程 2016年 9月24日(土) 後期日程 2017年 2月10日(金)														
集合場所 集合時間	豊田キャンパス 9号館1階ロビー 9:30集合														
試験科目・ 時間等	<table border="1"><tr><td rowspan="3">一般選抜</td><td>10:00～11:20</td><td>英語(英文読解) ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。</td></tr><tr><td>11:40～13:00</td><td>社会学</td></tr><tr><td>14:00～</td><td>口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。</td></tr><tr><td rowspan="3">留学生選抜</td><td>10:00～11:20</td><td>英語(英文読解)または日本語 英語(英文読解)または日本語から1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。 ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。</td></tr><tr><td>11:40～13:00</td><td>社会学</td></tr><tr><td>14:00～</td><td>口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。</td></tr></table>	一般選抜	10:00～11:20	英語(英文読解) ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。	11:40～13:00	社会学	14:00～	口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。	留学生選抜	10:00～11:20	英語(英文読解)または日本語 英語(英文読解)または日本語から1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。 ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。	11:40～13:00	社会学	14:00～	口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。
一般選抜	10:00～11:20		英語(英文読解) ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。												
	11:40～13:00		社会学												
	14:00～	口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。													
留学生選抜	10:00～11:20	英語(英文読解)または日本語 英語(英文読解)または日本語から1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。 ※英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。													
	11:40～13:00	社会学													
	14:00～	口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。													
合否通知 発送日	前期日程 2016年10月 4日(火) 後期日程 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。														
入学手続 締切日	前期日程 第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年10月11日(火) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 後期日程 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効														
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着														

博士後期課程

入学定員 社会学専攻 2名
※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。

出願期間 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効
※出願する前に、指導を希望する教員に連絡をとることが望ましい。
※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

試験日 2017年 2月10日(金)

**集合場所
集合時間** 豊田キャンパス 9号館1階ロビー 9:30集合

試験科目・ 時間等	一般 選 抜	英語
		10:00～11:20
		口頭試問
		12:30～ 提出論文及び研究計画を中心とします。
	留 学 生 選 抜	英語または日本語
		10:00～12:00 英語または日本語から1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること。 ※英和辞典・日本語辞典持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。
		口頭試問
		12:30～ 提出論文及び研究計画を中心とします。

**合否通知
発送日** 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

**入学手続
締切日** 入学手続（入学金・授業料等の納入および手続書類送付）
2017年 3月14日(火) 消印有効

**入学辞退
締切日** 2017年 3月31日(金) 必着

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票
写 真 票
検 定 料 払 込 票
宛 名 シ ー ル

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—社会学・志願書**
- ②「志望指導教員」欄は、「4. 研究科概要および特色・専任教員組織」に記載されている教員の中から選び記入してください。
- ③「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ④「修士論文または卒業論文」欄には、博士前期(修士)課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入してください。なお、作成中の場合は予定を記入してください。別紙(A4判用紙)にて提出する場合は記入不要です。卒業論文等を作成していない場合はその旨を記入してください。
- ⑤「入学後の研究計画案」欄には、博士前期(修士)課程志願者は研究計画や研究したい内容を400～500字程度にまとめて記入してください。別紙(A4判用紙)にて提出する場合は記入不要です。博士後期課程志願者は、次ページ「研究計画書」の指示にしたがって、別紙にて提出してください。

証 明 の 書 他

卒 業 証 明 書
成 績 証 明 書
(見込を含む)

最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者および修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

論 文

博士前期課程(修士)

- ①卒業論文あるいはこれに代わる論文のコピー（卒業論文が数年前のものである場合は、両方提出することができます）。論文内容は、本研究科の専攻内容と著しく関係を欠かないものとします。
- ②卒業論文に代わる論文の場合、その論文は、16,000字前後にまとめたものに限りま。
- ③いずれの提出論文にも1,200～2,000字の要約を付してください。
- ④外国語による卒業論文あるいはこれに代わる論文は、日本語で8,000字程度にまとめた文を添付してください。この場合、要約は不要です。
- ⑤前期日程の志願者のうち、2017年3月卒業見込で、卒業論文未完の者は、その論文の概要(2,000字以上)を提出することによって、上記の論文に代えることができます。
- ⑥外国人留学生志願者の場合も、①～⑤と同様に対応してください。
- ⑦提出論文は、原則として返却はしません。

*証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類(戸籍抄本等)も併せて提出してください。

証 明 書 の 他	博 士 後 期 課 程	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学院作成のものを提出してください。
		論 文	<ul style="list-style-type: none"> ①修士論文あるいはこれに代わる論文のコピー(修士論文が数年前のものである場合は、両方提出することができます)。論文内容は、本研究科の専攻内容と著しく関係を欠かないものとします。 ②修士論文に代わる論文の場合、その論文は、16,000字前後にまとめたものに限りません。 ③いずれの提出論文にも1,200～2,000字の要約を付してください。 ④外国語による修士論文あるいはこれに代わる論文は、日本語で16,000字程度にまとめた文を添付してください。この場合、要約は不要です。 ⑤外国人留学生志願者の場合も、①～④と同様に対応してください。 ⑥提出論文は、原則として返却しません。
		研究計画書	本研究科で研究したい分野、方法、受けた指導について記入してください(A4判用紙、2,000字程度、書式自由)。

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類(戸籍抄本等)も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票(写し)」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

1. 本研究科の沿革と概要

錯綜し変動する現代社会と、そこに生起する社会現象・文化現象を研究対象に据え、社会学を中心としつつも、学問研究の既存の枠組み自体への問いをも含む学際的アプローチを発展させようとするユニークな学部として、中京大学社会学部が新設されたのは1986年4月であった。本研究科は、この学部教育の完成をまって、それに引きつづく専門的な研究力量をもつ人材の育成のための部局として発足する。すなわち、1990年4月に大学院社会学研究科博士前期（修士）課程、1992年4月に同博士後期課程を開設し、ここに「学部から大学院博士後期課程までの一貫教育体制」を実現した。

本研究科は発足以来、新卒者だけでなく、実務経験をもつ社会人や留学生を積極的に受け入れ、修士と博士の学位取得者を研究と実務の第一線に送り出してきた。なかでも、国立・私立の大学等高等教育機関で研究教育のスタッフとして活躍する人材を相次いで輩出していることは特筆されてよい。

2. 教育・研究の内容とその特徴

本研究科の主な教育科目は、さまざまな分野の社会学、教育社会学、社会福祉学、メディア社会論、社会統計学、社会思想史、文化人類学等である、したがって本研究科では、社会学の学識と方法を深く学ぶとともに、環境と人間、メディアと文化、教育と福祉などアクチュアルな諸問題への多角的・複合的なアプローチが可能になる。

この教育研究活動の特色は、提出された修士論文・博士論文のタイトルからも知ることができる。そのいくつかを例示しておこう。

〈修士論文〉

「自閉症スペクトラム障害を有する子どもの母親の語りにおけるスティグマをめぐる社会学的研究」

「『フリーター』問題における『正社員』と『フリーター』の分化要因に関する研究」

「社会階層からみる子ども虐待発生メカニズムの社会学的分析」

「インターネット・コミュニティにおける『ピア・サポート』の可能性」

「人とモノとのフェティシユな関係と逆パノプティコン的共同体 — ゴシック&ロリータ・ファッションの事例から —」

「大学生における動物とのふれあいの実態とメンタルヘルスの関連について」

「オンラインゲームが現実の対人関係に及ぼす影響の検討 — 現実・仮想の両側面から —」

〈博士論文〉

「児童養護施設職員のスキルトレーニングプログラムの開発に関する実証的研究 — 子どものケア体制確立を目指して」

「中国朝鮮族の研究 — 星火村の社会構造と変化 —」

「マダン劇をめぐる韓国文化誌 — 歴史・民衆文化運動・社会的実践 —」

「改革期における中国の『単位保障』に関する研究」

「『声』の自主メディア生成のダイナミクス」

3. 「専門社会調査士」資格対応カリキュラムの整備

本研究科の在立基盤である現代社会学部（2007年4月に社会学部から改組）は、「社会調査士」資格のための教育を実施している。本研究科は、この学部教育と連動して、「専門社会調査士」資格に対応するカリキュラムを設け、その教育を2008年度から開始している。このカリキュラム改定は、修士課程において当該資格の取得を可能にするための措置であるが、同時に理論的な深さと実証性の豊かさを備えた研究の発展を追求する本研究科の研究・教育の充実を促すものになるであろう。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●社会学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、社会学および隣接諸科学の専門知識を深く修得させるとともに、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培うことを目的とする。また、「専門社会調査士」資格の養成のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく研究・教育を重視し、専門的実践的能力および調査研究に求められる倫理性を育成することによって、行政機関、専門機関、企業等において専門的な業務を担当できる人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、社会学の諸領域および隣接諸科学の専門知識を体系的に修得させ、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培うことを目的とする。専門的学識を充実させるための研究指導とならび、調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視し、大学・高等教育機関等の研究・教育専門職をはじめ高度の専門的業務に従事できる人材を養成する。

専任教員組織

社会学研究科長 齐藤尚文

博士前期課程
(修士課程)

専任教授	村上隆★	社会統計学A・B特殊講義・演習
〃	大友昌子★	福祉社会論A・B特殊講義・演習
〃	野口典子	ソーシャルケア論A・B特殊講義・演習
〃	齐藤尚文	社会人類学A・B特殊講義・演習
〃	加藤晴明	メディア社会論A・B特殊講義・演習
〃	小木曾洋司	地域社会学A・B特殊講義・演習
〃	亀山俊朗	社会思想史A・B特殊講義・演習
〃	辻井正次	社会臨床心理学A・B特殊講義・演習
〃	亀井哲也	博物館人類学A・B特殊講義・演習
〃	大岡頼光	福祉社会学A・B特殊講義・演習
〃	成元哲樹	環境・健康社会学A・B特殊講義・演習
〃	松田茂樹	家族社会学A・B特殊講義・演習
〃 准教授	芦川晋	理論社会学A・B特殊講義・演習
〃	伊藤葉子	ソーシャルワーク論A・B特殊講義・演習
〃	松谷満	政治社会学A・B特殊講義・演習
〃	岡部真由美	文化人類学A・B特殊講義・演習
〃	相澤真一	社会史・歴史社会学A・B特殊講義・演習
〃 講師	森田次朗	教育社会学A・B特殊講義・演習

博士後期課程

専任教授	村上隆★	社会統計学A・B・演習
〃	大友昌子★	福祉社会論A・B・演習
〃	野口典子	ソーシャルケア論A・B・演習
〃	齐藤尚文	社会人類学A・B・演習
〃	加藤晴明	メディア社会論A・B・演習
〃	小木曾洋司	地域社会学A・B・演習
〃	亀山俊朗	社会思想史A・B・演習
〃	辻井正次	社会臨床心理学A・B・演習
〃	亀井哲也	博物館人類学A・B・演習
〃	大岡頼光	福祉社会学A・B・演習
〃	成元哲樹	環境・健康社会学A・B・演習
〃	松田茂樹	家族社会学A・B・演習
〃 准教授	芦川晋	理論社会学A・B・演習
〃	伊藤葉子	ソーシャルワーク論A・B・演習
〃	松谷満	政治社会学A・B・演習
〃	岡部真由美	文化人類学A・B・演習
〃	相澤真一	社会史・歴史社会学A・B・演習
〃 講師	森田次朗	教育社会学A・B・演習

★…指導教員として選択できません。
※上記は2016年5月現在の教員組織です。

5

教員の研究分野の紹介

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
MATSUDA, Shigeki 松田茂樹 家族社会学 Sociology of Family	家族社会学を学術的背景にして、少子化対策、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス等に関する実証的研究を行っている。わが国の合計特殊出生率は世界的にみて極めて低く、国の持続に黄信号がともっている。少子化の実態と背景は何かを探り、解決策を考えて提言する研究活動をしている。 (参考)『少子化論—なぜまだ結婚・出産しやすい国にならないのか』勁草書房、2013年。『何が育児を支えるのか—中庸なネットワークの強さ』勁草書房、2008年。
SUNG, Woncheol 成元哲 リスク社会論と環境社会学 Sociology of Environmental Health : A Social Determinants Perspective	地球温暖化、水俣病、四日市公害、所沢のダイオキシン問題、反原発運動といった環境問題からみた現代社会の分析と、それに基づいた環境と健康との関係に関する実証分析を行っている。主に地域社会の凝集性やソーシャルサポートなど環境健康を決める社会的要因の観点から研究している。 (参考) (1)『健康を決める社会的要因の探索：社会疫学への招待』（三恵社）、2008年、(2)「モラル・プロテストとしての環境運動」（長谷川公一編『講座 環境社会学 第4巻 環境運動と政策のダイナミズム』所収）（有斐閣）、2001年、(3)「『リスク社会』の到来を告げる住民投票運動」（『環境社会学研究』第4号）（新曜社）、1998年。
ASHIKAWA, Shin 芦川晋 理論社会学、社会理論 Social Theory	E・ゴフマン等いわゆるミクロ社会学と呼ばれる議論について、N・ルーマンの枠組みを参照にしながら、その理論構成や問題設定を明らかにする作業を行う一方で、その知見をベースにして現代社会につきまとう諸問題（自我、コミュニケーション、親密性等）について理論的な考察をめぐらし、現象を読みとくツールを提供していくこと。 (参考)「他者の体験」（『情状別冊』、2000年）、「社会の零度」（佐藤他編『市民社会と批判的公共性』2004年）、「コミュニケーションにおける「伝達の意図」とその「理解」について」（『社会学年誌』2009年）
OOKA, Yorimitsu 大岡頼光 福祉国家論 Welfare State	少子高齢化が進む中で福祉国家制度を維持していくには、次世代の育成が欠かせない。持続可能な制度を作るためには、どのような「人生前半の社会保障」が望ましいのかを、主に教育投資を中心にして研究している。 (参考)「財政危機下のスウェーデンの教育投資の研究」（『中京大学現代社会学部紀要』第4巻第1号）、2010年、『教育を家族だけに任せない—大学進学保障を保育の無償化から』勁草書房、2014年。
OGISO, Yoshi 小木曾洋司 地域社会学 Community Study	平成の合併以後、地域社会研究の社会的文脈は変化した。国家のセイフティネットとしての役割の後退、それに代わる地方自治体及び地縁団体やNPO法人などの役割の増大の経過において、地域社会がもつ公共性の様々な側面を再発見・評価する流れである。それは国家の公的役割の補完ではなく、自治の主体と内容の創造を意味しよう。 (参考)「地域社会における住民活動から社会権を考える」社会文化学会『社会文化研究』第14号、2012年、「協働の可能性」松田他編著『市民学の可能性』粹出版、2010年。
MATSUTANI, Mitsuru 松谷満 政治社会学、社会意識論 Political Sociology, Social Psychology	政治社会学、社会意識論について、計量的な実証研究に取り組んでいる。主たる目的は、①「伝統—近代」の枠組におさまらない「第二の近代」に適合的な社会意識論の構築、②その枠組にもとづく現代の脱政党的政治現象の解明、である。 (参考)『再帰的近代の政治社会学』（共著）ミネルヴァ書房、2008年、『外国人へのまなざしと政治意識』（共著）勁草書房、2011年。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

MORITA, Jiro

森田次郎

教育社会学、学校社会学
Sociology of Education

「学校」の多様性に関する教育社会学的研究。「オルタナティブ教育」と呼ばれる諸実践、特に現代日本で不登校支援を行うフリースクールの活動を対象に、1) ここでは何が「教育」や学びとみなされ、一斉授業や教科書に代表される既存の学校文化（社会化）のあり方がいかに再構成されているか、2) なぜそうした諸実践が社会的に必要とされるかを考察。

(参考)「現代日本社会におけるフリースクール像再考—京都市フリースクールAの日常の実践から」(『ソシオロジ』第53巻2号, 2008年)、「オルタナティブ・スクールにおける「自由」と「選択」—デモクラティック・スクールMの事例から」(『ソシオロジ』第58巻2号, 2013年)、「社会科・公民科教育法における「社会参画」の可能性—コミュニティ・スクールを事例として」(『京都社会学年報』第21号, 2013年)。

KAMEYAMA, Toshiro

亀山俊朗

シティズンシップ論
Citizenship Studies

グローバル化における仕事や生活、社会や国家の諸問題を、シティズンシップ（権利や義務を伴う市民の地位身分、市民としてのあり方）研究の視点から検討している。フリーター、外国人、女性など労働市場の周辺に置かれがちな人々と、身分は保障されていても過重な労働に就く男性正社員らの問題を、一貫した理論的・歴史的視点で分析する。

(参考)『葛藤するシティズンシップ』(共編著, 白澤社), 2012年、「キャリア教育からシティズンシップ教育へ?」『日本労働研究雑誌』583, 2008年、「フリーターの労働観」太郎丸博編『フリーターとニートの社会学』(世界思想社), 2006年。

AIZAWA, Shinichi

相澤真一

歴史社会学、教育の社会史
Historical Sociology,
Social History of Education

近代化が進展し、教育が浸透していくことにより、人々の意識、生活、社会にどのような変化が起きていくのかを文献資料の解説と社会調査資料の復元から研究を行っている。さらに、教育拡大に関する各国の知見を収集することにより、英語圏で試みられている比較歴史社会学へと展開することを構想している。

(参考)『〈高卒当然社会〉の戦後史』(共著) (新曜社), 2014、『子どもと貧困の戦後史』(共著) (青弓社), 近刊、デイヴィッド・ヴィンセント著, 北本正章監訳『マス・リテラシーの時代』(共訳) (新曜社), 2011。

OTOMO, Masako

大友昌子

社会福祉の歴史
The History of Social Work in
North-East Asian

歴史社会学的アプローチによる研究方法を使って社会福祉研究をおこなっている。研究対象領域は、日本社会福祉史、東アジア社会福祉史、児童福祉施設の歴史的研究。(参考)『植民地社会事業資料集—台湾偏一』(監修) (近現代史料刊行会), 2001年刊、『帝国日本の植民地社会事業政策研究—台湾・朝鮮』(単著) (ミネルヴァ書房), 2007年刊。

NOGUCHI, Noriko

野口典子

高齢者福祉、社会老年学
Social Welfare for the Aged,
Social Gerontology

①高齢者関係施設ケア実践の科学化・標準化をめざしており、ことに要介護状態にある高齢者の医療・看護・介護・福祉実践の統合化とその実践方法に関する研究を中核としつつも、②近年では認知症高齢者とその家族の地域ケアに関する国際比較研究に着手し、認知症の早期ケアをめざす、地域ケア実践モデル開発を自治体との共同で行っている。

(参考)『デンマークの選択—日本への視座』(共著) (中央法規出版), 2013年、『福祉・介護人材確保・養成のグローバル化とその課題』(単著) (中京大学現代社会学部紀要), 2011年、『生活者の視点に立った居住福祉』(単著)『居住福祉学』(有斐閣), 2011年、『日本における高齢者介護問題の表面化の経緯とその対策の評価』(単著)『家族・コミュニティの変貌と福祉社会の開発』(中央法規出版), 2010年。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
ITO, Yoko 伊藤 葉子 社会福祉援助論、障害者福祉 Theory and Practice of Social Work, Social Welfare for people with disabilities	社会福祉実践の共通基盤の枠組みとその要素について。障害を持つ人の自立に向けた地域生活支援のあり方について。なかでも、当事者参加、運営を中心とする支援体制のあり方と実践能力のある専門家としての自己の形成にむけた養成課程および実践のなかでの教育のあり方について。 (参考)『当事者主体を貫く 不可能を可能に一重度障害者、地域移行への20年の軌跡』(共著)(中央法規), 2011年。
KATO, Haruhiro 加藤 晴明 メディア社会研究 Media Society	情報社会・メディア社会に関する理論的・実証的研究。メディアコミュニケーション及び音声メディア(ラジオ)に関する理論的・実証的研究。CMC、電話コミュニケーション、メディア空間、コミュニティ放送、地域メディア等。 (参考)『メディア文化の社会学』(福村出版), 2001年、『自己メディアの社会学』(リベルタ出版), 2013年。
TSUJII, Masatsugu 辻 正次 社会臨床心理学 Social Clinical Psychology	社会システムと発達過程の関連性について発達障害や臨床群にある人の抱える課題から臨床心理学的な検討を加えていく。特に広汎性発達障害の発達支援システムの構築と運営など。 (参考)『発達障害のある子どもたちの家庭と学校』(遠見書房), 2013年、『特別支援教育実践のコツ』(金子書房), 2011年、『楽しい毎日を送るためのスキル』(日本評論社), 2012年、『発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン』(金子書房), 2014年。
MURAKAMI, Takashi 村上 隆 計量心理学 Psychometrics	心理学をはじめとする実証的な方法を用いる社会科学の研究のための統計的手法と、それによって得られる数量的尺度の性質を研究する分野である。さらに、さまざまな分野の研究者と協同して、そうした方法論に依拠した調査研究も行う。特に、因子分析と多重対応分析の心理測定への応用と、技術的な開発が仕事の中心である。 (参考)村上隆 測定の妥当性 日本教育心理学会(編)『教育心理学ハンドブック』(有斐閣) 159-169, 2003. 『非計量多変量解析法』(共著)(朝倉書店), 2011. 数量化Ⅲ類と多重対応分析「社会と調査」9, 48-62, 2013.
SAITO, Hisafumi 斉藤 尚文 社会人類学 Social Anthropology	調査地: グアテマラ共和国、パプアニューギニア、日本 調査テーマ: 開発、医療、親族、まちづくり (参考) 1997. 12. 10 「環境と開発を読む: パプアニューギニアの森林をめぐって」青木 保(他・編)『環境の人類誌』(岩波講座文化人類学第2巻) 岩波書店 pp. 221-245, 1998. 3. 31 We are one flesh: unity and migration of the Yabio. IN Yoshida, Shuji, and Yukio Toyoda (eds.), Fringe Area of Highlands in Papua New Guinea (Senri Ethnological Studies no. 47). pp. 93-112, 1999. 11. 10 「伐採会社は嘘つきだ! パプアニューギニアにおける森林に関する意識向上運動」小柏葉子(編)『太平洋島嶼と環境・資源』(太平洋世界叢書第4巻) 国際書院 pp. 199-227, 2002. 3. 20 (共編)『人から人へ: アジア保健研修所20周年記念誌』アジア保健研修所。

教員名 および 専攻分野**専攻分野の内容**

OKABE, Mayumi

岡部 真由美文化人類学、東南アジア研究
Cultural Anthropology,
Southeast Asian Studies

東南アジア大陸部のタイをフィールドとして、近代化ならびにグローバル化に伴う社会変化と宗教の再編に関する民族誌的研究をおこなっている。具体的には、地域コミュニティの「開発」に取り組む上座部仏教の僧侶たちに着目し、彼らによる新たな社会性や共同性を追求する運動について、フィールドワークにもとづいた調査研究をおこなっている。

(参考) 『「開発」を生きる仏教僧—タイにおける開発言説と宗教実践の民族誌的研究—』 風響社, 2014年, “Beyond Localities: Community Development and Network Construction among the Buddhist Monks in Northern Thailand”, in Pranee Liamputtong (ed.) *Contemporary Socio-Cultural and Political Perspectives in Thailand*, Dordrecht: Springer, pp.83-93, 2014, 「タイにおける開発の進展と僧侶による水平的なつながりの構築—「北タイ・コミュニティ開発僧ネットワーク」を事例として—」 岸上伸啓 (編) 『みんぱく実践人類学シリーズ第7巻 開発と先住民』 明石書店, pp.201-230, 2009年。

KAMEI, Tetsuya

亀井 哲也博物館人類学
Museum Anthropology

南部アフリカ、ンデベレ社会を主なフィールドとした文化人類学、博物館人類学研究。
(参考) Ndebele Decorative Cultures and their Ethnic Identity, 2008, in Yoshida, Kenji & John Mack (eds.), *Preserving the Cultural Heritage of Africa: Crisis or Renaissance?*, UK; James Currey & SA; Unisa, pp.140-151, 「[建国] と壁絵: 南アフリカ共和国ンデベレの事例から」, 2004, 端信行 (編), 『民族の二〇世紀』, ドメス出版, pp.161-184, 「伝統と近代のずれ: ンズンザ・ンデベレの領域」, 2003, 『リトルワールド研究報告』 第19号, pp.23-46。

法学研究科

法律学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
1. 選抜方法 2. 試験科目免除について 3. 入学定員・試験日程・試験科目等 4. 出願書類 5. 研究科概要および特色・専任教員組織 6. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先
教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

1 選抜方法

入学者の選抜は、「当日の試験」・「論文またはこれに代わる業績を記す書類(博士後期課程)」・「出身大学・大学院の成績」・「研究計画書(博士前期(修士)課程においては社会人選抜および学内特別選抜のみ)」・「日本語の学力に関する成績(博士前期(修士)課程の留学生選抜のみ)」によって行います。

※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

2 試験科目免除について

博士前期(修士)課程の①学内特別選抜②留学生選抜③社会人選抜(専門コースのみ) 志願者は一部試験科目が免除されます。

- ①学内特別選抜：一次試験・二次試験(専門科目)とも免除し、口頭試問のみ行う。
- ②留学生選抜：一次試験については日本語会話能力の試験を行う。二次試験以降は一般選抜と同様。
- ③社会人選抜(専門コースのみ)：一次試験を免除する。二次試験以降は一般選抜と同様。

※各選抜方式の出願資格は、研究科共通ページ「4. 出願資格および出願資格審査」を参照してください。ただし、学内特別選抜の出願資格のみ別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』(教学部大学院事務課窓口にて配付)を参照してください。

博士後期課程志願者のうち、本研究科博士前期(修士)課程研究コースより進学する者、その他これと同等の教育課程を修了した者と本研究科委員会において認めた者は専門科目が免除されます。

3 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期(修士)課程

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』(教学部大学院事務課窓口にて配付)を参照してください。

入学定員 法律学専攻 10名
※上記定員は全試験区分(選抜方式)合算の人数です。

出願期間 (前期日程) 2016年 8月22日(月)～ 8月31日(水) 消印有効
(後期日程) 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木)

※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

※法学研究科への志願にあたっては、指導を希望する教員との事前面談を必要とします。出願期間前に期日の余裕をもって大学院事務課へ連絡してください。面談日時等の調整をします。

試験日 (前期日程) 2016年 9月15日(木)
(後期日程) 2017年 2月10日(金)

集合場所 一般選抜・留学生選抜 名古屋キャンパス 9号館1階ロビー 9:00集合
集合時間 社会人選抜 名古屋キャンパス 9号館1階ロビー 12:30集合

コース制について 博士前期(修士)課程には、研究コースと専門コースの2コースがあり、①研究コースは研究者・研究員等を目指す者のため、②専門コースは高度な専門的知識を有する職業人を目指す者のためのコースである。目的のいかんにかかわらず、いずれのコースを選ぶかは志願者の自由である。ただし、社会人選抜に出願する者は専門コースとする。

社会人選抜について 博士前期(修士)課程の社会人選抜は、専門コースにおいて実施する。その修学期間は2・3・4年のいずれかを選択できるが、4年を超えて在学することはできない。

試験科目・時間等

研究コース

一次試験	9:30~11:00	外国語 ①英語 ②ドイツ語 ③フランス語 上記3科目の中から、 母語を除く1科目 を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。ただし、法史学・日本政治史を志望する者は「古文書読解」で代えることができる。 ※英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可(どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。
一次試験の合格発表	12:30(予定)	当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験ができる。
二次試験	13:00~14:30	専門科目 自己の志望する指導教員の専門科目 1科目(志望専門科目)
	15:00~	口頭試問

一般選抜

専門コース

一次試験	9:30~11:00	外国語または論文科目 【外国語】 ①英語 ②ドイツ語 ③フランス語 上記3科目の中から、 母語を除く1科目 を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。ただし、法史学・日本政治史を志望する者は「古文書読解」で代えることができる。 ※英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可(どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。 【論文科目】 自己の志望する指導教員の専門分野と異なる分野から 1科目(志望専門科目以外) を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。
一次試験の合格発表	12:30(予定)	当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験ができる。
二次試験	13:00~14:30	専門科目 自己の志望する指導教員の専門科目 1科目(志望専門科目)
	15:00~	口頭試問

社会人選抜

専門コースのみ

一次試験		免除
二次試験	13:00~14:30	専門科目 自己の志望する指導教員の専門科目 1科目(志望専門科目)
	15:00~	口頭試問

留学生選抜

研究・専門コース共通

一次試験	9:30~11:00	外国語 日本語会話能力(口頭)の試験を行う。
一次試験の合格発表	12:30(予定)	当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験ができる。
二次試験	13:00~14:30	専門科目 自己の志望する指導教員の専門科目 1科目(志望専門科目)
	15:00~	口頭試問

受験において選択できる専門科目および指導教員ならびに論文科目に関する一覧表

専門分野	専門科目・論文科目	指導教員	専門分野	専門科目・論文科目	指導教員	専門分野	専門科目・論文科目	指導教員
憲法	憲法	高田 倫子	商法・企業法	企業法	森 まどか	労働法	労働法	柴田洋二郎
行政法	行政法	*長尾 英彦	企業法	企業法	土岐 孝宏	法史学	法史学	矢切 努
民法	民法	*小林 秀文	知的財産法	知的財産法	小嶋 崇弘	法哲学	法哲学	土井 崇弘
	民法	杉島由美子	刑法	刑法	*加藤佐千夫	国際政治	国際関係論	古川 浩司
	民法	濱崎 智江	刑事手続法等	刑事訴訟法	愛知 正博	政治学	政治学原論	京 俊介
	民法	上田 貴彦	国際法	国際刑事法	愛知 正博	政治史	日本政治史	檜山 幸夫
商法・企業法	企業法	新里 慶一	国際法	国際法	小坂田裕子			

*…指導教員として選択できません。

合 否 通 知 発 送 日	(前期日程) 2016年 9月26日(月) (後期日程) 2017年 2月21日(火)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入 学 手 続 締 切 日	(前期日程) 第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年10月 3日(月) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 (後期日程) 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効	
入 学 辞 退 締 切 日	2017年 3月31日(金) 必着	

博士後期課程

入 学 定 員	法律学専攻 3名 ※上記定員は全試験区分(選抜方式)合算の人数です。
出 願 期 間	2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。 ※法学研究科への志願にあたっては、指導を希望する教員との事前面談を必要とします。出願期間前に期日の余裕を持って大学院事務課へ連絡してください。面談日時等の調整をします。
試 験 日	2017年 2月10日(金)
集 合 場 所 集 合 時 間	名古屋キャンパス 9号館1階ロビー 9:00集合
試 験 科 目・ 時 間 等	<p>9:30～12:30 外国語 ①英語Ⅰ ②英語Ⅱ ③ドイツ語Ⅰ ④ドイツ語Ⅱ ⑤フランス語Ⅰ ⑥フランス語Ⅱ 上記6科目の中から、母語を除く2科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること。科目選択にあたっては、同一言語のⅠ・Ⅱを選択してもよい。なお、Ⅰ・Ⅱは難易度を表すものではない。 ※研究上必要な外国語または言語関連科目に変更することがある。言語関連科目とは「古文書読解Ⅰ・Ⅱ」をいう。 ※英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可(どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。</p> <hr/> <p>14:00～15:30 専門科目 自己の志望する指導教員の専門科目1科目(志望専門科目)または当該教員の指定する専門科目1科目 ※本研究科博士前期(修士)課程研究コースより進学する者、その他これと同等の教育課程を修了した者と本研究科委員会において認めた者は専門科目を免除する。</p> <hr/> <p>16:00～ 口頭試問</p>

一
般
選
抜

9:30~12:30

外国語

- ①英語Ⅰ ②英語Ⅱ ③ドイツ語Ⅰ ④ドイツ語Ⅱ
⑤フランス語Ⅰ ⑥フランス語Ⅱ ⑦日本語Ⅰ ⑧日本語Ⅱ

上記8科目の中から、**母語を除く2科目**を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること。科目選択にあたっては、同一言語のⅠ・Ⅱを選択してもよい。なお、Ⅰ・Ⅱは難易度を表すものではない。

※研究上必要な外国語または言語関連科目に変更することがある。言語関連科目とは「古文書読解Ⅰ・Ⅱ」をいう。

※英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可（どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。

14:00~15:30

専門科目

自己の志望する**指導教員の専門科目1科目（志望専門科目）**または**当該教員の指定する専門科目1科目**

※本研究科博士前期（修士）課程研究コースより進学する者、その他これと同等の教育課程を修了した者と本研究科委員会において認められた者は専門科目を免除する。

16:00~

口頭試問

受験において選択できる専門科目および指導教員一覧表

専門科目	指導教員	専門科目	指導教員	専門科目	指導教員
憲法	高田 倫子	企業法	森 まどか	労働法	柴田洋二郎
行政法	*長尾 英彦	企業法	土岐 孝宏	法史学	矢切 努
民法	*小林 秀文	知的財産法	小嶋 崇弘	法哲学	土井 崇弘
民法	杉島由美子	刑法	*加藤佐千夫	国際関係論	古川 浩司
民法	濱崎 智江	刑事訴訟法	愛知 正博	政治学原論	京 俊介
民法	上田 貴彦	国際刑事法	愛知 正博	日本政治史	*檜山 幸夫
企業法	新里 慶一	国際法	小坂田裕子		

★…指導教員として選択できません。

合 否 通 知
発 送 日

2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

入 学 手 続
締 切 日

入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付)
2017年 3月14日(火) 消印有効

入 学 辞 退
締 切 日

2017年 3月31日(金) 必着

4 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。
- ⑥法学研究科への志願にあたっては、指導を希望する教員との事前面談を必要とします。出願期間前に期日の余裕をもって大学院事務課へ連絡してください。面談日時等の調整をします。

受 験 票
写 真 票
検 定 料 払 込 票
宛 名 シ ー ル

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—法学・志願書**
- ②「課程」、「試験区分」、「在学期間（社会人選抜のみ）」、「コースの選択」欄は、それぞれ該当する個所を○で囲んでください。社会人選抜志願者は、在学期間についても選択してください。ただし、選択した在学期間のいかにかわらず、4年を超えて在学することはできません（長期履修制度については、研究科共通ページ「10. 学費等」を参照してください）。
- ③「志望専門科目」欄、「志望指導教員名」欄は「専任教員組織」のページを参照の上選択し記入してください。
- ④「外国語または論文科目で受験する科目」欄は、受験する科目名を明確に記入してください。博士前期（修士）課程専門コース志願者で一次試験を論文科目で受験する場合は60ページの一覧表を参照して、選択する論文科目名を記入してください。
- ⑤「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ⑥「修士論文または卒業論文」欄には、博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入してください。なお、作成中の場合は予定を記入してください。別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要です。卒業論文等を作成していない場合はその旨を記入してください。
- ⑦「入学後の研究計画案」欄には、研究計画または研究したい内容を400～500字程度にまとめて記入してください。別紙にて研究計画書を提出する場合は記入不要です。

証 明 の 書 他

博士前期課程	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学作成のものを提出してください。 ※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。
	研究計画書 (社会人選抜および 学内特別選抜の志願者のみ)	A4判用紙を使用してください。字数制限はありません(目安は2,000字程度)。社会人選抜志願者は、志願書で選択した在学期間に応じた研究計画を記載してください。
博士後期課程	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学院作成のものを提出してください。
	論文	修士論文またはこれに代わるべき業績およびその要旨（A4判用紙・4,000字以内）を各3部提出してください。 ※いずれもそのコピーで可。返却はしません。 ※外国人留学生で日本語以外の言語によって作成された修士論文を提出する場合は、日本語による論文要旨（A4判用紙・4,000字程度）を併せて提出してください。

*証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類(戸籍抄本等)も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票(写し)」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

5 研究科概要および特色・専任教員組織

中京大学に大学院法学研究科が開設されたのは、1976（昭和51）年のことである。爾来40年余が経過したが、本研究科には本学の卒業生はもとより、全国各地の大学・学部の卒業生、さらには外国からの留学生、社会人などが多数入学し、多くの成果を挙げてきた。すなわち、彼らのほとんどが、弁護士・税理士・社労士・公認会計士・大学教員・高校教員などの専門職を目指し、事実その夢を実現している。

わが法学研究科は、現代社会の多様なニーズに応えるため、1997（平成9）年度に研究科内にコース制を導入した。修士課程（博士前期課程）に設けられた研究者コースと特修コースがそれであった。研究者志願の者はもとより、その他、高度な専門職を目指す者に対しても多様な道を開きたいというのが、そのねらいであった。このコース制からは前述のような優れた成果をあげたが、本研究科においてはさらにその成果を確かなものにするために、2007年度から新たなコース制を採用している。

「研究コース」と「専門コース」からなるコース制の課題は、高度な専門教育の修得を求める今日の社会の期待に、いかに積極的に応えていくかということである。このコース制の注目すべき特長は、「学内特別選抜入試制」と「社会人選抜入試制」という二つの新制度が採用された点にある。前者は、本学法学部の学生のうち特に優秀な学生を対象に、入学前にも本研究科の「科目等履修生（大学院進学奨励学生）」として認める制度である。学部在籍しながら大学院の教育を受けられるというのが、そのメリットとなろう。後者は、社会人を対象に、在学期間選択制の導入によって、高度教育研究の場としての大学院の門戸をより一層開こうとする制度である。わが法学研究科には、開設後まもなく広く社会人に開放し、社会人講座を設けて16年間努力してきた実績がある。この実績のうえに、意欲ある社会人に広く教育研究の場を提供したいというのが、私たちの願いである。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●法学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、本課程の研究教育を通じて、広い視野に立って、法律学及び政治学の精深な学識を受け、研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓説した能力を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。
- (2) 博士後期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、法律学及び政治学について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。

専任教員組織

法学研究科長 檜 山 幸 夫

専任教授	愛知	知正	博	
〃	〃	〃	〃	刑事訴訟法
〃	〃	〃	〃	国際刑事法
〃	〃	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	法哲学
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	〃	〃	〃	日本政治史
〃	〃	〃	〃	国際関係論
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	准教授	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	国際法
〃	〃	〃	〃	政治学原論
〃	〃	〃	〃	知的財産法
〃	〃	〃	〃	労働法
〃	〃	〃	〃	憲法
〃	〃	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	法史学

★…指導教員として選択できません
 ※上記は2016年5月現在の教員組織です。

専任教授	愛知	知正	博	
〃	〃	〃	〃	刑事訴訟法
〃	〃	〃	〃	国際刑事法
〃	〃	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	法哲学
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	〃	〃	〃	日本政治史
〃	〃	〃	〃	国際関係論
〃	〃	〃	〃	企業法
〃	准教授	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	国際法
〃	〃	〃	〃	政治学原論
〃	〃	〃	〃	知的財産法
〃	〃	〃	〃	労働法
〃	〃	〃	〃	憲法
〃	〃	〃	〃	民法
〃	〃	〃	〃	法史学

★…指導教員として選択できません。
 ※上記は2016年5月現在の教員組織です。

6 教員の研究分野の紹介

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
AICHI, Masahiro 愛知正博 刑事法 Criminal Law	広く刑事法全般に関心を寄せているが、とくに国際的な犯罪現象に対する刑事法的な対処のしかたを実体的および手続的に検討する国際刑事法の分野に比重をおいて、研究活動を行っている。犯罪処罰のための国際協力と個人の人權尊重という視角から研究を進めている。なお、 http://openweb.chukyo-u.ac.jp/~aichi/ も参照されたい。
UEDA, Takahiko 上田貴彦 民法 Civil Law	民法のなかでも現在は主として債権法および契約法領域の研究に取り組んでいます。最近になって、伝統的な契約責任論の問題点が多々浮き彫りになってきていますが、その一つである損害賠償をめぐる問題に対して多角的アプローチから再検討を加えることで、体系的な契約責任論の再構築に少しでも寄与できればと思っています。とりわけ現在は、ドイツ債務法との比較法的観点から、費用賠償の問題と契約責任の第三者拡張の問題を中心に研究を行っています。
OSAKADA, Yuko 小坂田裕子 国際法 International Law	国際法のうち、とりわけ国際人権法を研究対象としています。多様な国際社会における普遍的人権基準の可能性と課題に関心を有しており、これまで性的少数者の権利、女性の権利、先住民族の権利などについて、国連や地域の機関で採択された条約の起草過程や実施状況を分析・評価してきました。
KYO, Shunsuke 京俊介 政治過程論 Political Process	政治過程論のうち、政策形成過程の分析に関心をもっています。とりわけ、政治家、官僚、利益集団、あるいは裁判所といった政治アクター間の相互作用が、なぜどのようにして政策の形成に影響を与えているのかを、ゲーム理論等を用いた理論的仮説と事例分析による実証とを組み合わせる研究を行っています。主要研究業績として、『著作権法改正の政治学：戦略的相互作用と政策帰結』（木鐸社、2011年）。
KOJIMA, Takahiro 小嶋崇弘 知的財産法 Intellectual Property Law	知的財産法の中でも、とりわけ著作権法及び標識法（商標法及び不正競争防止法）を研究対象としている。著作権法に関しては、権利制限規定と国際条約の関係、権利処理の円滑化を図るための制度などの研究を進めてきた。標識法に関しては、商標権の保護範囲を拡張する近時の傾向の正当性などについて研究を行っている。研究の方法論としては、主に英米法を対象とした比較法を用いる。
SHIBATA, Yojiro 柴田洋二郎 労働法、社会保障法 Employment and Labor Law, Social Security Law	労働法、社会保障法を研究しております。とりわけ、 ①労働法については、仕事と家庭の両立をはかることができるような働き方や制度、 ②社会保障法については、医療保険における財源と給付の構造、 が現在の関心です。 これらについてフランスを対象とした比較法（制度）研究を行っております。
SUGISHIMA, Yumiko 杉島由美子 民法Ⅳ Civil Law	民法の領域のうち、不法行為の分野を研究対象としています。民法だけでなく特別法上の被害者救済制度（公害健康被害補償制度、医薬品副作用被害救済制度等）にも注目して、民事的な被害者救済はどうあるべきかについて研究しています。また、最近では、消費者法の分野にも関心を持っており、特定商取引法等を研究対象として消費者保護のあり方について研究を進めています。
TAKATA, Michiko 高田倫子 憲法 Constitutional Law	行政裁量論を中心に、法治国家原則にかかわる公法の諸テーマを、ドイツ法と比較しながら研究してきた。その際、戦後の憲法構造の転換と、行政法におけるその理論的受容を、特に分析の視角としている。また、現在では、憲法裁判権をめぐる議論にも関心を寄せており、その憲法上の位置づけについて、歴史的・比較法的研究を進めている。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

DOI, Takahiro
土井 崇弘
 法哲学
 Legal Philosophy

法哲学の中の「現代正義論」を専門分野としている。「自由社会と伝統の両立可能性の探究」というテーマに基づいて、F・A・ハイエクの議論を中心に研究を進めている。これ以外に、日本文化論、生命倫理、法の支配論・立憲主義論などにも関心を持っている。
 (主な著書)『リバタリアニズム読本』(勁草書房、共著)、『リバタリアニズムの多面体』(勁草書房、共著)、『ハイエクを読む』(ナカニシヤ出版、共著)。

DOKI, Takahiro
土岐 孝宏
 企業法
 Corporation Law

商取引法、とりわけ、保険法を主たる研究領域としている。損害保険における損害填補原則(利得禁止原則)、傷害・疾病保険契約における保険事故概念、立証責任、責任開始前発病不担保、危険減少、因果関係、各種の免責条項等について研究を進めている。

NIISATO, Keiichi
新里 慶一
 企業取引法
 Business Law

商法・会社法を中心とする、「企業法」全般を研究範囲としているが、現在は、主に、現代の企業取引における企業取引の決済に関する法の現状と課題について研究している。また、海商法も研究領域としている。

HAMASAKI, Chie
濱崎 智江
 民法I
 Civil Law

民法(財産法)を研究対象としており、とりわけ民法の条文にない制度の解明及び多数当事者の債権関係に特に強い関心を抱いております。民法の条文にない制度である債務引受という制度についてドイツ民法を素材として研究しています。

HIYAMA, Yukio
檜山 幸夫
 日本政治史
 Political History of Japan

日本近代史のなかの明治期政治外交史を中心として、国家戦略論・外交政略論や東アジア国際関係史を研究しているが、なかでも日清戦争史・外地統治政策史(主に台湾統治史)・アジア太平洋戦争史(主に敗戦と戦後のアジアと日本人)・アーカイブス学と歴史記憶の記録化論・戦争記念碑と戦没者慰霊を主として研究している。解明する課題には、国民国家の形成と日本人の民族意識・対外観・国家観があり、方法論的には原史料を基とした実証的研究と諸外国との比較論的研究を用いる。
 (主な著書)『近代日本の形成と日清戦争』(雄山閣)、『日清戦争』(講談社)。

FURUKAWA, Koji
古川 浩司
 国際関係論・境界地域研究
 International Relations,
 Borderlands Studies

もともと近年の日本の多国間外交におけるリーダーシップに関心を寄せていたが、現在は主に日本の国境政策や人権外交などに関する研究を進めている。
 研究業績をはじめ詳細は、<http://openweb.chukyo-u.ac.jp/~kojif/> を参照のこと。
 (主な著書)『日本の「国境問題」[現場から考える]別冊「環」19』(共著:藤原書店)、『安全保障論—平和で公正な国際社会の構築に向けて』(共著:信山社)。

MORI, Madoka
森 まどか
 企業法
 Corporation Law

従来から、会社法の領域のうち、企業金融、特に社債に関する法的諸問題(社債権者と株主の利害調整、社債管理者の義務・権限等)を研究対象としてきた。現在はその他に、企業統治の分野(債権者保護一般)についても関心を寄せ研究を行っている。

YAGIRI, Tsutomu
矢切 努
 法史学
 Legal History

法史学のなかでも、「日本近現代法史学」を専門分野とし、特に、近現代日本の「地方自治」を研究対象としています。これまで、戦前日本における「国家による地方統治」のあり方という主題を設定して、この主題を、法的視点と社会経済的視点との両方から考察を進めてきました。その理由は戦前日本の地方統治のあり方が、現代日本の地方統治のあり方と深く関連しあっているからです。したがって、研究の関心は現代にもあります。最近では、「国家による地方統治」のあり方を解明するという私の研究主題において重要な、税財政史の分野、特に、現在その是非が問われている地方交付税制度に関心をもって研究を進めています。

経済学研究科

経済学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

総合政策学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
1. 選抜方法 2. 入学時期と修了要件 3. 入学定員・試験日程・試験科目等 4. 出願書類 5. 研究科概要および特色・専任教員組織 6. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

経済学専攻のみ2017年度秋学期入学試験を実施します。2017年度秋学期入学の募集要項は2017年4月公表予定です。

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

1 選抜方法

入学者の選抜は、①当日の試験、②論文またはこれに代わる業績を記す書類（博士後期課程）、③出身大学および大学院の成績によって行います。

※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

※外国人留学生は一般選抜、留学生選抜、学内特別選抜のいずれかを志願してください。

※学内特別選抜については、別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2 入学時期と修了要件

経済学専攻

経済学専攻の博士前期（修士）課程、博士後期課程とも、入学を秋学期（9月）と春学期（4月）の年2回設定しています。博士前期（修士）課程の修了は、2年以上在学し、所定の単位を修得し必要な研究指導を受け修士論文の審査および最終試験に合格することを要件とします。博士前期（修士）課程修了者には、修士（経済学）の学位が授与されます。

博士後期課程の修了は、経済学専攻の博士課程に5年（博士前期（修士）課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、所定の単位を修得し必要な研究指導を受け博士論文の審査および試験に合格することを要件とします。博士後期課程修了者には、博士（経済学）の学位が授与されます。

総合政策学専攻

総合政策学専攻の博士前期（修士）課程および博士後期課程は、入学を春学期（4月）のみ設定しています。博士前期（修士）課程の修了は、2年以上在学し、所定の単位を修得し必要な研究指導を受け修士論文の審査に合格することを要件とします。博士前期（修士）課程修了者には、修士（総合政策学）の学位が授与されます。博士後期課程の修了は、3年以上在学し、所定の単位を修得し必要な研究指導を受け博士論文の審査に合格することを要件とします。博士後期課程修了者には、博士（総合政策学）の学位が授与されます。

3 入学定員・試験日程・試験科目等

経済学専攻 博士前期(修士)課程

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

入学定員 経済学専攻 5名
 ※上記定員は全選抜方式合算の人数です（2017年度秋学期入学試験の定員を含む）。

出願期間 **前期日程** 2016年 6月13日(月)～ 6月23日(木) 消印有効
後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木)
 ※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
 ※試験区分（選抜方式）にかかわらず、志願者は出願前に志望指導教員に連絡を取って面談を受けてください。

試験日 **前期日程** 2016年 7月 9日(土)
後期日程 2017年 2月11日(土)

集合場所 名古屋キャンパス 14号館1階ロビー
集合時間 9:30集合

試験科目・時間等

一般選抜	10:00～12:00	必須科目：英語 ※英和辞典1冊持込可（電子辞書またはこれに類する機器の持込は不可）。 選択科目 ①ミクロ経済学 ②マクロ経済学 ③志望する専攻分野の科目 上記3科目の中から、2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験してください。
	筆記試験終了後	面接

社会人・税理士・留学生選抜	10:00～11:00	小論文 出願時に申請した志望する専攻分野（志願書に記入）から出題されます。
	筆記試験終了後	面接

社会人選抜…入学時に大学卒業後3年以上を経過した者を対象とします。なお、職歴の有無や内容は問いません。
 税理士選抜…税理士を志望する者を対象とします。
 留学生選抜…留学生を対象とします。

※外国人留学生は一般選抜、留学生選抜、学内特別選抜のいずれかを志願してください。

合否通知発送日 **前期日程** 2016年 7月19日(火)
後期日程 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

入学手続締切日 **前期日程** 第一次入学手続（入学金の納入のみ）
 2016年 7月26日(火)
 最終入学手続（授業料等の納入および手続書類送付）
 2017年 3月14日(火) 消印有効
後期日程 入学手続（入学金・授業料等の納入および手続書類送付）
 2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退日 2017年 3月31日(金) 必着

総合政策学専攻 博士前期(修士)課程

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

入学定員	総合政策学専攻 5名 ※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。
出願期間	<p>前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月) 消印有効</p> <p>後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木)</p> <p>※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。 ※試験区分（選抜方式）にかかわらず、志願者は出願前に志望指導教員に連絡を取って面談を受けてください。</p>
試験日	<p>前期日程 2016年10月 1日(土)</p> <p>後期日程 2017年 2月11日(土)</p>
集合場所 集合時間	名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合
試験科目・ 時間等	<p>10:00～12:00 選択科目 ①経済学 ②経営学 ③政治学（行政学を含む） ④法学 ⑤英語 上記5科目の中から、2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験してください。 ※英語は英語辞典1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。</p> <p>12:30～ 面接</p> <p>10:00～ 研究計画書に基づく口頭試問 ※本選抜方式の「社会人」とは、すでに大学を卒業した者かつ入学時に職業経験がある者を指します。</p> <p>10:00～11:30 選択科目 ①経済学 ②経営学 ③政治学（行政学を含む） ④法学 上記4科目の中から、1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験してください。</p> <p>12:00～ 研究計画書に基づく口頭試問</p> <p>※外国人留学生は一般選抜、留学生選抜、学内特別選抜のいずれかを志願してください。</p>
選択科目 の出題	<p>選択科目（英語を除く）は、次の基本文献を前提として出題します。</p> <p>基本文献</p> <p>①経済学 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久／著『マクロ経済学』有斐閣、2010年 八田達夫著『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社、2013年</p> <p>②経営学 加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学』中央経済社、2006年 伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年</p> <p>③政治学（行政学を含む） 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社、2014年 加藤秀治郎著『政治学 第3版』芦書房、2008年</p> <p>④法学 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門（第4版）』有斐閣、2005年 石川明編著『法学入門30講（新版）』酒井書店、1996年</p>

合 否 通 知 発 送 日	(前期日程) 2016年10月11日(火) (後期日程) 2017年 2月21日(火)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入 学 手 続 締 切 日	(前期日程) 第一次入学手続 (入学金の納入のみ) 2016年10月18日(火) 最終入学手続 (授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 (後期日程) 入学手続 (入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効	
入 学 辞 退 締 切 日	2017年 3月31日(金) 必着	

経済学専攻 博士後期課程

入 学 定 員	経済学専攻 2名 ※上記定員は2017年度秋学期入学試験の定員との合算人数です。
出 願 期 間	2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効 ※上記期間の平日 (9:00～17:00) は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。 ※出願前に指導教員に連絡を取って面談を受けてください。
試 験 日	2017年 2月11日(土)
集 合 場 所 集 合 時 間	名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合
試 験 科 目・ 時 間 等	10:00～12:00 英語 ※英和辞典1冊持込可 (電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。 筆記試験終了後 口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。
合 否 通 知 発 送 日	2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入 学 手 続 締 切 日	入学手続 (入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効
入 学 辞 退 締 切 日	2017年 3月31日(金) 必着

総合政策学専攻 博士後期課程

入学定員

総合政策学専攻 2名

出願期間

2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効

※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

※出願前に指導教員に連絡を取って面談を受けてください。

試験日

2017年 2月11日(土)

集合場所

集合時間

名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合

試験科目・ 時間等

10:00～12:00 英語 ※英和辞典1冊持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。

12:30～ 口頭試問 提出論文および研究計画を中心とします。

合否通知 発送日

2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

入学手続 締切日

入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付)

2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退 締切日

2017年 3月31日(金) 必着

4 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受験票
写真票
検定料払込票
宛名シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志願書

経済学専攻

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—経済学・志願書**
- ②76ページの専任教員の中から志望指導教員を選んでください。
- ③博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、在学期間を選択してください。ただし、選択した
在学期間のいかにかわらず、4年を超えて在学することはできません（長期履修制度につ
いては、研究科共通ページ「10. 学費等」を参照してください）。
- ④「入学後の研究計画案」欄は、研究計画を400～500字程度にまとめて記入してください。別紙
（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要です。

総合政策学専攻

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—総合政策学・志願書**
- ②78ページの専任教員の中から志望指導教員を選んでください。
- ③「入学後の研究計画案」欄は、研究計画や研究したい内容を400～500字程度にまとめて記入し
てください。別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要です。
社会人選抜および留学生選抜志願者は、志願書には記入をせず、別紙（A4判用紙、2,000～4,000
字の範囲内）にまとめて提出してください。

経済学専攻・総合政策学専攻共通

- ①出願前に志望指導予定教員に連絡をとり面談を受けてください。面談後、志望指導予定教員に「面
談年月日」欄の記入・捺印を依頼してください。
- ②「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ③「修士論文または卒業論文」欄は、博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業
者で卒業論文を作成した者は卒業論文についてその題目と概要を記入してください。
学部卒業者で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入してください。なお、修士論文お
よび卒業論文未完の場合は、出願時点において予定している題目および概要を記入してください。

証明書の他

博士前期課程

卒業証明書
成績証明書
(見込を含む)

最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

研究計画書

総合政策学専攻社会人選抜および留学生選抜志願者のみ提出してください
(A4判用紙、2,000～4,000字の範囲内)。

博士後期課程

学位授与証明書
成績証明書
(見込を含む)

最終出身大学院作成のものを提出してください。

論文

修士論文またはこれに代わる業績を1部提出してください。いずれの場合も4,000字程度の要旨（A4判用紙）を付けてください。
※コピー可。返却はいたしません。

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明する書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。なお、外国人留学生は出願前に指導志望教員に連絡を取ってください。

経済学研究科 経済学専攻

経済学専攻の概要

わが国経済は、①産業の空洞化に直面し、産業構造をいかに高度化転換していくか、②高度情報・通信社会のためのインフラをいかに構築していくか、③迫りくる高齢化社会に対応する医療・年金・福祉等の社会保障システムをいかに整備し、その財源をどこに求めていくかなど、多くの課題に直面している。

経済学専攻の主要な役割は、これらの諸問題に対して、①強い問題意識を持ち、優れた歴史観と理論的分析力をもって、理論的・実証的に問題解決に迫りうる学問的能力を養い、専門的研究を行う有望な経済学研究者を育てること、②高度の経済学の知識と現実問題の解決力を身につけた者を社会に送り出すこと、③税理士の資格を得るための基礎的学力を涵養すること、等が挙げられる。

経済学専攻の課程は博士前期（修士）課程と博士後期課程から成り、博士後期課程においては、さらに高度の研究を行うことによって、経済学研究者や経済専門職業人を養成することを主たる目的としている。

経済学専攻の特色

経済学専攻の特色を挙げると以下の通りである。

(1) 「歴史」、「理論」、及び「政策」を中心とする正統派的なカリキュラム編成

①経済学において歴史的な考え方・捉え方はきわめて重要であり、「経済史」に関する講義・研究指導を充実させている。②経済の現実問題を的確に把握し、理解するためには「理論」はその基礎として重要であり、現代の経済理論の基本と応用や経済理論・経済思想の発展に関する充実した講義と研究指導體制を確立している。③種々の経済問題の解決をはかるための政策についても、財政、金融、国際経済学、産業経済学等各種の政策論に関する講義と研究指導を行っている。

(2) 研究指導に重点をおく教育

大学院生は、それぞれ自分で選んだ指導教授のもとで研究を行うが、その場合、マン・ツー・マンに近い研究指導を行っている。教員は、個々の院生の学力、志望に従って、キメの細かい丁寧な研究指導を行い、学力アップと水準の高い研究論文の作成に援助している。

(3) 税理士志望者のための研究指導

本専攻の入学者には税理士志望者が多いという実情に鑑み、これらの院生に対しては、財政や税制に関する研究指導はもとより、将来、税理士として活躍できるための基礎学力と専門知識を養うための講義と研究指導を行っている。

(4) 研究者志望者のための水準の高い研究指導

将来、研究者を目指す者に対しては、本人が志望する専門分野に従って、必要な基礎的学力を身につけるように指導するとともに、研究テーマに沿った水準の高い研究指導を行って、有望な研究者を学界に送り出すことを目標としている。

(5) 社会人学生への配慮

就業しながら大学院で高度専門知識を修得したいという社会人に対して、演習科目を重視した研究指導や昼夜開講制、3年の修学期間が選択可能な長期履修制度（博士前期（修士）課程のみ）がある。

経済学専攻の人材の養成と教育研究上の目的

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経済学研究科経済学専攻の「人材の養成に関する目的」

(1) 経済学専攻博士前期課程は、専門教育を通じて以下に掲げる人材の養成を目的とする。

- ①経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者
- ②国際的に貢献できるエコノミスト等
- ③高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人
- ④出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者

(2) 経済学専攻博士後期課程は、博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、それらの目的を自立的に遂行できる能力を培うための論文作成指導を徹底し、より高度な経済専門研究者および職業人を養成することを目的とする。

専任教員組織

経済学研究科長 佐道明広
 経済学専攻長 中山恵子

博士前期課程
(修士課程)

専任教授	准教授	講義科目
柿白山		貿易政策研究
中樁近		財政学研究
阿釜梅		計量経済学研究
小内鈴		ミクロ経済学研究
平古都		経済史研究
古湯増		国際経済学研究
風英吉		経済史研究
		経済政策研究
		国際経済学研究
		金融論研究
		環境経済学研究
		都市経済学研究
		経済政策研究
		財政学研究
		ミクロ経済学研究
		マクロ経済学研究
		社会保障論研究
		統計学研究
		労働経済学研究
		国際金融論研究
		経済学史研究

博士後期課程

専任教授	准教授	専攻分野
柿白山		貿易政策
中樁近		財政学
阿釜梅		計量経済学
小内鈴		ミクロ経済学
平古都		西洋経済史
古湯増		国際経済学
風英吉		日本経済史
		経済政策
		貿易論
		金融論
		環境経済学
		都市経済学
		財政政策
		地方財政
		産業組織論
		マクロ経済学
		社会保障論
		統計学
		労働経済学
		国際金融論
		経済学史

★…指導教員として選択できません
 ※上記は2016年5月現在の教員組織です

経済学研究科 総合政策学専攻

総合政策学専攻の概要

1. 博士前期（修士）課程

政策研究に関する学部レベルの基礎的なポリシー・リテラシーが修得されていることを踏まえて、さらに高度な専門知識を究め、実践的能力と研究能力を培う。とりわけ、公共政策や地域政策、経営戦略やマーケティング、ソーシャルビジネスやベンチャー企業などに関する理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力に裏打ちされた高度の専門的職業を担うことができる卓越した人材を養成することを目標としている。

2. 博士後期課程

研究者の育成とともに、政策立案や経営管理に関する実践現場において、既に専門的な職業に従事している人材の再教育の場を提供する。最新の研究成果に基づく新たな知見から価値を創造する能力を身につけ、企業や行政機関、教育研究機関など、社会の様々な場で中核となる人材を送り出すことを目標としている。

総合政策学専攻の特色

総合政策学専攻の特色を挙げると以下の通りである。

- (1) 経済学、経営学、法学、政治学という4つの領域の社会科学を理論的な基盤としながら、実践的な政策研究を行う。
- (2) 公共政策や地域政策、ビジネス戦略やマーケティング、ソーシャルビジネスやベンチャー企業などの研究者育成とともに、政策形成の専門家の育成やその再教育にも力点を置いている。
- (3) 政策研究を行う上で不可欠な方法論である定量分析と定性分析をはじめとして、政策研究の科目をバランスよく配置している。
- (4) 修士論文や博士論文の研究指導は、指導教員を中心として行う。
- (5) 一般選抜および留学生選抜とともに社会人選抜を実施している。
- (6) 社会人については、昼夜開講制としている。

総合政策学専攻の人材の養成と教育研究上の目的

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経済学研究科総合政策学専攻の「人材の養成に関する目的」

- (1) 総合政策学専攻博士前期課程における教育研究の目的は、第一に、学部段階において当該専門分野に関する基礎的な資質や能力を修得した者を対象として、より高度な専門知識や実践的能力、研究能力を培うことであり、第二に、既に政策立案や政策管理に関する実践現場において、高度な専門性が求められる職業を担っている人材の再教育機能を果たすことである。特に、総合政策学専攻博士前期課程では、公共政策や地域政策、経営政策などに関して当該専門分野に関する高度な理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力あるいは高度の専門的職業を担うための卓越した実践的な能力を持つ人材を養成する。
- (2) 総合政策学専攻博士後期課程の教育研究上の目的は博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、高度な研究能力と豊かな学識に裏打ちされ、新たな知見や価値を創造できる能力を身につけて企業経営や行政機関、教育研究機関など社会の多様な場で中核を担う人材を養成することを目的とする。

専任教員組織

経済学研究科長・総合政策学専攻長 佐道明広

					講義科目
博士前期課程 (修士課程)	専任教授	太田真治			国際マーケティング研究
	〃	〃	大森達也		経済政策研究
	〃	〃	岡本祥浩		都市政策研究
	〃	〃	桑原英明★		自治体行政研究
	〃	〃	坂田隆文		経営戦略研究
	〃	〃	佐道明広		国際政策研究
	〃	〃	高橋秀雄		マーケティング研究
	〃	〃	竹田昌次		経営管理研究
	〃	〃	田中譲		消費者政策研究
	〃	〃	宮内美穂		ビジネスイノベーション研究
	〃	准教授	市島宗典		自治体財政研究
	〃	〃	今井良幸		行政法研究
	〃	〃	小山佳枝		国際法研究

					専攻分野
博士後期課程	専任教授	太田真治			国際マーケティング論
	〃	〃	大森達也		経済政策論・社会保障論
	〃	〃	岡本祥浩		居住福祉論
	〃	〃	桑原英明★		行政学・日本行政論
	〃	〃	坂田隆文		マーケティング戦略論
	〃	〃	佐道明広		日本政治外交論
	〃	〃	高橋秀雄		サービスマーケティング論
	〃	〃	竹田昌次		人的資源管理論
	〃	〃	田中譲		物質経済論
	〃	〃	宮内美穂		ソーシャルビジネス研究・ベンチャー企業研究
	〃	准教授	市島宗典		政治過程論
	〃	〃	今井良幸		行政法
	〃	〃	小山佳枝		国際法

★…指導教員として選択できません。
 ※上記は2016年5月現在の教員組織です

6 教員の研究分野の紹介

経済学専攻

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
KAKIMOTO, Sumio 柿元純男 貿易政策 Trade Policy	<p>国際貿易の純粋理論はヘクシャー＝オリーモデルを基礎に発展してきている。2国2財2要素モデルから、多数国多数財多数要素モデルへの拡張、市場構造との関連等研究が進められている。現在の研究テーマは、市場構造と開発政策の有効性に関するものであり、種々の開発政策が失業や厚生にどのような効果をもつかといった問題を分析している。</p> <p>(参考)『国際経済学の基礎』(共著)(中央経済社),1998年4月、『現代貿易理論の潮流』(共編著)(勁草書房),1998年3月、『基礎経済学』(共著)(中央経済社),1993年3月。『国際貿易の理論』(勁草書房),1989年3月。</p>
SHIRAI, Masatoshi 白井正敏 財政学 Public Finance	<p>公共経済学、教育経済学研究</p> <p>公共経済学理論と規範的方法論を基礎として、年金、社会保障、教育、医療など、現実経済問題への応用分析を発展させる。また、所得再分配制度としての租税政策と公共支出を関連させて分析する総合的研究を展開する。</p> <p>(参考)『教育経済学』(勁草書房),1990年、『公共経済学研究V』(共編著)(中京大学経済研究所),2012年。</p>
YAMADA, Mitsuo 山田光男 計量経済学 Econometrics	<p>計量経済学の応用研究を行っている。主として多部門モデルや産業連関分析の枠組みを用いて、日本を含む先進国とアジア諸国の貿易と産業構造の相互連関に関する計量経済学的研究を行うとともに、地域産業連関表を中心とした地域経済の計量分析に取り組んでいる。</p> <p>(参考)『東アジア経済の連関構造の計量分析』(勁草書房)2007年、『日中経済発展の計量分析』(勁草書房)、2012年、Input-Output Analysis of the Interdependence between Japan and China through Japanese Overseas Production, Journal of Econometric Structure, 2014.</p>
NAKAYAMA, Keiko 中山恵子 ミクロ経済学 Micro Economics	<p>主としてミクロ経済学に基づいた理論的分析を行っているが、近年は、非線形計画問題、あるいは環境制御問題を扱ってきた。現在は、産業連関モデルを利用した環境問題に興味を抱いている。</p> <p>(参考)『非線形計画と非線形固有値問題』(単著)勁草書房,1995年、『統計・計量経済分析のための教育システム』(共著)勁草書房,2000年、『投入産出分析と最適制御の環境保全への応用』(単著)勁草書房,2003年、『初等数量経済分析のための教育方法—Visual Basic を利用して—』(共著)勁草書房,2004年、『経済学周辺の確率過程と教育』(共著)勁草書房,2011年、『ミクロ経済学の考え方』(共著)八千代出版,2012年。</p>
TSUBAKI, Tatsuya 椿建也 西洋経済史 Western Economic History	<p>イギリス流のソーシャル・ポリシー論の中で重要な位置を占める住宅をめぐる諸問題に焦点を当て、これを歴史的、総合的に検討する。</p>
KONDOH, Kenji 近藤健児 国際経済学 International Economics	<p>国際経済学の一分野である生産要素の国際的移動の理論分析を主として行う。特に国際労働移動のメカニズムやそのひき起こす経済的影響を検討する。</p> <p>(参考)『国際労働移動の経済学』(勁草書房),2000年、『環境、貿易と国際労働移動』(勁草書房),2009年。</p>
ABE, Hideki 阿部英樹 日本経済史 Japanese Economic History	<p>経済面から、地域社会の歴史を研究している。近世後期から高度成長期の歴史資料の収集・解説を進めながら、地域経済の長期的分析に取り組んでいる。</p> <p>(参考)『近世農村地域社会史の研究』(勁草書房),2004年、『近世庄内地主の生成』(日本経済評論社),1994年。</p>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
KAMADA, Kimiyoshi 釜田 公良 経済政策 Economic Policy	現在の主な研究の対象：世代間所得移転政策、遺産動機、子の数の選択、親と子の居住地選択、環境や教育などの世代間問題。これらに関するもの以外で、過去に行った研究：社会資本の最適水準の計測、公共投資の地域間配分、高雇用余剰の計測とシミュレーション、所得階層別消費関数の推定、財政投融资のマクロ経済効果など。 (参考) : Bequest motives and fertility decisions. <i>Economics Letters</i> , 2006. Government transfers and the samaritan's dilemma in the family, <i>Public Choice</i> , 2004. Income Redistribution Effect of Public Pensions between Dynastic Families, <i>Review of Income and Wealth</i> , 2002、『世代間所得移転政策と家族の行動』(勁草書房), 2000年。
UMEMURA, Kiyohide 梅村 清英 貿易論 Trade Theory	国際貿易の理論および政策についてのミクロ経済学的分析を中心に研究している。 (参考) 『国際貿易の理論と開発政策』(勁草書房), 2006年。
KOBAYASHI, Takeshi 小林 毅 金融論 Monetary Economics	金融現象に対するミクロ経済学的アプローチを主な研究分野としている。証券市場、保険および銀行業など、幅広い分野における理論的、実証的研究を行っている。 (参考) 『新しい時代の金融システム』(共著) (勁草書房), 2005年、『金融機関の経営と株式市場』(勁草書房), 2005年。
UCHIDA, Toshihiro 内田 俊博 環境経済学 Environmental Economics	主な研究テーマは企業や消費者の自発的な環境行動の経済分析である。近年は環境ビジネスや気候政策への応用を中心に研究を進めている。 (参考) “Prioritizing barriers to implementing more CDM projects in Indonesia: An application of AHP,” <i>Asian Social Science</i> , 2014.
SUZUKI, Takaji 鈴木 崇児 都市経済論 Urban Economics	都市・交通を中心とした地域経済学を研究分野としている。都市交通における需要管理施策や規制緩和、都市における集積の経済性について計算機システムによるシミュレーションを基礎とする分析を行っている。 (参考) “The second best pricing for urban transit with environmental constraint” (<i>Urban Transport and environment V</i>)、『都市交通プロジェクト評価—例題と演習—』(分担執筆) (コロナ社)、『都市鉄道の次善料金形成—自動車交通との競合下での理論—』(勁草書房)
HIRAZAWA, Makoto 平澤 誠 財政政策 Fiscal Policy	財政的手段を用いた政府による様々な政策の効果を主に理論的に分析している。特に、環境政策や年金、社会保障政策など、世代間での利害調整に関わる経済問題に関心を持っている。また最近では、少子高齢化など人口動態の変化の下での政策の効果にも関心がある。 (参考) “Fertility, child care outside the home, and pay-as-you-go social security,” (共著) <i>Journal of Population Economics</i> , 2009. “Effects of international sharing of pollution abatement burdens on income inequality among countries,” (共著) <i>Journal of Economic Dynamics and Control</i> , 2011.
FURUKAWA, Akiyoshi 古川 章好 地方財政 Local Public Finance	地域での公共投資もしくは社会資本の最適供給問題を中心として、公共投資の地域配分、地方政府の社会資本供給問題等の公共支出に関する問題を研究している。また、望ましい地方分権のあり方、市町村合併、地方の人口規模、行政サービスのあり方に関する諸問題も研究している。
TOMARU, Yoshihiro 都丸 善央 産業組織論 Industrial Organization	主な研究テーマは寡占理論、特に、私企業と公企業による競争を理論的に分析することである。近年は産業政策がそうした競争にどう影響するかについて研究している。 (参考) “Mixed Duopoly, Privatization, and Subsidization with Excess Burden of Taxation.” (with Toshihiro Matsumura) forthcoming in <i>Canadian Journal of Economics</i> .

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
<p>FURUKAWA, Yuichi 古川 雄一 マクロ経済学 Macroeconomics</p>	<p>経済成長と景気循環に関する理論的研究、マクロ経済全体を分析対象とし、その持続的成長の決定要因や短期的な変動の原因を分析している。近年は特に、知的所有権保護が経済成長プロセスに与える影響に関心がある。 (参考) “The Protection of Intellectual Property Rights and Endogenous Growth: Is Stronger Always Better?” <i>Journal of Economic Dynamics and Control</i> 31, 2007. “Intellectual Propaty Rights and Appropriability of Innovation” <i>Economics Letters</i>, 2009.</p>
<p>YUDA, Michio 湯田 道生 社会保障論 Social Security Policy</p>	<p>社会保障分野における様々な政策課題について、経済理論と実際のデータを用いた経済学的な分析に取り組んでいる。近年は、特に医療・介護・健康政策の評価について強い関心を持っている。 (参考) “The Effects of Informal Caregivers' Health on Care Recipients” (with Jinkook Lee), forthcoming in <i>Japanese Economic Review</i>. “Inefficiencies in the Japanese National Health Insurance System: A Stochastic Frontier Approach”, <i>Journal of Asian Economics</i>, Vol. 42, pp. 65-77, 2016年。</p>
<p>MASUDA, Junya 増田 淳矢 統計学 Statistics</p>	<p>経済の理論を検証する場合、抽象的な経済理論を具象化して適切な計量モデルを構築して、適切な経済データを利用して検証を行う必要がある。現在の研究テーマは統計学的にも経済学的にも適切な計量モデルを構築して、さまざまな経済理論を検証することが可能な計量モデルを提案することである。 (参考) “Residual-based tests for cointegration in models with multi-breaks” <i>Applied Economics Letters</i>, 2008.</p>
<p>KAZEKAMI, Sachiko 風神 佐知子 労働経済学 Labor Economics</p>	<p>賃金による労働市場の調整機能や、雇用のミスマッチ問題、海外生産が日本の労働市場に与える影響など国内の労働経済研究のほか、海外の労働市場を対象としたインフォーマルセクターに関する研究なども行っている。 (参考) 2013, “The Effect of Intermediate and Final Goods Trade on Labor Demands in Japanese firms” (with M. Endoh) in <i>Globalism and Regional Economy</i>, Ed. Susumu Egashira., 2012, “Difference Effects of Trade by Type of Employment, Gender, Age and Education: Evidence from Matched Employer-Employee Data in Japan (with M. Endoh)”, <i>Chukyo University Institute of Economics, Discussion Paper Series</i>.</p>
<p>HANABUSA, Kunihiro 英 邦 広 国際金融論 International Finance</p>	<p>中央銀行（特に、主要先進国の中央銀行）が行う金融政策によって、国内総生産、物価水準、金利の期間構造、為替レートといったマクロ経済変数が変化するか、否かを計量経済学的手法を用いて分析し、その効果を定量的に検証することで、中央銀行に対する政策評価を行っている。 (参考) “The effect of Bank of Japan’s commitment and the expectation form”. <i>Applied Financial Economics</i>, Volume 22, Issue 6, pp.445-460, March, 2012. 「公的負債の利子率構造への影響：アメリカの場合」『国民経済雑誌』第201巻第2号、51-64ページ、2010年2月（共著）。</p>
<p>YOSHINO, Yusuke 吉野 裕介 経済学史 History of Economic Thought</p>	<p>経済学史・経済思想と呼ばれる分野のなかでも、特にフリードリッヒ・ハイエク（1899-1992）を中心に、二十世紀の自由主義経済思想について研究してきた。最近では、グローバル化・情報化をふまえた新しい市場と政府のあり方を考えるため、「オープンガバメント」の思想的意義にも関心を持っている。 (参考) 『ハイエクの経済思想：自由な社会の未来像』（単著）勁草書房、2014年。『現代の経済思想』（共著）、2014年。『「統治」を創造する 新しい公共／オープンガバメント／リーク社会』（共著）春秋社、2011年。「アメリカにおけるハイエクの『隷属への道』：思想の受容・普及プロセスからのアプローチ」『経済学史研究』55(1)、36-52、2013年ほか。</p>

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

ICHISHIMA, Munenori

市島 宗典

政治過程論

現代日本における政治過程研究

実証的な手法を用いて、現代日本の中央政府レベルあるいは地方政府レベルにおける政治過程に関する研究指導を行う。

(参考)『日本における有権者意識の動態』(共著)慶應義塾大学出版会, 2005年、『地方自治体をめぐる市民意識の動態』(共著)慶應義塾大学出版会, 2005年。

IMAI, Yoshiyuki

今井 良幸

政策法務に関する研究

地方自治をめぐる諸課題について、憲法、行政法、地方自治法をはじめとした法的な視点からの研究指導を行う。

(参考)『プライマリー法学憲法〔第2版〕』(共著)不磨書房, 2010年、『憲法要論』(共著)嵯峨野書院, 2012年。

OTA, Shinji

太田 真治

国際マーケティング論

国際マーケティング

グローバル企業に対する現代の事象を取り上げ、国際マーケティングの課題に関する研究指導を行う。

(参考)『トータルリレーションシップマーケティング』(共訳)中央経済社, 2007年、『グローバルマーケティングの新展開』(共著)白桃書房, 2013年。

OMORI, Tatsuya

大森 達也

経済政策論

経済政策に関する研究

親子間を中心とした世代間の問題について、経済学の観点から研究指導を行う。

(参考)“Effects of public education and social security on fertility”(単著) Journal of Population Economics 22, 585-601、“Can urban pollution shrink rural districts?”(共著) Letters in Spatial and Resource Sciences 7, 73-83.

OKAMOTO, Yoshihiro

岡本 祥浩

居住福祉論

生活資本論研究

様々に起こる居住問題を生活を支えている「生活資本」をその構築と崩壊という双方向の視角から研究指導する。

(参考)『ケースブック 日本の居住貧困』(共編)藤原書店, 2011年、『ホームレス・強制立退きと居住福祉』(編著)信山社, 2007年、『居住福祉と生活資本の構築』ミネルヴァ書房, 2007年、『居住福祉の論理』(共著)東京大学出版会, 1993年。

OYAMA, Kae

小山 佳枝

国際法

法政策特殊研究

国際法(特に、国際環境法および海洋法)について、理論的・実証的見地から研究指導を行う。

(参考)『よくわかる国際法 第2版』(共著)ミネルヴァ書房, 2014年、『海の国際秩序と海洋政策』(共著)東信堂, 2006年。

KUWABARA, Hideaki

桑原 英明

日本行政論

行政学、日本行政論

国や地方自治体の行政機構を対象として、その制度・管理・政策の態様に関する研究指導を行う。

(参考)『日本行政の歴史と理論』(共編著)芦書房, 2004年、『日本の政治と行政』(共編著)芦書房, 2012年、『公共政策の歴史と理論』(共編著)ミネルヴァ書房, 2013年。

SAKATA, Takafumi

坂田 隆文

マーケティング戦略論

マーケティング戦略

企業が行うマーケティング活動に関してケースを中心に分析し、企業のマーケティング戦略がいかに行われているのかを検討するための分析視角に関する研究指導を行う。

(参考)『現代社会の消費とマーケティング』(共著)税務経理協会, 2008年、『1からのリテールマネジメント』(共編著)碩学舎, 2012年、『1からの流通論』(共著)碩学舎, 2010年、『1からの商品企画』(共著)碩学舎, 2012年。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
SADO, Akihiro 佐道明広 日本政治外交論	日本の政治と外交に関する歴史的研究。特に戦後日本の安全保障政策、日米関係、東アジア国際関係、政軍関係論などを中心に研究している。近年は特に安全保障問題との関係で沖縄の政治に関する現地調査や、国境地域の調査を実施している他、政治家、官僚などへのオーラルヒストリー（口述の歴史記録）も行なっている。 (参考)『戦後日本の防衛と政治』(単著)吉川弘文館, 2003年、『現代日本政治史 —「改革」政治の混迷』(単著)吉川弘文館, 2012年、『沖縄現代政治史』(単著)吉田書店, 2014年、『自衛隊史論』(単著)吉川弘文館, 2014年。
TAKAHASHI, Hideo 高橋秀雄 サービスマーケティング論	サービス・マーケティング 専攻分野は、マーケティング論、サービスマーケティング論、流通論、物的流通論、電子商取引等の経営学系の分野の他、非営利組織マーケティング、電子政府・自治体論等の公共政策系の分野にもわたっている。1つの専攻分野だけでなく広範な領域にわたる研究をしている。 (参考)『サービス・マーケティング戦略』(単著)中央経済社, 2009年、『マーケティング・チャンネル研究のフロンティア』(単著)同文館出版, 2006年、『eコマース・ビジネス』(単著)中央経済社, 2012年、『電子商取引の動向と展望』(単著)税務経理協会, 2001年。
TAKEDA, Masatsugu 竹田昌次 人的資源管理論	日本企業における人事管理制度 終身雇用や年功賃金に対する変革という問題を取り上げ、「グローバル化と日本の経営」という課題設定の下に研究指導を行う。 (参考)『新・日本的経営と労務管理』(共著)ミネルヴァ書房, 2000年、『マルチリージョナル企業の経営学』(共著)八千代出版, 2000年。
TANAKA, Yuzuru 田中 譲 物質経済論	物質と人間の生活様式 生活習慣病の概念再考と原因・対策の解明を研究課題として、特に生活様式面、即ち物質利用を伴う経済生活面での因果経路に焦点を当て、同病克服の課題に関する研究指導を行う。 (参考)『消費者問題と消費者保護』(共著分担)成文堂, 2004年、『日本物質文明論序説—人間生態的アプローチをめざして—』五絃舎, 2003年。
MIYAUCHI, Miho 宮内美穂 ソーシャルビジネス研究・ベンチャー企業研究	ベンチャー企業 市場において勝ち抜くため、さまざまな分析手法を用いて企業における競争優位の源泉を見出し、それを基にどのような戦略を立て、また、いかに実行するかについて研究する。 (参考)三谷宏治『ビジネスモデル全史』ディスカヴァー・レポリューションズ, 2014年。

経営学研究科

経営学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先
教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

1 選抜方法

入学者の選抜は、「当日の試験」・「出身大学および大学院の成績」・「研究計画書（博士後期課程志願者）」によって行います。

※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期(修士)課程

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

入学定員	経営学専攻 10名 ※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。
出願期間	前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月) 消印有効 後期日程 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) ※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	前期日程 2016年10月 1日(土) 後期日程 2017年 2月11日(土)
集合場所 集合時間	一般選抜 名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合 社会人選抜 名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 12:30集合
試験科目・ 時間等	一般選抜 10:00～12:00 英語（必須）・専門科目（6問の中から試験当日1問選択） ※英和辞典1冊持込可（電子辞書またはこれに類する機器の持込は不可）。 13:00～ 面接 社会人選抜 13:00～ 面接
可否通知 発送日	前期日程 2016年10月11日(火) 後期日程 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入学手続 締切日	前期日程 第一次入学手続（入学金の納入のみ） 2016年10月18日(火) 最終入学手続（授業料等の納入および手続書類送付） 2017年 3月14日(火) 消印有効 後期日程 入学手続（入学金・授業料等の納入および手続書類送付） 2017年 3月14日(火) 消印有効
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着

博士後期課程

入学定員 経営学専攻 3名

出願期間 2017年 1月16日(月)～ 1月26日(木) 消印有効
※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

試験日 2017年 2月11日(土)

集合場所 名古屋キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合
集合時間

試験科目・時間等 10:00～12:00 英語
※英和辞典1冊持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込不可)。
13:00～ 面接

可否通知日 2017年 2月21日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
発送日

入学手続締切日 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付)
2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退日 2017年 3月31日(金) 必着
締切日

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票
写 真 票
検定料払込票
宛名シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—経営学・志願書**
- ②志望指導教員を89ページ「教員組織」の専任教員の中から選んでください。
博士前期(修士)課程……第二志望まで記入してください。
博士後期課程 ……………第一志望のみを記入してください。
- ③「修士論文または卒業論文」欄は、博士前期(修士)課程志願者のみ記入してください。
なお、博士前期(修士)課程修了者は修士論文について、学部卒業者で卒業論文を作成した者は卒業論文についてその題目と概要を記入してください。
修士論文および卒業論文未完の場合は、出願時点において予定している題目および概要を記入してください。また、学部卒業者で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入してください。
別紙(A4判用紙)で提出する場合は記入不要です。
- ④「入学後の研究計画案」欄は、博士前期(修士)課程志願者のみ記入してください。
別紙(A4判用紙)で提出する場合は記入不要です。

証 明 書
そ の 他

博士前期課程	卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学作成のものを提出してください。 ※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。
	職業経験の概要を記した書類	社会人選抜志願者のみ、職業経験の概要を記した書類を任意で提出することができます(A4判用紙、書式自由)。
博士後期課程	学位授与証明書 成績証明書 (見込を含む)	最終出身大学院作成のものを提出してください。
	論文	修士論文またはこれに代わるべき業績を1部提出してください。いずれの場合も2,000字程度の要旨(A4判用紙)を付けてください。 ※コピー可。返却はいたしません。
	研究計画書	本研究科で研究したいテーマおよび研究計画について4,000字程度(A4判用紙)で記入してください。 書式は自由ですが所定の表紙をつけてください。→ 巻末—研究計画書

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明する書類(戸籍抄本等)も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票(写し)」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・教員組織

中京大学は、1991年4月に本学8番目の学部として経営学部経営学科を開設し、さらに学部の完成年度を待って1995年4月に経営学部を母体とした経営学研究科修士課程を開設するとともに、1997年4月には同博士後期課程を開設した。

経営学研究科博士前期（修士）課程においては、理論、実践、国際化を3つの柱としたカリキュラムおよび教員構成を基本とし、一般学生の他に社会人、留学生に対して門戸を開いている。

2003年度からビジネス・イノベーション研究科（MBA）が発足したことにより、経営学研究科は以前に比べて実践的側面よりも、理論や国際化などを重視するアカデミックな性格を強めることとなった。それは教員構成にも現れている。10人の専任教員のなかにはイギリスおよび韓国出身の2人の教員がおり国際色豊かである。

なお、経営学研究科では、2017年度から「社会人選抜（有験者特別選抜）」を新設し、オープン・カレッジや市民講座などでは物足りなく、よりアカデミックな雰囲気の下で知識を深め、これまでの職業経験を生かした本格的な経営学の研究を考えている社会人（定年退職者を含む）を受け入れる体制を整えている。

1997年度4月に発足した博士後期課程においては、指導教員のもとに、博士前期（修士）課程を終えた大学院生が博士号の取得を目指してさらなる研究を進め、既に昨年度までに15人の学位取得者を輩出している。なお、2000年度より博士後期課程の大学院生の論文を中心とした「中京経営紀要」（年刊）を発刊している。

1. 学位取得について

時間割は月曜日から金曜日の第1時限（9:00～10:30）から第6時限（18:25～19:55）となっている。

修士の学位を得るには原則として2年間で32単位（演習1年間4単位 計8単位含む）を修得し、これに加えて修士論文試験に合格すれば修士（経営学）の学位が授与される。

なお、博士後期課程においては、入学時より指導教員の研究指導のもと、計画的に研究が進められるよう3か月ごとに研究の進捗度合いを評価する。さらに、下記のような日程で有能な大学院生が3か年で博士号を取得できるように研究指導を進める。

第1年次10月	博士論文の中間報告	第3年次11月から2月	複数回の論文審査（口述）
第2年次10月	博士論文の中間報告	第3年次3月	博士論文の審査終了
第3年次10月	博士論文の原稿提出、予備審査		

2. 大学院生の研究環境

経営学研究科では、ハードとソフトの両面で大学院生のための充実した研究環境を整えている。まず、ハード面では、大学院生共同研究室を設けており、在学生全員に対して専用のスペースと専用のパーソナル・コンピュータ（学内LANを通じたインターネット接続可能）を提供している（プリンターは共用）。また図書館は午後10時まで利用可能である。ソフトの面では、コピーカードの支給、図書購入費用の補助、学会参加費用の補助などを行っている。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経営学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、グローバル化、情報化、学際化の流れの中で高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを教育研究上の目的として設定している。
- (2) 博士後期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした基本目的に基づき、専門的研究者の養成を教育研究上の主要目的として設定している。

3. 教員組織

経営学研究科長 銭 佑 錫

博士前期課程 (修士課程)

専任教授	森田 統一郎	経営原理研究
〃	入江 恭平	国際金融研究
〃	ハリ ス, R.	国際コミュニケーション研究
〃	中條 秀治	経営組織研究
〃	梅田 守彦	企業会計研究
〃	佐藤 祐司	経営科学研究
〃	浅井 紀子	生産管理研究
〃	向日 恒喜	情報管理研究
〃	銭 佑錫	国際経営研究
〃 准教授	山崎 喜代宏	経営戦略研究
〃	櫻井 雅充	人的資源管理
兼任教授	寺岡 寛★	中小企業研究
〃	中村 雅章★	経営情報研究
〃	吉田 康英★	簿記原理研究
〃	中西 眞知子★	マーケティング研究
〃	永石 信★	国際ビジネス戦略研究
〃	矢部 謙介★	経営財務研究
〃 准教授	川端 勇樹★	経営管理研究

博士後期課程

専任教授	森田 統一郎★	経営原理特殊研究
〃	入江 恭平★	国際金融特殊研究
〃	ハリ ス, R.	国際コミュニケーション特殊研究
〃	中條 秀治	経営組織特殊研究
〃	梅田 守彦	企業会計特殊研究
〃	佐藤 祐司	経営科学特殊研究
〃	浅井 紀子	生産管理特殊研究
〃	向日 恒喜	情報管理特殊研究
〃	銭 佑錫	国際経営特殊研究
〃 准教授	山崎 喜代宏	経営戦略特殊研究

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
MORITA, Toichiro 森田 統一郎 経営原理研究 Principles of Business Management	資本主義の一般的本質・内容、その歴史的発展、さらには今日の企業における諸問題を解明するとともに、企業経営の管理に関する諸学説および現実の企業経営における管理の諸原則・基本原理を検討する。 特に技術的発展、労働過程・生産管理の変化と関連させながら、現実の企業管理に関する諸問題を考察する予定である。 [著書]『オートメーションと労働組織』(税務経理協会)1997年、「自動化と熟練」(中京経営研究, 第8巻, 第1号)1998年。 [学位] 修士(経営学)(神戸大学)
IRIE, Kyohei 入江 恭平 国際金融 International Finance	国際経営の前提になる国際通貨システムを様々な角度から検討する。国際通貨システムを構成する外国為替制度を理論化した後、国際通貨、国際金融市場、国際銀行業などのテーマを取り上げたい。 [著書]『金融の世界史』(共著)(悠書館)2012年、『金融グローバル化の理論』(共著)(大月書店)2006年、『アジアの証券市場』(共著)(東大出版会)1992年、『図説 イギリスの証券市場』(共著)(日本証券経済研究所)2009年。[論文]「日本のベンチャーキャピタルと対アジア投資」(中京経営研究, 第2巻, 第2号)1992年4月。「新通貨ユーロ導入とヨーロッパ資本市場」(中京経営研究, 第11巻, 第2号)2002年2月。「ユーロ域の企業金融と資本市場」(中京経営研究, 第17巻, 第1・2号)2007年12月。「世界金融危機」(中京経営研究, 第21巻, 第1・2号)2012年3月。 [学位] 修士(経営学)(大阪市立大学)
HARRIS, Richard ハリス, R. 国際コミュニケーション International Communication	Differences between cultures are the result of many complex factors — economic, geographic, linguistic, religious and historical. My research interest is in the ways in which these different cultural identities are embodied in the myths and metaphors of a society, giving rise to generally held but often unacknowledged social values. I am further interested in how these values are expressed in word and image and in how these emblems or symbols of cultural identity affect relations with representatives of other cultures with different symbolic referents and divergent value systems. [著書] PARADISE: A CULTURAL GUIDE (TIMES ACADEMIC PRESS, SINGAPORE) 1996, 2003. [学位] 博士(コミュニケーション)(ニュー・メキシコ大学)
CHUJO, Hideharu 中條 秀治 経営組織、経営管理 Organization Theory, Management	経営学の一分野である経営組織論および経営管理論は「運営」に関わる学問である。団体運営の仕組みである組織をどう構築し、それをいかに運用するかが重要なテーマとなります。 通常は、株式会社という営利団体の運営が議論の中心となりますが、ボランティア団体などの非営利団体の運営を対象とすることも可能です。私が現在取り組んでいる研究テーマは株式会社の成立原理やその内部構造の解明などです。 [著書]『企業組織とグローバル化』(共著)(世界思想社)2006年、『株式会社新論』(文真堂)2005年、『組織の概念』(文真堂)1998年、『戦略的組織論の構想』(共著)(同文館)1999年、『現代企業論講義』(共著)(中央経済社)1989年。 [学位] 博士(商学)(早稲田大学)
UMEDA, Morihiko 梅田 守彦 会計学 Accounting	以前は企業の経営管理に資する会計情報に関するところがテーマとしていたのですが、最近の私の関心は大学行財政・大学経営をめぐる問題へと移ってきました。ただし講義においては、大学などの非営利組織体を中心に取り上げるのではなく、企業の経営成績を判断したり企業価値を評価したりするための会計情報の活用方法について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。 [著書]『私立大学の財政分析ができる本』(共著)(大月書店)2001年、「私立大学財政の若干の課題について」『公会計研究』第4巻第1号, 2002年。 [学位] 修士(商学)(慶應義塾大学)

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

SATO, Yuji
佐藤 祐司
経営科学
Operations Research

組織や企業の運営には、その構成主体による合理的選択と非合理的な選択が混在しています。オペレーションズ・リサーチの方法論の中でも、主として客観情報に基づく合理的選択のあり方を分析するゲーム理論や、現実の社会において見られる主観情報に基づく非合理的選択を対象とする階層分析法などを用いて、より良い運営のあり方について研究しています。

〔著書〕『サービスサイエンスの理論と実際』（共著）（近代科学社）2011年、*The Analytic Hierarchy & Network Process—Application in Solving Multi-criteria Decision Problems*（共著）（Jegellonian University Press）2008年、『企業・行政のためのAHP事例集』（共著）（日科技連出版）2007年。〔論文〕"Optimal Budget Planning for Investment in Safety Measures of a Chemical Company" (*International Journal of Production Economics* Vol.140) 2012年、"A Marginal Analysis Guided Technology Evaluation and Selection"（共著）(*International Journal of Production Economics* Vol.131) 2011年。

〔学位〕博士（工学）（慶應義塾大学）

ASAI, Noriko
浅井 紀子
生産管理
Production Management

Focusing on the concept of 『Synthesiology』, this course examines how the nature of technology affects global competitive position. The special topics in Production Management are IoT and AI. Emerging technologies such as Robot revolution, Hydrogen society, Aerospace will alter the business or social landscape. Huge technological system composes wide range of element technologies. The technologies have a huge potential economic impact that will drive truly massive economic transformations and create value network that will eventually replace existing products.

〔著書〕『モノづくりのマネジメント—人を育て企業を育てる—』（中央経済社）2006年。『スキルの競争力—強いモノづくり継承のために—』（中央経済社）2002年、『技術転換局面におけるリスクとポテンシャル』日本経営学会統一論題経営学論集第85集、2015年。

〔学位〕博士（経済学）（名古屋大学）

MUKAHI, Tsuneki
向日 恒喜
情報管理
Information Management

情報管理のツールである情報システムと、情報管理を行う人間との関係に注目し、情報システムが企業組織、職務、そして人間に与える影響について研究する。特にアンケート調査によるアプローチを中心とし、人間をも含めた情報システムのあり方について検討していく。

〔著書〕『人間と情報システム—アンケート調査による研究—』（税務経理協会）2000年、『電子掲示板における信頼、個人特性、参加者特性が情報共有・伝播に与える影響』（経営情報学会誌、第17巻、第1号）2008年、『企業組織におけるソーシャル・キャピタルと知識創造プロセスとの関係』（経営情報学会誌、第17巻、第4号）2009年。

〔学位〕博士（工学）（大阪工業大学）

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

JUHN, Wooseok

銭 佑 錫

国際経営
International Business
Management

企業のグローバルな事業展開が大きな研究テーマである。現在は、その中でもグローバル事業における海外子会社の創造的な役割に焦点を当てて研究を進めている。方法論としては、事例分析と統計分析をまじえた分析手法を目指している。

〔著書〕『日本型経営・生産システムと EU—ハイブリッド工場の比較分析—』（共著）（ミネルヴァ書房）2005年。『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（共著）（東洋経済新報社）2006年。『中東欧の日系ハイブリッド工場』（共著）（東洋経済新報社）2006年。『日本石油・ガス企業の国際競争戦略—国際石油メジャー・日本製造企業との比較』（共著）（ミネルヴァ書房）2008年。『ラテンアメリカにおける日本企業の経営』（共著）（中央経済社）2009年。『中国における日・韓・台企業の経営比較』（共著）（ミネルヴァ書房）2010年。「日本多国籍企業の海外子会社におけるイノベーションの創出—『創造型』海外子会社の可能性—」（『中京経営研究』第20巻第1・2号）2011年。「自動車部品企業の生産現場能力に関する日韓比較—技術と技能の観点から—」（『中京経営研究』第20巻第1・2号）2012年。「ボッシュの国際経営—グローバルな社内標準化と「創造型」海外子会社—」（『赤門マネジメント・レビュー』第13巻第6号）2014年。
〔学位〕修士（経済学）（東京大学）

YAMAZAKI, Kiyohiro

山 崎 喜代宏

経営戦略
Strategic Management

製造企業、とりわけエレクトロニクス企業の経営戦略について研究している。特に、現在は「製品において基盤的な技術を保有しない企業が、どのように競争をし、優位性を構築していくのか」というテーマを考察している。通常、技術や資源を保有する企業が競争優位に立つと考えられるが、そのような資源を持たない企業でも戦略によっては、競争力を持つことができる。一見すると不利で厳しい状況にある企業が強さを発揮するというような逆説的な経営現象に興味を持ち、その戦略や論理を探求している。

〔著書〕「中核技術を保有しない企業の戦略に関する研究—その優位性の論理—」（博士論文）2009年。「先行産業における製品開発が新産業での製品開発に及ぼす影響」（『中京経営研究』第19巻第1号）2009年。「Advantages of the Firm without Center Technology: A Case Study of Casio Computer」（『中京経営研究』第19巻第2号）2010年。
〔学位〕博士（経営学）神戸大学

SAKURAI, Tadimitsu

櫻 井 雅 充

人的資源管理
Human Resource Management

人的資源管理が従業員のアイデンティティ形成に与える影響について研究しています。人的資源管理は、従業員の管理に関するあらゆる取り組みを扱う領域ですが、その根底には従業員の資源性を最大限に発揮させようとする考え方があります。そうした考え方に基づいた様々な取り組みが、管理の対象となる従業員の性質の変容に及ぼす影響について関心を抱いています。

〔著書〕「HRM が構成する現実: ERP パッケージ導入を通じた給与計算業務改革」（共著）（日本情報経営学会誌、第34巻、第2号）2014年。「HRM 研究における研究成果の有用性を巡る—考察—プラグマティズムの真理観を手掛かりにして—」（経営学史学会年報、第19輯）2012年。
〔学位〕博士（経営学）神戸大学

工学研究科

〈2017年4月開設〉

【設置キャンパス：名古屋】

機械システム工学専攻 修士課程

電気電子工学専攻 修士課程

【設置キャンパス：豊田】

情報工学専攻 修士課程

掲載内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・専任教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

●機械システム工学専攻・電気電子工学専攻

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

●情報工学専攻

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課豊田オフィス TEL：(0565) 46-6141

1 選抜方法

一般選抜

選抜にあたっては、次の内容を総合して合否を判定します。

- ①当日の試験（筆記試験、口頭試問）
- ②卒業論文またはこれに代わる業績を記す書類
- ③研究計画書
- ④出身大学の成績

学内特別選抜

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

学内特別選抜については別冊子『2017年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

一般選抜

入学定員	機械システム工学専攻（名古屋キャンパス設置） 7名※ 電気電子工学専攻（名古屋キャンパス設置） 7名※ 情報工学専攻（豊田キャンパス設置） 8名※ ※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。
出願期間	前期日程 2016年 6月13日(月)～ 6月17日(金) 消印有効 後期日程 2017年 1月30日(月)～ 2月 9日(木) ※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	前期日程 2016年 7月 1日(金)・7月 2日(土) 後期日程 2017年 2月24日(金)・2月25日(土)
集合場所 集合時間	機械システム工学専攻 名古屋キャンパス 0号館（センタービル）正面入口〈建物内〉 電気電子工学専攻 9:30集合 情報工学専攻 豊田キャンパス 11号館1階ロビー 9:30集合

試験科目・ 時間等	10:00~11:00	英語	【3専攻共通】 英和辞典1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。
	1日目	13:00~15:00	専門科目
			【機械システム工学専攻】 次の3科目すべて解答 ①数学 ②機械システム ③プログラミング
			【電気電子工学専攻】 次の3科目すべて解答 ①数学 ②電気・電子回路 ③電磁気学
			【情報工学専攻】 次の6科目から試験当日3科目選択して解答 ①数学 ②プログラミング ③データ構造とアルゴリズム ④計算機基礎 ⑤画像処理・CG ⑥メディア応用
2日目	10:00~	口頭試問	【3専攻共通】 研究業績および研究計画を中心に口頭試問を行います。

専門科目の 出題範囲	【機械システム工学専攻】 ①数学：幾何学、解析学、線形代数学 ②機械システム：機械力学、機械設計製作、電気・電子回路、生産システム ③プログラミング：C言語 *すべての分野または一部の分野から出題されます。
	【電気電子工学専攻】 ①数学：幾何学、解析学、線形代数学 ②電気・電子回路：科目名が出題範囲を示しています ③電磁気学：科目名が出題範囲を示しています
	【情報工学専攻】 ①数学：幾何学、線形代数学 ②プログラミング：C言語 ③データ構造とアルゴリズム：科目名が出題範囲を示しています ④計算機基礎：アーキテクチャ、デジタル回路 ⑤画像処理・CG：科目名が出題範囲を示しています ⑥メディア応用：映像メディア、音響メディア

合否通知 発送日	前期日程	2016年 7月15日(金)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
	後期日程	2017年 3月 7日(火)	

入学手続 締切日	前期日程	第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年 7月22日(金) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効
	後期日程	入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着
-------------	-------------------

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票 写 真 票 検定料払込票 宛 名 シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—工学・志願書**
- ②「志望指導教員名」欄は、「専任教員組織」ページを参照の上、記入してください。
- ③「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ④「卒業論文またはこれに代わる業績の概要」欄について、出願時点で卒業論文等を作成中の場合は予定を記入してください。

卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)

最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

論 文

卒業論文またはこれに代わる業績を記す書類。
※コピー可。返却はしません。
※論文が未完の場合は提出は不要です。
※本学工学部、情報理工学部、情報科学部、生命システム工学部を卒業した者（卒業見込の者）は提出は不要です。

研究計画書

本研究科で研究したいテーマ・内容について記入してください（A4判用紙、書式自由）。

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

工学研究科 機械システム工学専攻 修士課程

概要および特色

機械システム工学専攻では、人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術、システム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成することをねらいとしている。そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論、特論での知識を深め定着させる演習系のセミナーおよび研究を主体とした機械システム工学特別実験および演習を配置している。これらの科目で養成された専門能力を生かし、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

特論およびセミナーは、学生の想定進路をもとに3つの履修モデルに分類された先進的研究教育が受けられる。

1. 機械技術系分野では、メカトロニクス、知能制御、機械制御や機械計測についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
2. 情報技術系分野では、センサ情報処理、生体情報処理、画像処理についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
3. システム技術系分野では、マン・マシンシステム、システム材料、生産システムについて、理論と実践の両面から高度な専門性を獲得する。
4. 機械システム工学特別実験および演習は、研究指導および論文指導を含み、修士にふさわしい研究を行うための活動である。この科目では機械システム技術者として必要な問題発見および問題解決能力、研究計画立案・研究推進能力を養うとともに、学会等での対外活動や外部との共同研究や企画・プレゼンテーション・知的財産保護ができる能力を養成する。

本学では、よりよい教育研究のため、各研究科・専攻の「人材養成に関する目的」を定めています。

●機械システム工学専攻の「人材の養成に関する目的」

人間生活を豊かにするため、機械工学、情報技術及びシステム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成する。研究計画を立て自由な議論を行いながら、研究を行い問題解決できる能力を培い、事実に関する観察・調査・問題発見能力、指導力、プレゼンテーション能力及び報告書作成能力を持つ人材を育成する。さらに起業家精神を有し、経営・管理運営に能力を発揮する人材及び新技術・新産業分野の開拓に能力を発揮する人材を養成する。

工学研究科 電気電子工学専攻 修士課程

概要および特色

電気電子工学専攻は、数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者及び研究者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。

そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論科目、専門知識を深め定着させる演習系のセミナー科目、および研究を主体とした研究指導科目を置く。これらの科目で養成された専門能力を活かし、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

専門科目は、将来の進路を想定して5つの履修モデル（下記）に分類されており、電気・電子・情報・通信の幅広い分野をバランスよくカバーしている。

1. エレクトロニクス分野では、デバイス、電子回路、組込みシステム等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。
2. 制御・メカトロニクス分野では、ロボット、制御システム等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。
3. 情報・画像分野では、情報システム、画像応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。
4. 通信・電波分野では、無線通信システム、電波応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。
5. 電気分野では、電力システム、電気機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。

研究指導科目は、個別指導による研究活動を通して、問題を発見し解決する能力、高度な専門的能力とイノベーション創出能力、予測困難な問題に対する柔軟な対応能力等を身につけるが、更に、企業との共同研究、学会活動等を通じて、外部と切磋琢磨し協同する能力、自己表現する能力、対人関係力等を併せ身に付けることができる。

本学では、よりよい教育研究のため、各研究科・専攻の「人材養成に関する目的」を定めています。

●電気電子工学専攻の「人材の養成に関する目的」

数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者及び研究者を養成する。専門知識は細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。また、デバイスとシステムのように異なる専門領域に強みを持つ人材の養成を重視する。具体的には、デバイス、電子回路、組込みシステム等の研究開発を行うエレクトロニクス分野、ロボット、制御システム等の研究開発を行う制御・メカトロニクス分野、無線通信システム、電波応用機器等の研究開発を行う通信・電波分野、情報システム、画像応用機器等の研究開発を行う情報・画像分野、電力システム及び電気機器等の研究開発を行う電気分野の5つの分野の技術者を養成する。

工学研究科 情報工学専攻 修士課程

概要および特色

情報工学専攻では、人と人をつなぐメディア技術と、それを構成するソフトウェア技術、およびその基盤となる情報システム技術に精通し、それらの技術を駆使して表現することにより、最終的に情報科学における高度な技術と知識を身につけ、それらを製品やシステムに組み込むことができる専門技術者、および将来の情報技術への貢献に寄与できる研究者を養成する。

社会の中でのメディア・情報技術の役割を理解し、地域や国際社会の情勢も視野に入れつつ、工学のみならず、自然科学・社会科学の諸分野とも連携しながら、社会的責任を果たすことができる力を身につけることをめざす。

そのためカリキュラムでは、計算機システム、情報処理システム、画像情報処理、知能情報処理、メディアシステム、画像とCG、コミュニケーションと創造性等、それぞれに対して幅広く基礎を学ぶ特論科目と、分野ごとに専門的に学ぶセミナー科目を配置している。これらの科目で育成された専門能力を活かしながら、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

具体的には、以下の3つの履修モデルに基づき専門教育を行いつつ、これらの分野が協力し、学外交流及び地域や海外との連携を通して、実践的で視野の広い研究を展開できる環境を整える。

1. 情報システム分野では計算機システム、ネットワークシステムなどの情報システム系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。
2. ソフトウェア開発分野では情報処理、データベース管理などのソフトウェア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。
3. 情報メディア分野ではメディア・インターフェース、メディア表現などの情報メディア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。

本学では、よりよい教育研究のため、各研究科・専攻の「人材養成に関する目的」を定めています。

●情報工学専攻の「人材の養成に関する目的」

数理的な思考力とハードウェア、ソフトウェア及びメディア・データ処理の専門知識を持ち、システム設計構築、運用管理のできる高度専門技術者及び研究者を養成する。具体的には、インフラストラクチャ系システムの設計構築や運用の分野、画像応用や知識情報処理分野で高度なアプリケーションソフトウェアの設計や実装を行う分野並びにこれらのシステムを基盤としてコンテンツ開発や配信及びそれらにまつわるシステムを扱うメディア分野の3つの分野の技術者・研究者を養成する。

専任教員組織

機械システム工学専攻 修士課程

専任教授	井口弘和	感性情報処理論セミナー
〃	〃	人間工学基礎1
〃	種田行男	機械計測論セミナー
〃	沼田宗敏	環境材料工学セミナー
〃	野浪亨	画像センシング論応用セミナー
〃	橋本学	メカトロニクス論セミナー
〃	森島昭男	神経情報処理論基礎セミナー
〃	石原彰人	画像情報論基礎セミナー
〃	青木公也	ロボット知能論セミナー
〃	加納政芳	生産システム論基礎セミナー
〃	准教授 王建国	知能機械開発論基礎セミナー
〃	〃	清水優

電気電子工学専攻 修士課程

専任教授	白井英俊	統計的学習論
〃	〃	電波応用工学
〃	上林真司	ハードウェア信頼性工学
〃	〃	ハードウェア信頼性工学
〃	山中公博	デジタルシステム設計セミナー
〃	磯直行	技術表現論
〃	ハルトノ・ピトヨ	技術表現論
〃	准教授 須田潤	光エレクトロニクスセミナー
〃	〃	プラズマ工学セミナー
〃	村中崇信	量子力学セミナー
〃	〃	量子力学セミナー
〃	田口博久	システム制御工学セミナー
〃	〃	システム制御工学セミナー
〃	講師 青森久	画像工学論

※上記は2017年4月開設時に予定されている教員組織です。

情報工学専攻 修士課程

専任教授	長谷川 純 一	画像処理論セミナー
〃	〃 カール・ストーン	音楽情報論セミナー
〃	〃 宮 田 義 郎	コラボレーション論セミナー
〃	〃 長谷川 明 生	ネットワークコンピューティング論セミナー
〃	〃 濱 川 礼	ソフトウェア設計論セミナー
〃	〃 伊 藤 秀 昭	データベース論セミナー
〃	〃 ラシキア 城 治	ソフトウェア開発論セミナー
〃	〃 小笠原 秀 美	知識情報運用論セミナー
〃	〃 鈴 木 常 彦	情報ネットワーク設計運用論セミナー
〃	〃 大 泉 和 文	インストール・アート論セミナー
〃	〃 宮 崎 慎 也	コンピュータ・グラフィックスセミナー
〃	〃 山 田 雅 之	メディア・インターフェース論セミナー
〃	〃 目加田 慶 人	パターン認識論セミナー
〃	〃 瀧 剛 志	可視化シミュレーション論セミナー
〃	准教授 土 屋 孝 文	知識情報処理論セミナー
〃	〃 上 芝 智 裕	情報デザイン論セミナー
〃	講 師 曾我部 哲 也	メディア・アート論セミナー
〃	〃 中 貴 俊	ネットワーク・メディア論セミナー
〃	〃 鬼 頭 信 貴	計算機アーキテクチャ論セミナー
〃	〃 道 満 恵 介	コンピュータ・ビジョンセミナー

※上記は2017年4月開設時に予定されている教員組織です。

5

教員の研究分野の紹介

<機械システム工学専攻>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
IGUCHI, Hirokazu 井口 弘 和 感性情報処理論 Kansei Informatics	環境や事象の変化をヒトは多面的に捉えて適応する力を有している。人に優しい環境やヒューマンインターフェース、および人と共存する機械を創造するには、ソフトウェア情報としての感性の特性が必要となる。この観点から、心理・生理状態のセンシング技術とマルチモーダルな人間の特性を解析する情報処理論および、その結果の活用法について論じる。
OIDA, Yukio 種田 行 男 健康増進学 Health Promotion	現代の健康増進は健康障害が起りやすい高リスク者を対象とするのみならず、比較的健康水準の高い集団をも対象としてその水準を長期に渡って維持するような保健活動が重要視されている。この実現には、情報や機械工学技術を活用したヘルスプロモーション活動が不可欠であり、そのための研究開発を行う。
NUMADA, Munetoshi 沼田 宗 敏 機械計測 Mechanical Measurement	表面性状計測・光計測・画像計測などに関する研究を行う。具体的には、1) 表面粗さ用ローパスフィルタの特性を研究する、2) 実用化に適したロバストな計測手法を開発する、3) 三次元表面性状に関する新しい計測手法や評価手法を提案する。
NONAMI, Toru 野 浪 亨 生体材料／材料科学 Bio-material / Material Science	環境にやさしい（環境調和性）、人にやさしい（アメニティー性）材料を開発する事を目的に、生体材料や環境保全材料、環境低負荷型材料の研究を行っています。例えば、人工骨や人工歯根として応用するための生体に同化するセラミックス、水や空気をきれいにしたり、皮膚や歯の審美性を追及する触媒や、生体を模倣した環境に負荷を与えない製造プロセスなど私たちが安心・安全に生活できる環境を実現する材料(エコマテリアル) を作製し解析、評価を行います。
HASHIMOTO, Manabu 橋 本 学 知的センシング Intelligent Sensing	ロボットシステムの知能化のために不可欠な、外界を認識するための知的センシングに関する幅広い研究をおこなっている。特に「人間の眼」に相当する視覚機能の実現を目指し、世界最高レベルのパターン照合技術や、高精度でロバストな3次元物体認識技術、人間の感情や感性を読み取るためのセンシング技術を開発している。またこれらの独自技術を知能ロボットと融合させるための応用開発にも取り組んでおり、コンピュータサイエンスを駆使して実用レベルの知覚システムを実現している。本研究室では、強大な出力が要求される災害現場・工事現場の極限作業ロボットから、超精密な動作が必要な手術用マイクロロボット、また柔軟な制御が欠かせない生活環境ロボットなど、多様な環境におけるロボットを研究対象とする。
MORISHIMA, Akio 森 島 昭 男 ロボティクス／メカトロニクス Robotics / Mechatronics	そして、それぞれの動作環境に最適な形態としてのロボットのデザインを行い、それを実現するためのメカニズム・センサ・アクチュエータなどの設計・製作を行う。さらに、そのロボットの能力を最大限発揮させるための制御アルゴリズムの考案・プログラミングを行う。そして上記全ての検証は、実機のロボットを用いた動作実験により行っていく。
ISHIHARA, Akito 石 原 彰 人 神経情報処理論 Neuroengineering and Neuroinformatics	生物の感覚系や脳神経系における情報処理メカニズムに関する研究や、それをサポートする計算科学を応用した研究支援ツールの開発を行う。特に視覚系における動画像処理機構に対して、構成するニューロンの細胞内組織レベルから詳細な数理モデルを構築し、生物の有する基本的な情報処理メカニズムの解明を目指している。
AOKI, Kimiya 青 木 公 也 画像処理／コンピュータビジョン Image Processing / Computer Vision	主に画像処理の産業的応用、ロボットビジョンに関する研究を行っている。前者については、例えば半導体素子や溶接部の非破壊検査の自動化システムを提案し、産学連携で研究を進めている。後者については、次世代ロボットにおける知的ビジョンシステムの開発に従事し、距離画像処理を軸とする3次元物体・環境認識のアルゴリズムを提案している。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
KANOHI, Masayoshi 加 納 政 芳 知能ロボティクス Artificial Intelligence and Robotics	人と共生するためのロボットについて研究する。具体的には、1) ロボットの身体性に基づいた感情表出を行うことで、人とロボットとのコミュニケーションに心理的インタラクションを創発させる、2) 不確実性や想定外の変化が起こる実環境に適応的に対処するための制御則を、学習・進化を通じて自動的にロボットに獲得させる、3) ヒューマノイドロボットのモーション生成・制御時の非転倒性や非干渉性などをチープデザインに基づいて制御する。
JIANGUO, Wang 王 建 国 経営組織論 Organization Theory	経営組織論は企業の経営活動を円滑に効率よく進めるための分業と協力のあり方を探求する学問である。企業の生産現場から、国民経済・世界経済に至るまで様々なレベルでの経済現象を「競争」と「協働」という二つの観点から捉えられるし、編成することもできる。「協働」と「競争」の視点から経済システム全体を包括し得る枠組みを構築することを研究の目標としているが、実証研究も重視し、特にトヨタ生産システムに代表される生産管理の研究に関心をもっている。
SHIMIZU, Masaru 清 水 優 移動ロボット Mobile Robot	小型移動ロボットのための要素技術の研究・開発、その応用としてレスキューロボットの開発を行っている。具体的には、小型ロボットへの実装を目標に、不整地や瓦礫内のための移動機構、ロボットの位置測定システム、学習・行動計画ソフトウェアなどの開発に取り組んでいる。

<電気電子工学専攻>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
SHIRAI, Hidetoshi 白井英俊 計算言語学 Computational Linguistics	<p>コンピュータを人間なみに賢くするための機械学習の研究に関心がある。人間は言葉を思考やコミュニケーションの手段として発達してきた。コンピュータも人間と同様に、文脈にそって言葉を理解し、新しい情報を抽出し、その内容と文脈に基づいて適切な応答や行動を行うためには、そのような機能をコンピュータが備えていかなければならないか、という問題を焦点として研究を進めている。</p> <p>中でも学習によって言葉を獲得する、画像情報から情報を抽出し、その状況を言葉で説明したり、質問に答えたりするシステムの開発に取り組んでいる。</p>
UEBAYASHI, Shinji 上林真司 電波工学 Electromagnetic Wave Engineering	<p>電波工学、電波応用工学、特に無線通信工学をカバーする。当面は、高周波帯における電波伝搬特性の解明（電磁界解析手法を用いた電波伝搬評価法等）、超高速無線伝送技術の研究（見通し環境における MIMO 無線伝送技術等）、移動通信における位置推定技術の研究（基地局-端末間の見通しが無いときの位置推定法等）を研究テーマとする。</p>
YAMANAKA, Kimihiro 山中公博 エレクトロニクス実装工学 Electronics Packaging Technology	<p>ますます高機能・小型化する携帯機器、さらに高性能化するサーバやスーパーコンピュータ、そして、環境対応へ加速しているハイブリッド車や電気自動車。いずれも、日本の得意分野であり、ものづくりの根幹であるエレクトロニクス実装技術なしには成り立たない製品である。研究室では、マイクロ接合技術とその信頼性技術、ギガ Hz デジタル信号の伝搬設計技術、環境にやさしいグリーンエレクトロニクス開発など、ハードウェアをコアにした技術を工学の観点から研究している。</p>
ISO, Naoyuki 磯直行 設計自動化 Design Automation	<p>近年の集積化技術の発展により、VLSI やプリント配線板などの論理装置の設計データ量が增大している。さらに、今まで考慮していなかった物理的性質が顕在化するようになり、多くの制約を満足できるより良い解を高速に求められる新しい設計手法が望まれている。装置の設計開発期間の短縮のため、効率の良い設計手法や CAD アルゴリズムの開発を行っている。</p>
HARTONO, Pitoyo ハルトノピトヨ 計算知能 Computational Intelligence	<p>計算機を用いた従来の情報処理アルゴリズムと自然界で見られる「知的」な問題解決手法の間に大きな相違点がある。計算知能の分野では、計算機を用いて神経回路の学習能力、生物または社会で見られる自己組織化や創発的な集団知能のような従来と異なる問題解決メカニズムの実現を目指す。これにより、新しい計算原理を構築できるだけでなく、生物学、物理学、工学や社会科学などの様々な分野に対し、新しい解析手法と知見を与えることが期待できる。</p>
SUDA, Jun 須田潤 計算材料科学／光物性工学 Computational Materials Science / Solid State Photonics	<p>スーパーコンピュータの出現により、実験が極めて困難な物理現象の情報を短時間で得ることが可能になり、産業界においては、大規模シミュレーションの精密な予測により、製品設計において大幅なコストダウンをもたらすと期待されている。本研究室では、大規模シミュレーションとラマン分光実験の両面から光エレクトロニクス材料やパワーエレクトロニクス材料の高性能化を目的とする研究に取り組んでいる。</p>
MURANAKA, Takanobu 村中崇信 宇宙機工学／プラズマ工学 Spacecraft Engineering / Plasma Engineering	<p>近年、人工衛星による通信等のインフラは日常生活に不可欠となり、また宇宙探査機による深宇宙探査も拡大しつつある。これらの宇宙機（人工衛星や探査機）は、ミッション中に発生する宇宙プラズマや電気推進機から放出されるプラズマとの相互作用で、その信頼性に大きく影響を受けることが知られている。本研究室では、数値シミュレーションとプラズマ実験でこの相互作用を解析し、宇宙機の信頼性向上につながる技術開発を行っている。</p>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
<p>TAGUCHI, Hirohisa</p> <p>田口博久</p> <p>量子効果デバイス工学 Quantum Effect Device Technology</p>	<p>Siを材料系とする電界効果トランジスタ（FET）の高性能化は微細化が中心となってきた。しかし材料系を化合物半導体とし、同時に化合物半導体のナノスケール積層構造を使用することにより、量子効果を得てFET内部での電子速度の劇的な向上を得た。量子効果デバイスは様々な化合物半導体を用いて構築され実に多彩な性能を示す。これらの量子効果デバイス物性を高周波応答特性と光応答特性の両面から追求し、デバイス内部での電子挙動モデルの解明や、新規デバイス構造の提案・開発を目指す。</p>
<p>HIRANA, Kazuaki</p> <p>平名計在</p> <p>ロボット制御 Control of Robotic System</p>	<p>離散値と連続値が混在する動的システムをハイブリッドダイナミカルシステムといい、近年注目を集めている。機械システムをハイブリッドダイナミカルシステムと捉え、従来容易ではなかった分野へのロボットの適用を図る。また、人間-機械システム、あるいは人間自体をハイブリッドダイナミカルシステムとして取り扱うことで様々な分野への応用を模索する。</p>
<p>AOMORI, Hisashi</p> <p>青森久</p> <p>知的情報処理 Intelligent Information Processing</p>	<p>生体の情報処理機構は、非線形素子である神経細胞が複雑に結びついたネットワークの機能により実現されているが、その原理は不明な点が多い。このため、脳や生体にヒントを得た情報処理機構を工学的に実現するだけでなく、神経回路網のダイナミクスの解明や網膜系情報処理機構のモデル化を理論・計算機シミュレーションなどを通して多角的に研究を推進する。</p>

<情報工学専攻>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
<p>HASEGAWA, Junichi 長谷川 純一 画像処理と物体認識 Image Processing and Object Recognition</p>	<p>画像処理と物体認識は、人間の高度な視覚情報処理をコンピュータで実現しようとする研究領域である。そのためには、2次元画像、3次元画像、あるいは、動画像などの処理手法やその組み合わせ方を知ることはもちろん、対象物体そのものの知識やその画像上での見え方をよく理解した上で、適切かつ斬新な抽出手順や認識手順を構築することが必要になる。この技術はすでに、産業、航空・宇宙、医療、交通など多くの分野で応用されているが、今後さらに多くの分野で新しい応用が期待されている。</p>
<p>Carl, STONE カール・ストーン コンピュータミュージック Computer Music</p>	<p>A composer researching advanced techniques in music software design, digital signal processing, performance, real time music networks, and non-real time audio processing techniques. Recent work includes multi-channel sound installations at Engine27, New York City, Tokyo, Nagoya. Recent performances in Berlin, Paris, Rotterdam, Strasbourg, Tokyo etc. CD 'Nak Won' released November 2002 on Sonore Records (France)</p>
<p>MIYATA, Yoshiro 宮田 義郎 メディアと文化 Media and Culture</p>	<p>日常使用している道具や製品のグローバルな生産過程が見えなくなり、消費者と生産者が分断されたことで、エネルギー、環境などの問題の解決が困難になっている。これらの問題の構造を解明し、ローカルな日常をグローバルな視点から見直すモノ作りの在り方を研究する。一般ユーザーや子供達が、必要なモノをローカルな資源と技術を活かして制作し、30カ国以上が参画する World Museum Project でグローバルにもコラボレーションするコミュニティーを展開していく。</p>
<p>HASEGAWA, Akiumi 長谷川 明生 ネットワークセキュリティ Network Security</p>	<p>コンピュータのオペレーティングシステムやコンパイラ等のシステムソフトウェアの構造や構成についてシステム・プログラミング技術を習得することを通して理解する。また、それらの基礎知識の上に立ち、ネットワークを構成する技術について、その構造やソフトウェアの構成を理解し、コンピュータシステムのセキュリティについて幅広く研究する。</p>
<p>HAMAKAWA, Rei 濱川 礼 知的情報工学 Intelligent Information Engineering</p>	<p>知的情報工学という観点から、コンピュータ情報をユーザ毎にカスタマイズして利用できるインタラクションを中心に研究を進めている。開発対象となるシステムは、最新のデバイス（全天球カメラ、ヘッドマウントディスプレイ等）と組み合わせて、マルチメディアシステム、検索システム、適応型環境提供、ネットワーク・Web 応用システム等多岐に及ぶ。 (参考) Multimedia Objects, "Handbook of Multimedia Computing Chapter 3", CRC Press, 1998, Composite Objects, "Handbook of Multimedia Information Management Chapter 5", Prentice Hall, 1996, マルチメディアとコンカレント工学, —マルチメディアにおけるメディア間の記述—, 電子情報通信学会 コンカレント工学研究, 1994</p>
<p>ITO, Hideaki 伊藤 秀昭 知識工学/データ工学 Knowledge and Data Engi- neering</p>	<p>知識工学およびデータ工学は、情報の表現と利用法を高度化するための技術である。知識やデータを計算機で利用するには、より適切な方法でそれらを表現し、表現された対象の検索や更新が適切に行われるようなツールの整備が望まれる。このために知識やデータを表現するための人工知能を応用したソフトウェアツールを研究開発している。</p>

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
LASHKIA, George ラシキア 城治 計算科学 Computational Science	主に情報科学における IT 分野の研究を行っている。基本的には、コンピュータの自己学習、ウェブコンピューティング、ネットワークセキュリティ、言語処理、最適化、ソフト開発など。 (参考) “Relevant, Irredundant Feature Selection and Noisy Example Elimination”, IEEE Trans. Syst., Man, Cybern. Part B, Vol.34, No.2, 2004. “Mover: A machine learning tool to assist in the reading and writing of technical papers”, IEEE Trans. on Professional Communication, Vol.46, No.3, 2003.
OGASAWARA, Hidemi 小笠原 秀美 認知モデル Cognitive Modeling	認知科学、特に学習や実時間環境での認知に興味を持っている。そのために二値データに基づくクラスタリング、長時間圧を持つ課題を用いた問題解決に関する心理実験・観察及びそのデータに基づく計算機モデルの作成などの研究を行っている。またこれらの研究のベースとなる Soar などの認知アーキテクチャにも関心がある。
SUZUKI, Tsunehiko 鈴木 常彦 地域ネットワーク基盤技術 Regional Network Infrastructure Technology	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ネットワーク基盤技術：東京一極集中の日本のインターネットを地域分散するための、ルーティング（地域 IX）、コンテンツ配信技術等の研究 ・セキュリティ技術：DNS の諸問題解決、spam 対策技術開発等、インターネット崩壊の危機に対処するための研究
OIZUMI, Kazufumi 大泉 和文 メディア・アート Media Art	今日、メディア・アートと総称される、情報メディアを支援ツールとした視覚芸術を専攻する。作家の立場から、アートとテクノロジーの諸問題を取り扱う。 具体的には、① CTG (Computer Technique Group) を中心としたメディア・アート史の研究 ②インタラクティブな機構を取り入れた大規模インスタレーション作品の制作などを進めている。
MIYAZAKI, Shinya 宮崎 慎也 リアルタイム CG 応用 Real-time Computer Graphics Applications	コンピュータのグラフィックス能力の飛躍的な向上により CG を利用した究極のマンマシンインターフェイスが到来した。人工現実感 (VR) は現在のコンピュータグラフィックスの主な活用分野の一つであり、この分野で今後重要視される技術として、非剛体物体のモデリング、立体表示システムを中心に新しい VR 技術の実現を目指す。リアルタイム CG は、アミューズメントの分野をはじめとして工業、医療など様々な分野で活用されており、将来性が期待されている技術である。それらを実現するために必要となるプログラミングやデバイス制御、アルゴリズムとデータ構造設計について幅広く研究を進めている。
YAMADA, Masashi 山田 雅之 知能情報処理 Artificial Intelligence	知的に振舞うメディアの実現を目的に知能情報処理の基盤技術とその応用を研究する。具体的には、画像処理やコンピュータグラフィックスなどの画像メディア技術と知能処理技術を利用した新しいインタラクションの研究、デジタルファブリケーションに関連する基礎理論や知的支援技術、システムの開発を進めている。
MEKADA, Yoshito 目加田 慶人 医用画像処理とコンピュータビジョン Medical Image Processing and Computer Vision	医用画像の診断支援技術に関する研究をおこなう。特に、肺、肝臓、胃を中心に、コンピュータ支援画像診断システムの実現のための技術開発として、臓器の抽出、病変の検出やその進行の程度評価、治療支援に関する手法開発に取り組む。 コンピュータビジョン技術の実利用に関する研究として、自動車内・車外の環境センシングと状況認識に挑戦する。
TAKI, Tsuyoshi 瀧 剛志 画像処理／ コンピュータグラフィックス Image Processing／ Computer Graphics	画像処理とコンピュータグラフィックスの基本技法の修得、および、それらを基礎とした応用システムの開発に主眼をおく。 特に、人の動作・行動をビデオカメラやモーションキャプチャ装置により取得し、映像や座標データから、行動の意味や目的を分析したり、また、コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティ機器を用いて動作・行動の特徴を分かりやすく表現するための情報呈示技術について研究・開発を行う。

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
TSUCHIYA, Takafumi 土屋孝文 ヒューマンコンピュータインタラクション Human Computer Interaction	コンピュータを用いた協調的作業や自然言語コミュニケーションの支援に関する研究を行っている。ネットワーク上の支援ソフトウェアの開発と評価が中心であるが、その設計には認知的作業を支える知識や推論に関する人工知能的研究、コミュニケーションに関する言語学的研究、グループダイナミクスに関する社会的研究が含まれる。
UESHIBA, Tomohiro 上芝智裕 メディア・アート Media Art	インタラクションやインターフェイスの領域を中核としたメディアアートの研究と制作。コンピュータパワーやネットワーク資源を潤沢に手にすることが可能となった現在、[作者]—[作品]—[鑑賞者]間の相互作用に新たな質的变化の可能性を探り、作品の制作と発表との両面における新しいシステムの構築を研究テーマとしている。近年、softpad というグループ名義で、デザイン、Web、ビデオ、音楽等、ジャンルを越えた幅広い作品の制作および発表を行っている。
SOGABE, Tetsuya 曾我部哲也 メディア・アート Media Art	映像メディアを主に扱い、インスタレーション作品、実写映像作品、CG 映像の研究と制作を行っている。 また、障害を持つ人の芸術作品制作の支援を行っており、デジタルメディアを用いた活動支援についての研究にも取り組み始めている。
NAKA, Takatoshi 中貴俊 ICTメディア応用とインターネット ICT and Media Applications	ネットワーク技術やコンピュータグラフィックス技術を中核として、スマートデバイスを含む ICT メディアを活用した研究をする。 具体的には、3DCG やネットワーク技術を活用したタブレット端末に向けたデジタル教材開発やその活用など、教育、芸術、産業分野への幅広い社会応用についての研究を行っている。
KITO, Nobutaka 鬼頭信貴 超高速・高信頼論理回路の設計自動化 Design automation of high-speed/ dependable logic circuits	マイクロプロセッサなどの論理回路は回路素子の微細化により高性能化が進んだが、同時に、消費電力の増大や、回路の動作時に誤りが生じるなどの問題が起こるようになった。そこで、2つの研究を進めている。一つは、低消費電力で高速動作が可能だが従来の半導体回路とは異なる性質を持つ超伝導単一磁束量子回路のための設計自動化手法の研究。もう一つは、一般の半導体回路について、回路の動作時の誤りを検出可能な論理回路や、故障に強い論理回路の設計とその自動化の研究である。
DOMAN, Keisuke 道満恵介 人の行動支援のための画像処理 Image Processing to Support Human Activity	画像処理・パターン認識の基礎技術、および、それらを用いた人の行動支援への応用を専攻する。具体的には、自動車運転支援のための走行環境理解に関する技術として、車載カメラ映像からの物体検出・認識、ドライバの視覚認知状態の推定等を研究している。また、料理支援のための映像解析に関する技術として、調理動作の認識、調理過程映像の要約、料理レシピのマルチメディア化等を研究している。

情報科学研究科
＜メディア科学専攻＞

教員名 および 専攻分野	専攻分野の内容
<p>KOSHIMIZU, Hiroyasu</p> <p>興水大和</p> <p>視覚の人工知能・情報科学 Artificial Intelligence and Computer Science of Vision</p>	<p>視覚の情報科学（コンピュータサイエンス）、人工知能研究を行っている。具体的研究テーマは、画像処理・理解の基礎的研究（Hough 変換、画像離散化理論）、マシンビジョン（産業応用）の研究、Hough 変換の研究、似顔絵生成の研究である。最近のホットなテーマには、</p> <ul style="list-style-type: none">・画像処理基礎と産業応用に関する研究・流し目カメラ（Askant Glance Camera Vision）実現の研究・人が視るように人を視る感性的マシンビジョンの研究・2D/3D などの似顔絵コンピュータ PICASSO 開発の研究 <p>がある。</p> <p>（参考）『コンピュータビジョン』（共著）（丸善），1990年3月、『感性の科学』（共著）（サイエンス社），1997年1月、『実践画像処理』（共著）（Springer-Verlag 東京），2000年10月、『新実践画像処理』（共著）（Linx），2001年6月、『ロボット工学ハンドブック』（共著）（コロナ社），2005年。</p>

情報科学研究科

情報認知科学専攻【博士後期課程】

メディア科学専攻【博士後期課程】

掲載内容

1. 選抜方法
2. 入学定員・試験日程・試験科目等
3. 出願書類
4. 研究科概要および特色・専任教員組織

教員の研究分野の紹介は「[工学研究科の該当ページ](#)」を参照してください。

出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学
手続等については「[研究科共通ページ](#)」を参照してください。

出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

●情報認知科学専攻

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課 TEL：(052) 835-9863

教学部大学院事務課豊田オフィス TEL：(0565) 46-6141

●メディア科学専攻

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課豊田オフィス TEL：(0565) 46-6141

2017
CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

入学者の選抜は、①当日の試験、②修士論文またはこれに代わる業績を記す書類、③研究計画書、④出身大学院の成績によって行います。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士後期課程

入学定員	情報認知科学専攻 4名 メディア科学専攻 2名
出願期間	(前期日程) 2016年 6月13日(月)～ 6月17日(金) (後期日程) 2017年 1月30日(月)～ 2月 9日(木) 消印有効 ※上記期間の平日(9:00～17:00)は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	(前期日程) 2016年 7月 1日(金) (後期日程) 2017年 2月24日(金)
集合場所 集合時間	①名古屋キャンパス 0号館(センタービル) 正面入口(建物内) 9:30集合 情報認知科学専攻 ②豊田キャンパス 11号館1階ロビー 9:30集合 ※集合場所は上記①②のいずれかを受験票送付時に通知します。 メディア科学専攻 豊田キャンパス 11号館1階ロビー 9:30集合
試験科目・ 時間等	10:00～12:00 英語 ※英和辞典1冊持込可(電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可)。 13:00～15:00 専門科目 15:30～ 口頭試問 ※研究業績および研究計画を中心とします。
合否通知 発送日	(前期日程) 2016年 7月15日(金) (後期日程) 2017年 3月 7日(火) 合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
入学手続 締切日	(前期日程) 第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年 7月22日(金) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効 (後期日程) 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効
入学辞退 締切日	2017年 3月31日(金) 必着

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票 写 真 票 検定料払込票 宛 名 シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—情報科学・志願書**
- ②「志望指導教員名」欄は、「専任教員組織」ページを参照の上、記入してください。
- ③「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入してください。
- ④「修士論文またはこれに代わる業績の概要」欄について、出願時点で修士論文等を作成中の場合は予定を記入してください。

学位授与証明書 成績証明書 (見込を含む)

最終出身大学院作成のものを提出してください。

論 文

- ①修士論文またはこれに代わる業績を記す書類。
 - ②学会への投稿論文の別刷り等。
- ※いずれもそのコピーで可。返却はしません。

研究計画書

本研究科で研究・制作したいテーマ・内容について記入してください（A4判用紙、書式自由）。

* 証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明する書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

情報科学研究科 情報認知科学専攻 博士後期課程

概要および特色

情報認知科学専攻の博士後期課程では、情報科学、認知科学、両者の融合の分野などで独り立ちして研究が行える高度な専門性と高い見識を備えた研究者の育成をねらいとしている。

このためカリキュラムでは、情報科学および認知科学に関し、基礎、計算、システム、社会科学の視点から深い考察を行う特論を設け、研究の分野に応じて必要な科目を選択できるようにしている。さらに情報認知科学に関する特殊演習を設け、それを通して適切な研究指導が行われる。

情報認知科学専攻の博士後期課程では、博士前期課程（修士課程）で展開されてきた情報科学あるいは認知科学分野の研究を継続発展させるのに十分な研究環境を有すると同時に、情報科学と認知科学の知見を有機的に組み合わせた融合的研究を行う環境も提供できる特色を備えている。現在普及しつつある高度情報社会では、提供される情報システムやサービスと利用する人間側の特性を如何にうまく整合させるかが大きな課題となっており、本専攻における情報認知融合の研究環境は、そのような境界領域的課題の研究の場としてふさわしい。

博士後期課程

専任教授	井口 弘和	情報認知科学特殊演習
〃	長谷川 明生	情報認知科学特殊演習
〃	白井 英俊	認知計算論特論 I
〃	種田 行男	情報認知科学特殊演習
〃	沼田 宗敏	情報認知科学特殊演習
〃	濱川 礼	情報システム特論 I
〃	上林 真司	認知システム特論 I
〃	山中 公博	情報認知科学特殊演習
〃	伊藤 秀昭	情報システム特論 I
〃	野浪 亨	情報認知科学特殊演習
〃	ラシキア 城治	情報システム特論 I
〃	小笠原 秀美	認知工学基礎特論 I
〃	橋本 学	情報認知科学特殊演習
〃	鈴木 常彦	情報科学基礎特論 I
〃	森島 昭男	情報認知科学特殊演習
〃	磯 直行	情報科学基礎特論 I
〃	目加田 慶人	情報認知科学特殊演習
〃	ハルトノ・ピトヨ	情報計算論特論 I
〃	青木 公也	情報計算論特論 I
〃	石原 彰人	情報認知科学特殊演習
〃	瀧 剛志	情報認知科学特殊演習
〃	加納 政芳	情報認知科学特殊演習
〃 准教授	王 建国	情報システム特論 I
〃	須田 潤	認知システム特論 I
〃	土屋 孝文	認知計算論特論 I
〃	清水 優	情報計算論特論 I
〃	村中 崇信	認知システム特論 I
〃	田口 博久	情報認知科学特殊演習
〃	平名 計在	情報認知科学特殊演習
〃 講師	青森 久	認知システム特論 I
〃	鬼頭 信貴	情報システム特論 I
〃	道満 恵介	情報システム特論 I

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

※教員の研究分野については、「工学研究科」のページを参照してください。

情報科学研究科 メディア科学専攻 博士後期課程

概要および特色

メディア科学専攻の博士後期課程では、メディア科学分野で独り立ちして研究が行える高度の専門性と高い見識を備えた研究者の育成をねらいとしている。

このためカリキュラムでは、まずメディアシステム、映像メディア、メディア交流、メディアアートの各分野に関し先進的技術を学ぶ特論を設け、研究の分野に応じて必要な科目を選択できるようにしている。さらにメディア科学に関する特殊演習を設け、それを通して適切な研究指導が行われる。

メディア科学専攻の博士後期課程では、マルチメディアの処理・表現とその応用に関し、工学的観点やデザイン・アートの観点から深く学び、高度で先進的な研究を実施できるのが大きな特色である。

専任教員組織

情報科学研究科長 長谷川 純 一

専任教員組織	専任教授	専任教授	専任教授
博士後期課程	〃	興水大和★	メディア・システム特論Ⅰ
	〃	長谷川純一	映像メディア特論Ⅰ
	〃	カール・ストーン	メディア・アート特論Ⅰ
	〃	宮田義郎	交流メディア特論Ⅰ
	〃	大泉和文	メディア・アート特論Ⅰ
	〃	宮崎慎也	映像メディア特論Ⅰ
	〃	山田雅之	映像メディア特論Ⅰ
	〃	准教授 上芝智裕	メディア・アート特論Ⅰ
	〃	講師 曾我部哲也	映像メディア特論Ⅰ
	〃	〃 中貴俊	メディア・システム特論Ⅰ

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

※教員の研究分野については、「工学研究科」のページを参照してください。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●情報科学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 情報認知科学専攻博士後期課程は、情報科学技術、認知科学およびその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家および高度専門技術者の養成を目的とする。ネットワークを含む情報システムや知的情報処理に関する研究専門家および高度専門技術者、学習支援やヒューマンインタフェースに関する研究専門家および高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。
- (2) メディア科学専攻博士後期課程は、メディアを含む情報科学技術、認知科学およびその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家および専門技術者の養成を目的とする。コンピュータを活用した創造的な表現が行なえる高度なメディア研究専門家および高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。

体育学研究科

体育学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

掲載内容
1. 選抜方法 2. 入学定員・試験日程・試験科目等 3. 出願書類 4. 研究科概要および特色・専任教員組織 5. 教員の研究分野の紹介
出願資格・出願方法・検定料・受験票の受け取り・試験当日の持ち物・入学 手続等については「 研究科共通ページ 」を参照してください。
出願書類（所定用紙）については 巻末 を確認してください。

入学試験に関する問い合わせ先

教学部大学院事務課豊田オフィス TEL：(0565)46-6141

2017
CHUKYO UNIVERSITY

1 選抜方法

入学者の選抜は、①当日の試験、②研究または学習計画書（博士前期課程社会人選抜志願者）および論文またはこれに代わる業績を記す書類（博士後期課程）、③出身大学・大学院の成績によって行います。
※同一日程に複数の選抜方式を併願することはできません。

2 入学定員・試験日程・試験科目等

博士前期(修士)課程

入学定員	体育学専攻 12名 ※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。
出願期間	前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月) 消印有効 後期日程 2017年 1月23日(月)～ 2月 2日(木) ※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。 詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。
試験日	前期日程 2016年10月 1日(土) 後期日程 2017年 2月18日(土)
集合場所 集合時間	一般選抜 豊田キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合 留学生選抜 豊田キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合 社会人選抜 豊田キャンパス 14号館1階ロビー 12:30集合
試験科目・ 時間等	10:00～12:00 外国語（英語） ※英和辞典1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。 【外国語試験の免除について】 以下の①～④のいずれかの基準を満たす場合、外国語の試験を免除する（免除を希望する場合は、得点を証明できる書類の原本をその他の出願書類とともに提出すること）。 ① TOEFL スコア61点以上（iBT）、173点以上（CBT）、500点以上（PBT）のいずれかであること ② TOEIC スコア650点以上 ③ IELTS スコア5.5以上 ④ 英検準1級以上 13:00～14:40 体育学 自由記述形式の問題（15問）のうち試験当日に5問選択し、解答する。 15:00～17:00 口頭試問 研究計画または学習計画および卒業論文を中心とする。 13:00～ 口頭試問 研究計画または学習計画を中心とする。 * 社会人選抜志願者とは入学時に社会人として3年以上の実務経験を有する者とする。

一般選抜

社会人選抜

試験科目・
時間等

留
学
生
選
抜

10:00~12:00	外国語（英語または日本語） 英語または日本語のいずれかを <u>出願時に選択し</u> （志願書に記入）、選択した言語を受験すること。 ※英和辞典1冊および日韓辞典、日中辞典等1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。 【外国語試験の免除について】 以下①②のいずれかの試験を2年以内に受験し、①②に記載する基準を満たす場合、外国語の試験（英語または日本語）を免除する（免除を希望する場合は、得点を証明できる書類の原本をその他の出願書類とともに提出すること）。 ①日本語能力試験（JLPT）でN1レベル ②日本留学試験（EJU）の日本語のスコア200点以上
13:00~14:40	体育学 自由記述形式の問題（15問）のうち試験当日に2問選択し、解答する。 ※ただし、日本の大学を卒業した留学生選抜志願者（卒業見込を含む）については、 <u>試験当日に3問選択し</u> 、解答する。
15:00~17:00	口頭試問 研究計画または学習計画および卒業論文を中心とする。 *日本において、高等学校段階までの教育を修了した者は、留学生選抜志願者には該当しない。

合 否 通 知
発 送 日

前期日程	2016年10月11日(火)	合格者・不合格者とも通知書を郵送します。
後期日程	2017年 2月28日(火)	

入 学 手 続
締 切 日

前期日程	第一次入学手続(入学金の納入のみ) 2016年10月18日(火) 最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効
後期日程	入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付) 2017年 3月14日(火) 消印有効

入 学 辞 退
締 切 日

2017年 3月31日(金) 必着

博士後期課程

入学定員

体育学専攻 4名

※上記定員は全試験区分（選抜方式）合算の人数です。

出願期間

前期日程 2016年 9月 1日(木)～ 9月12日(月)

後期日程 2017年 1月23日(月)～ 2月 2日(木)

消印有効

※上記期間の平日（9：00～17：00）は、大学院事務課窓口でも出願を受け付けます。
詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

試験日

前期日程 2016年10月 1日(土)

後期日程 2017年 2月18日(土)

集合場所 集合時間

豊田キャンパス 14号館1階ロビー 9:30集合

試験科目・ 時間等

一般選抜

10:00～12:00 外国語A（専門英語）

体育学の専門分野の論文などを読解する英語能力を試すもの。英文を読み、日本語で答える形式。

※英和辞典1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。

13:00～

口頭試問

研究計画および修士論文あるいは既研究概要を中心とする。

留学生選抜

10:00～12:00 外国語B（日本語）

※英和辞典1冊および日韓辞典、日中辞典など1冊持込可（電子辞書およびこれに類する機器の持込は不可）。

13:00～

口頭試問

研究計画および修士論文あるいは既研究概要を中心とする。

*日本の大学における学部を卒業した者は、留学生選抜志願者には該当しないため、一般選抜志願者となる。

合否通知 発送日

前期日程 2016年10月11日(火)

後期日程 2017年 2月28日(火)

合格者・不合格者とも通知書を郵送します。

入学手続 締切日

前期日程 第一次入学手続(入学金の納入のみ)

2016年10月18日(火)

最終入学手続(授業料等の納入および手続書類送付)

2017年 3月14日(火) 消印有効

後期日程 入学手続(入学金・授業料等の納入および手続書類送付)

2017年 3月14日(火) 消印有効

入学辞退 締切日

2017年 3月31日(金) 必着

3 出願書類

注意事項

- ①書類は黒色のペンまたはボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

受 験 票 写 真 票 検定料払込票 宛 名 シール

詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

志 願 書

- ①所定の用紙を使用してください。→ **巻末—体育学・志願書**
- ②志望する指導教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。志望する学系（分野）や指導教員の選択にあたって不明な点は、教学部大学院事務課にお問い合わせください。なお、指導教員は入学決定後に最終決定します。
- ③博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、在学期間を選択してください。ただし、選択した在学期間のいかにかわらず、4年を超えて在学することはできません（長期履修制度については、研究科共通ページ「10. 学費等」を参照してください）。
- ④「修士論文または卒業論文」欄は、博士前期（修士）課程志願者のみ記入してください。なお、博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者で卒業論文を作成した者は卒業論文についてその題目と概要を記入してください。
学部卒業者で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入してください。修士論文および卒業論文未完の場合は、出願時点において予定している題目および概要を記入してください。別紙（A4判用紙）での提出も認めますが、その場合は「別紙参照」と明記してください。

証 明 書 そ の 他

博士前期課程（修士）

卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)

最終出身大学作成のものを提出してください。
※大学院を修了した者または修了見込の者は、その学位授与証明書および成績証明書も併せて提出してください。

研究計画書 もしくは 学習計画書

社会人選抜志願者のみ提出してください。
本研究科に入学した場合の研究もしくは学習に関する目標や計画について志望動機等も含め、3,000字程度にまとめたものを**5部**提出してください（出願前に希望する系の教員と研究計画について打合せすることが望ましい）。

語学試験 証明書

語学関係試験の免除を申請する場合には、証明書類の原本を提出してください。

博士後期課程

卒業証明書 成績証明書 (見込を含む)

最終出身大学院作成のものを提出してください。

論 文

- ①修士論文およびその要旨（A4判用紙、4,000字程度）を**各3部**提出してください。要旨は日本語で記述してください。
- ②前期日程志願者で修士論文が未完の場合、研究の中間報告書（A4判用紙、4,000字程度）**3部**の提出をもって①に代えることができます。
- ③修士論文以外の既刊行研究論文を提出する者は、当該論文とその要旨（A4判用紙、4,000字程度）**各3部**を提出しても構いません。
※いずれもそのコピーで可。返却はしません。

語学試験 証明書

TOEIC、TOEFL、もしくはIELTSのスコア票（試験日の2年前までに受験したスコアに限る）の原本を提出してください（コピーは不可）。

*証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合は、氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）も併せて提出してください。

外国人留学生は、上記の他に「日本語の学力に関する書類」「住民票（写し）」「身元保証書」「パスポートのコピー」を提出してください。詳細は、研究科共通ページ「5. 出願について」を参照してください。

4 研究科概要および特色・専任教員組織

近年、様々な方面で体育・スポーツに対する関心・需要が高まっている。こうした社会の要望に適切に対処するため、本体育学研究科では体育・スポーツに関する高度でかつ多面的な研究が不可欠であるとの認識に立って、次のような分野の教育・研究に取り組んでいる。

- ① 健康づくりに関する研究
- ② 体力づくりに関する研究
- ③ 運動の精神的効果に関する研究
- ④ スポーツの社会科学研究
- ⑤ スポーツの歴史、文化に関する研究
- ⑥ 生涯スポーツに関する研究
- ⑦ 競技力向上に関する研究

総合科学としての体育学の特徴をふまえ、本研究科は5つの系からカリキュラムを編成し、研究指導等を行っている。

系別の特色は次のとおりである。

【スポーツ文化・社会科学系】

スポーツにかかわる思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを、幅広い問題意識のなかで捉え、これを科学的方法論に即して分析・検討を加える。

【スポーツ認知・行動科学系】

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

【スポーツ生理学系】

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

【健康科学系】

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康の関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

【応用スポーツ科学系】

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多分野、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

博士前期（修士）課程の目標は研究者の養成と高度な専門性を備えた職業人の養成に置いているので、できるかぎり多彩な科目を用意することに心掛けている。

博士後期課程の特色は、2か年の博士前期（修士）課程の上に3か年の博士後期課程を乗せるという積み上げ方式をとり、他大学の修士課程修了者および外国人留学生を積極的に受け入れる方針を取っていることである。

また、博士後期課程の目標は自立した研究者を養成することにあるので、教育の中心は系毎に開かれる複数教員の参加するセミナー、および個人指導を中心とした研究指導に置かれている。

研究科全体のもう一つの特徴は、本学にある他の研究科との単位互換制度を取り入れていることである。この制度を利用することにより、スポーツ文化・社会科学系と社会学研究科・経営学研究科、スポーツ認知・行動科学系あるいは健康科学系と心理学研究科、応用スポーツ科学系と工学研究科・情報科学研究科など、様々な組み合わせ履修が可能となっている。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。体育学研究科については、以下の通りです。

●体育学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、博士後期課程に進学して体育学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、体育学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

体育学研究科長 渡 邊 丈 眞

博士前期課程
(修士課程)

[スポーツ文化・社会科学系]

専任教授	近藤良享	スポーツ原論研究
〃	菊池秀夫	スポーツ経営学研究
〃	來田享子	スポーツ史研究
実験実習助手	岩佐直樹★	

[スポーツ認知・行動科学系]

専任教授	家田重晴	健康心理学研究
〃	山田憲政	スポーツ認知行動論研究
実験実習助手	橋本泰裕★	

[スポーツ生理学系]

専任教授	松本孝朗	運動栄養学研究
〃	梅村義久	運動生理学研究Ⅰ
〃	荒牧勇	運動生理学研究Ⅱ
実験実習助手	原田健次★	

[健康科学系]

専任教授	渡邊丈眞	スポーツ衛生学研究
〃	坂本龍雄	疫学研究
〃	清水卓也	スポーツ医学研究
〃	光山浩人	スポーツ健康学研究
専任講師	倉持梨恵子★	機能解剖学研究
実験実習助手	押村果奈★	

[応用スポーツ科学系]

専任教授	湯浅景元★	コーチング論研究
〃	桜井伸二	スポーツバイオメカニクス研究
〃	高橋繁浩	コンディショニング研究
専任准教授	田内健二	応用スポーツ科学研究セミナー
実験実習助手	豊嶋陵司★	

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

博士後期課程

専任教授	湯浅景元★	応用スポーツ科学特殊研究・研究指導
〃	家田重晴	スポーツ認知・行動科学特殊研究・研究指導
〃	近藤良享★	スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導
〃	菊池秀夫	スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導
〃	渡邊丈真	健康科学特殊研究・研究指導
〃	桜井伸二	応用スポーツ科学特殊研究・研究指導
〃	坂本龍雄	健康科学特殊研究・研究指導
〃	清水卓也	健康科学特殊研究・研究指導
〃	松本孝朗	スポーツ生理学特殊研究・研究指導
〃	梅村義久	スポーツ生理学特殊研究・研究指導
〃	光山浩人	健康科学特殊研究・研究指導
〃	山田憲政	スポーツ認知・行動科学特殊研究・研究指導
〃	高橋繁浩	応用スポーツ科学特殊研究・研究指導
〃	來田享子	スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導
〃	荒牧勇	スポーツ生理学特殊研究・研究指導
専任准教授	田内健二	応用スポーツ科学特殊研究・研究指導
専任講師	倉持梨恵子★	健康科学特殊研究・研究指導

★…指導教員として選択できません。

※上記は2016年5月現在の教員組織です。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

KONDO, Yoshitaka
近藤 良享
スポーツ倫理学
Sport Ethics

スポーツの価値が高まる中で、様々な問題が浮上している。これまでの価値判断基準では裁定できないような事例に対して、応用倫理学的方法を援用しながら、その解決の方向を探っていく。キーワードは、フェアプレイ、自己決定、パターンリズムであり、具体的対象には、ドーピング、環境、暴力・体罰、ジェンダー、メディア、審判・判定問題などがある。
(主な著作) 近藤良享『スポーツ倫理』不昧堂出版(2012)、近藤編著『スポーツ倫理の探究』大修館書店(2004)、友添・近藤編著『スポーツ倫理を問う』大修館書店(2000)。

KIKUCHI, Hideo
菊池 秀夫
スポーツ経営学
Sport and Recreation
Management

スポーツやレクリエーション・サービスの提供に関わるマイクロ・マクロの問題について、消費者志向であるマーケティングの立場から検討している。参加者のニーズやベネフィット、選好、満足度等の把握をはじめとして、様々な消費者行動の分析枠組みに基づき、適切なサービスのあり方とそれを提供するシステムづくりについて関心がある。
(主な著作) 『生涯スポーツのマーケティング』(川西・野川編著「生涯スポーツ実践論」市村出版), 2012、『スポーツ組織の経営資源』(山下ら編「スポーツ経営学」大修館書店), 2000、『健康・スポーツの社会学』共著(建帛社), 1996。

RAITA, Kyoko
来田 享子
スポーツ史
Sport History

スポーツ史専攻。特にオリンピック・ムーブメントの歴史に焦点をあて、スポーツ組織の権力のダイナミクス、ジェンダーなどの観点から国内外の史料を検討している。また、この検討で得られた歴史的知見をベースに、より多様な人々のスポーツの権利を保障するために必要とされる社会環境やスポーツそのものの変容についても考えている。
(主な著作) 「指標あるいは境界としての性別—なぜスポーツは性を分けて競技するのか」杉浦・建石・吉田・来田編『身体・性・生—個人の尊重とジェンダー』尚学社(2012)、「1960-1979年のIOCにおけるオリンピック競技大会への女性の参加問題をめぐる議論—IOC総会議事録の検討を中心に—」(スポーツとジェンダー研究 Vol.12, 2014)。

IEDA, Shigeharu
家田 重晴
学校保健学
School Health

これまで、保健行動に影響する要因についての研究、学校における健康教育内容体系に関する検討、交通安全教育・子どもの危機管理に関する研究などをしてきた。近年は主に、喫煙防止教育や脱タバコ対策に関する研究や活動をしている。
(主な著書) 家田重晴編著『保健科教育 改訂第3版』杏林書院, 2010、勝亦紘一・家田重晴編『新しい体育の授業づくり』大日本図書, 2012。

YAMADA, Norimasa
山田 憲政
知覚・運動科学、スポーツ心理学、
スポーツ・バイオメカニクス
Perception and motor system,
Sport Psychology,
Sport Biomechanics

身体運動を、心理・力学を統合する情報概念から包括的に捉え、アスリートの知覚、知覚と動きのダイナミクス、運動学習のメカニズム、運動情報の伝達メカニズムにアプローチする。
(主な著作) 『トップアスリートの動きは何が違うのか』(化学同人) 2011、『運動制御と運動学習』(分担)(共同医書出版) 1997。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

MATSUMOTO, Takaaki

松本孝朗

環境生理学・運動生理学
Environmental Physiology,
Exercise Physiology

環境が生態機能に及ぼす影響について研究する分野を環境生理学という。中でもヒトの暑熱適応、特に熱帯地住民の長期暑熱順化を主テーマとして取り組んできた。最近は運動・スポーツ・健康を中心とし、運動時の人の体温調節・エネルギー代謝への雨・風の影響、運動後の疲労回復法、ボクシングの減量、熱中症の予防など、幅広い研究を行っている。

(主な著書)『体温Ⅱ 体温調節システムとその適応』(分担)NAP,2010、『からだと温度の事典』(分担)朝倉書店、2010、(総説)暑熱への適応、日本医事新報、No.3893, 37-39, 1998。

UMEMURA, Yoshihisa

梅村義久

運動生理学
Exercise Physiology

運動またはトレーニングに対する身体の生理学的な適応に関する研究で、特に骨および筋について検討している。骨に関する研究においては、骨強度を高める運動様式や運動方法および骨の適応について研究をしている。筋については、筋・腱複合体の弾性などについて検討している。

(主な著作) (1) Optimal exercise protocol for osteogenic response. J Phys Fitness Sports Med, 5: 1-6, 2016. (2) Past sporting activity during growth induces greater bone mineral content and enhances bone geometry in young men and women. J Bone Miner Metab, 33: 569-576, 2015.

ARAMAKI, Yu

荒牧勇

スポーツ脳科学
Sports neuroscience

スポーツや日常動作に関する運動・認知メカニズムについて、MRIや脳波といった脳科学の手法でアプローチします。スポーツ競技種目間の脳構造比較、トップアスリートの脳構造・脳機能の解明、トレーニングによる脳構造・脳機能の変化などが主な研究テーマです。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

WATANABE, Takemasa

渡 邊 丈 眞

公衆衛生学
Public Health and
Preventive Medicine

「何かができる・できない」という能力あるいは「何かをする・しない」という行動は、生活している環境の修飾を受けている。人とその生活環境との関わりを考究することにより、その人たちへの健康支援サービスはより豊かなものになる。運動・スポーツと健康との関わりについて、ヒト集団を対象として疫学的・行動科学的研究を実施している。

SAKAMOTO, Tatsuo

坂 本 龍 雄

スポーツ健康科学
Sports and Health Science

わが国では数次にわたり国民健康づくり対策が展開されてきた。2013年度から取り組まれている「健康日本21（第2次）」では、生活習慣病の一次予防が最重要課題と位置づけられている。この専攻分野では、疾患の医学的な発症メカニズムだけでなく、疾患予防のための生活習慣のあり方、とりわけ運動・スポーツの意義について理解を深める。

(主な著書)『よくわかる食物アレルギーの基礎知識』(分担)(独立行政法人環境再生保全機構), 2014、『長びく咳の治療指針』(分担)(総合医学社), 2013など。

SHIMIZU, Takuya

清 水 卓 也

スポーツ医学
Sports Medicine

近年、スポーツ傷害は、core stabilizationを基盤とする運動連鎖の破綻により生じるという考え方が提示されている。運動連鎖における四肢の動作パターンと、スポーツ傷害の関係を解析することを、主な研究テーマとしている。ほかに、スポーツ傷害の発生状況から、発生要因を明らかにすることもテーマとしている。

(主な著書)『疲労骨折—スポーツに伴う疲労骨折の原因・診断・治療・予防』(分担)(文光堂), 1998、『ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング』(分担)(文光堂), 2012。

MITSUYAMA, Hirohito

光 山 浩 人

スポーツ医学、整形外科学
Sports Medicine,
Orthopedic Surgery

競技スポーツのみならず生涯を通じた健康スポーツの観点からも関節機能は運動レベルや日常生活における活動性ひいては生活の質に直結している。関節機能を軟骨代謝や靭帯機能さらに筋肉・腱との関連から明らかにする。また関節機能と運動連鎖を解析し運動能力の向上とスポーツ傷害の予防・治療のための研究を行う。

KURAMOCHI, Rieko

倉 持 梨 恵 子

アスレティック・トレーニング
Athletic Training

アスリートは常に怪我の危険と隣り合わせである。アスレティック・トレーニングはアスリートが抱えるスポーツ外傷・障害の予防を目標とし、その評価、応急処置、アスレティック・リハビリテーション、コンディショニングを包括的に扱う。特に運動器のスポーツ外傷・障害の要因を探求し、怪我をしにくい身体づくりのための方策を模索する。

教員名 および 専攻分野

専攻分野の内容

YUASA, Kagemoto
湯浅景元
 スポーツコーチング
 Sport Coaching

コーチングの目的は、安全かつ効果的な方法で選手の潜在的な運動能力を引き出して競技力を向上させることである。そのためには、指導者の経験は欠かせないが、科学的知識を礎とする指導を行うことも重要である。コーチが修得すべき科学的知識について、主にバイオメカニクス・解剖学・生理学の視点から研究している。合わせて、指導者の主観で行われがちなコーチングを科学としてとらえる研究方法について模索している。
 (主な著作) 福永哲夫・湯浅景元『コーチングの科学』(朝倉書店)、湯浅景元ほか編著『体力づくりのためのスポーツ科学』(朝倉書店)。

SAKURAI, Shinji
桜井伸二
 スポーツバイオメカニクス
 Sport Biomechanics

Bio (生命あるいは生体) と Mechanics (力学あるいは機序) の合成語であるバイオメカニクスは、狭義には生体の構造や機能を力学的観点から解明する科学であり、広義には「身体の運動」の全般に関する科学である。力学、解剖学、生理学の基礎知識と、ビデオ画像解析、フォースプレート、筋電図などの分析法を用いて、歩・走・跳・投・打などスポーツの動作をより深く理解しようと試みる。
 (主な著作) 桜井伸二編著『投げる科学』(大修館書店)、深代千之・桜井伸二他編著『スポーツバイオメカニクス』(朝倉書店)。

TAKAHASHI, Shigehiro
高橋繁浩
 コンディショニング研究
 Sport Conditioning

競技選手にとってのコンディショニングとは、競技会に向けて心身の状態をより好ましい方向に整えることを目指すことである。そのための栄養、休養、リラクゼーション、トレーニングとしての身体活動などを含む、総合的で短期的な働きかけについて、実際の競技の場における事例や研究報告を提示しながら授業を展開していく。トレーニングの実践方法についても理解を深める。

TAUCHI, Kenji
田内健二
 スポーツバイオメカニクス・
 トレーニング科学
 Sport Biomechanics,
 Training Science

バイオメカニクス分野の動作分析、あるいは生理学分野の体力の測定評価を中心とした研究手法を用いて、身体の仕組み、あるいは運動の仕組みを理解し、どのようにすれば効果的、効率的にパフォーマンス(特に、競技パフォーマンス)を向上させられるかを学ぶ。最終的には、理論に裏付けられたトレーニング手段の構築を目指す。

巻末書類

巻末書類のヘッダー	書類名	備考
巻末—身元保証書	身元保証書	外国人留学生のみ提出
巻末—文学・志願書	文学研究科志願書	志願する研究科（専攻）の志願書を提出
巻末—国際英語学・志願書	国際英語学研究科志願書	
巻末—心理学・志願書	心理学研究科志願書	
巻末—社会学・志願書	社会学研究科志願書	
巻末—法学・志願書	法学研究科志願書	
巻末—経済学・志願書	経済学研究科経済学専攻志願書	
巻末—総合政策学・志願書	経済学研究科総合政策学専攻志願書	
巻末—経営学・志願書	経営学研究科志願書	
巻末—工学・志願書	工学研究科志願書	
巻末—情報科学・志願書	情報科学研究科志願書	
巻末—体育学・志願書	体育学研究科志願書	
巻末—研究計画書	経営学研究科研究計画書（表紙）	経営学研究科博士後期課程志願者のみ研究計画書に添付し提出

外国人留学生 身元保証書

この身元保証書は、外国人留学生のみ提出すること。

出願研究科・専攻	研究科		専攻	課程 いずれかに○	・博士前期（修士）課程 ・博士後期課程
氏名	フリガナ				
	漢字				
	ローマ字				
生年月日 (西暦)	年 月 日生	年齢・性別	歳 男・女	国籍	
現住所	〒 TEL() -				

中京大学長 殿

私は上記の者が中京大学大学院留学生として日本に在留中、責任をもって下記事項を保証いたします。

1. 本人が学業に専念するよう監督すること
2. 本人が学費、生活費、帰国旅費および医療費を支払えないときの負担
3. 本人が日本国法令上関係するあらゆる場合の身元引き受け

フリガナ
保証人氏名 _____

〒

現住所 _____

電話番号 () - 携帯電話番号 () -

職業（詳細に） _____

年収（税込み） _____

本人との関係 _____

日付（西暦） 年 月 日 署名 _____ (印)

保証人は日本に居住し、独立して生計を営んでいる者で、在学期間中の本人に関する全ての事項について保証できる者とする（日本国籍を有していなくても可）。

志 願 書

文学 研究科 日本文学・日本語文化 専攻		大学記入	
課 程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程・博士後期課程	博士前期課程 試験区分 (○で囲む)	一般選抜・社会人選抜 学内特別選抜
選 択 科 目 (番号を記入)	博士前期課程 (修士課程)	専門科目 ●専攻の科目() ●任意の科目() ①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 ⑥書学 ⑦出版論 ⑧著作権論 ⑨日本語史 ⑩現代日本語 ⑪比較文学(日中) ※専攻の科目1科目と専攻以外の任意の科目1科目を選択すること。 ※学内特別選抜志願者は記入不要。	
	博士後期課程	●専門科目() ①日本文学 ②日本語文化 ③日本語学 ●外国語() ①英語 ②漢文 ③資料解読 ※専門科目・外国語とも1科目を選択すること。	
氏 名	フリガナ	生年 月日	19 年 月 日生 () 歳
		性別	男 ・ 女
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -		写真貼付欄 注)3ヵ月以内に撮影したもの 注)縦4cm×横3cm
帰省先	〒 TEL() -		
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格 入学後の在留資格 (予定)	
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項	*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
推 薦 書			推薦者職・氏名 ㊟

注 一般選抜志願者は推薦書の記入は任意、中京大学出身者および社会人選抜志願者は推薦書の記入不要。

キ
リ
ト
リ

氏名 _____

修士論文	題目：
	概要：

注：① 博士前期(修士)課程修了者のみ修士論文について、その題目と概要を記入すること。
 ② 作成途中の場合は予定を記入すること。

入学後の研究計画	研究題目：

注：① 博士前期(修士)課程志願者のみ記入すること。
 ② 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。

志 願 書

国際英語学 研究科		専攻		大学記入	
課 程		修 士 課 程		入 学 期	
				2017年度 春学期	
氏 名	フガナ		生年 月 日	19 年 月 日生	
	-----			() 歳	
			性別	男 ・ 女	
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -				写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm
帰省先	〒 TEL() -				
外国人のみ 記入	国 籍		出願時の在留資格		
			入学後の在留資格 (予定)		
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

氏名

卒業論文または修士論文	題目：
	概要：

- 注：① 概要は400字程度で記入すること。作成途中の場合は、予定を記入すること。
 ② 【国際英語学専攻】学部卒業者(卒業見込者)で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
 ③ 【英米文化学専攻】学部卒業者(卒業見込者)で卒業論文を作成してない場合は、研究計画書を提出すること。
 ④ 別紙(A4判用紙)にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案	研究題目：

- 注：① 国際英語学専攻志願者のみ400字程度で記入すること。
 ② 別紙(A4判用紙)にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

専攻 (○を付す)	() 実験・応用心理学専攻 () 臨床・発達心理学専攻	大学記入	
課程 (○を付す)	() 博士前期(修士)課程 () 博士後期課程	博士前期課程 試験区分 (○を付す)	() 一般選抜 () 社会人選抜
志望する 専門領域 (○を付す)	() 実験心理学・() 応用心理学・() 臨床心理学・() 発達心理学 ※同一専攻であれば二つまで選択できる。 ※1領域のみならば○を、2領域いずれでもよいとする場合は志望順位1・2を()内に記入する。 ただし、博士前期(修士)課程の場合、臨床心理学領域への受入は第1志望の者に限る。		
氏名	フリガナ	生年月日	19 年 月 日生 () 歳
		性別	男 ・ 女
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -		写真貼付欄 注)3カ月以内に撮影したもの 注)縦4cm×横3cm
帰省先	〒 TEL() -		
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格	
		入学後の在留資格 (予定)	
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項	*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
学部・大学院在学時 指導教員名			

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

修士論文または
卒業論文の題目

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目を記入すること。
② 作成途中の場合は、予定を記入すること。
③ 学部卒業者（卒業見込者）で、卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。

入 学 後 の 研 究 計 画 案	研究題目：

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。
③ 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。

志 願 書

社会学 研究科		社会学 専攻		大学記入	
課 程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程・博士後期課程			試験区分 (○で囲む)	一般選抜・留学生選抜
				受験する 外国語科目 (○で囲む)	(留学生選抜志願者のみ記入) 英 語 ・ 日 本 語
志望専門 (専攻)分野				志望指導 教 員 名	
氏 名	フリガナ		生年 月 日	1 9 年 月 日生 () 歳	写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm
			性別	男 ・ 女	
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -				
帰省先	〒 TEL() -				
外国人のみ 記入	国 籍	出願時の在留資格			
		入学後の在留資格 (予定)			
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

氏名

修士論文または卒業論文	題目：
	概要：

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。
 ② 作成途中の場合は、予定を記入すること。
 ③ 学部卒業者（卒業見込者）で、卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
 ④ 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案	研究題目：

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ、400字～500字程度にまとめて記入すること。
 ② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。
 ③ 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。

志 願 書

法 学 研究科		法 律 学 専攻		大学記入	
課 程 (○で囲む)	博士前期 (修士) 課程 ・ 博士後期課程			志 望 専 門 科 目	
試験区分 (○で囲む)	一 般 ・ 社会人 ・ 学内特別 ・ 留学生				
在学期間 社会人選抜のみ (○で囲む)	2 年 ・ 3 年 ・ 4 年			志 望 指 導 教 員 名	
博 士 前 期 課 程 の み コースの選択 (○で囲む)	・ 研 究 コ ー ス ・ 専 門 コ ー ス	外国語または 論文科目 で 受 験 す 目 的 科 目	博士前期 課 程 一 次 試 験	一般選抜 【研究コース】	外国語 1 科目 ()
				一般選抜 【専門コース】	外国語または論文科目 1 科目 ()
			博 士 後 期 課 程		外国語 2 科目 () ()
氏 名	フリガナ		生年 月 日	1 9 年 月 日生 () 歳	
			性別	男 ・ 女	
現 住 所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mailアドレス:				写 真 貼 付 欄 注) 3 カ月以内に 撮影したもの 注) 縦 4 cm × 横 3 cm
帰 省 先	〒 TEL() -				
外国人のみ 記入	国 籍	出願時の在留資格			
		入学後の在留資格 (予定)			
履 歴 事 項	年 (西暦) ・ 月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

題目：

概要：

修士論文または卒業論文

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。
② 作成途中の場合は、予定を記入すること。
③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
④ 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案

- 注：① 博士前期（修士）課程一般選抜および留学生選抜志願者のみ、400字～500字程度にまとめて記入すること（別紙・A4判用紙での提出も可）。
② 博士前期（修士）課程社会人選抜および学内特別選抜志願者、博士後期課程志願者は別紙（A4判用紙）にて研究計画書を提出するため記入不要。

経済学専攻 志願書

入学期 (○で囲む)	2017年度春学期	課程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程 ・ 博士後期課程	大学記入
試験区分 (○で囲む)	(博士前期課程志願者のみ記入) 一般・社会人・税理士・留学生・学内特別		志望する 専攻分野	
在学期間 (○で囲む)	(博士前期課程社会人選抜志願者のみ記入) 2年 ・ 3年		志望指導 教員名	
選択科目〈2科目選択〉 (○で囲む)	(博士前期課程「一般選抜」志願者のみ記入、2科目選択すること) ①ミクロ経済学 ②マクロ経済学 ③志望する専攻分野の科目 *筆記試験は上記2科目の他「英語」を含む			
志望指導教員 との面談年月日 ※志願者全員記入要	年 月 日 ㊟		*志望指導教員が記入し捺印すること	
志望指導教員 受入承諾印	(博士前期課程「学内特別選抜」志願者のみ記入) 氏名 _____ ㊟		*志望指導教員が記入し捺印すること	
氏名	フリガナ	生年月日	19 年 月 日生 () 歳	写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm
		性別	男 ・ 女	
現住所 (連絡先)	〒 _____ TEL() - 携帯TEL() -			
帰省先	〒 _____ TEL() -			
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格	入学後の在留資格 (予定)	
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。		
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			

キ
リ
ト
リ

氏名

修士論文または卒業論文	題目：
	概要：

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。
 ② 作成途中の場合は、予定を記入すること。
 ③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
 ④ 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案	

- 注：① 400字～500字程度にまとめて記入すること。
 ② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

総合政策学専攻 志願書

経済学研究科		総合政策学 専攻		大学記入	
課程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程・博士後期課程			試験区分 (○で囲む)	(博士前期課程志願者のみ記入) 一般・留学生・社会人・学内特別
選択科目 (○で囲む)	(博士前期課程「一般選抜」志願者のみ記入、2科目選択すること) ①経済学 ②経営学 ③政治学(行政学を含む) ④法学 ⑤英語 (博士前期課程「留学生選抜」志願者のみ記入、1科目選択すること) ①経済学 ②経営学 ③政治学(行政学を含む) ④法学				
志望指導教員名			志望指導教員 受入承諾印	(博士前期課程学内特別選抜志願者のみ記入) 氏名 _____ (印) *志望指導教員が記入し捺印すること	
大学院志望指導教員 との面談年月日 ※志願者全員記入要	_____年 月 日 (印)			*志望指導教員が記入し捺印すること	
氏名	フリガナ		生年月日	19__年 月 日生 () 歳	写真貼付欄 注)3カ月以内に 撮影したもの 注)縦4cm×横3cm
			性別	男・女	
現住所 (連絡先)	〒 _____ TEL() - 携帯TEL() -				
帰省先	〒 _____ TEL() -				
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格		入学後の在留資格 (予定)	
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

氏名 _____

修士論文または卒業論文	題目：
	概要：

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。
 ② 作成途中の場合は、予定を記入すること。
 ③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
 ④ 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案	

- 注：① 博士前期課程一般選抜および学内特別選抜志願者・博士後期課程志願者は400字～500字程度にまとめて記入すること。
 ② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。
 ③ 博士前期課程社会人選抜・留学生選抜志願者は別紙（A4判用紙、2,000字～4,000字の範囲内）にて研究計画書を提出するため記入不要。

志 願 書

経営学 研究科		経営学 専攻		大学記入	
課程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程・博士後期課程			志望指導 教員名	第一志望
試験区分 (○で囲む)	(博士前期課程志願者のみ記入) 一般選抜・社会人選抜・学内特別選抜				第二志望 注)博士前期課程のみ必ず記入
氏名	フリガナ		生年 月日	19 年 月 日生 () 歳	写真貼付欄 注)3カ月以内に 撮影したもの 注)縦4cm×横3cm
			性別	男・女	
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -				
帰省先	〒 TEL() -				
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格			
		入学後の在留資格 (予定)			
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

氏名

修士論文または卒業論文	題目：
	概要：

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
 ② 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。論文未完の場合は、出願時点において予定している題目および概要を記入すること。
 ③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
 ④ 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

入学後の研究計画案	研究題目：

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
 ② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

専攻 (○を付す)	() 機械システム工学専攻 () 電気電子工学専攻 () 情報工学専攻	大学記入	
課程	修士課程	試験区分 (○を付す)	() 一般選抜 () 学内特別選抜
志望指導教員名		志望指導教員 受入承諾印	(学内特別選抜志願者のみ記入) 氏名 _____ (印) *志望指導教員が記入し捺印すること
氏名	カガナ	生年 月日	19 年 月 日生 () 歳
性別		性別	男 ・ 女
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -	写真貼付欄 注) 3カ月以内に撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm	
帰省先	〒 TEL() -		
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格	
		入学後の在留資格 (予定)	
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項	*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		
	・		

キ
リ
ト
リ

氏名

題目：

概要：

卒業論文またはこれに代わる業績の概要

注：① 作成途中の場合は、予定を記入すること。
② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

専攻 (○を付す)	() 情報認知科学専攻 () メディア科学専攻		大学記入	
課程	博士後期課程		志望指導 教員名	
氏名	フリガナ	生年月日	19 年 月 日生 () 歳	写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm
		性別	男 ・ 女	
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -			
帰省先	〒 TEL() -			
外国人のみ 記入	国籍	出願時の在留資格		
		入学後の在留資格 (予定)		
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項	*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。	
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			
	・			

キ
リ
ト
リ

氏名

題目：

概要：

修士論文またはこれに代わる業績の概要

注：① 作成途中の場合は、予定を記入すること。
② 別紙（A4判用紙）にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

体 育 学 研 究 科		体 育 学 専 攻		大学記入	
課 程 (○で囲む)	博士前期(修士)課程・博士後期課程			志望する分野	学系
試験区分 (○で囲む)	一 般 ・ 社 会 人 ・ 留 学 生			志望指導教員名	
在学期間 (○で囲む)	(博士前期課程社会人選抜志願者のみ記入) 2 年 ・ 3 年			受験する 外国語 (○で囲む)	(博士前期課程留学生選抜志願者のみ記入) 英 語 ・ 日 本 語
氏 名	フリガナ		生年 月 日	1 9 年 月 日生 () 歳	
	-----			性別	
現住所 (連絡先)	〒 TEL() - 携帯TEL() -				写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm
帰省先	〒 TEL() -				
外国人のみ 記入	国 籍	出願時の在留資格			
		入学後の在留資格 (予定)			
履 歴 事 項	年(西暦)・月	事項			
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				

キ
リ
ト
リ

*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。
*日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもしなく記入すること。

氏名

大学記入

修士論文または卒業論文	題目：
	概要：

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
② 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。
③ 作成途中の場合は、予定を記入すること。
④ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
⑤ 別紙（A4判用紙）での提出も可。その場合「別紙参照」と明記すること。

入学後の研究計画案	研究題目：

- 注：① 博士前期課程社会人選抜志願者は別に研究計画書もしくは学習計画書（3,000字程度）を作成し、提出するので記入は不要。
② 別紙（A4判用紙）での提出も可。その場合「別紙参照」と明記すること。

大学記入

研究計画書

キ
リ
ト
リ

(紐で綴ること)

研究テーマ

フリガナ

氏 名

入試に関する問い合わせ

中京大学 教学部大学院事務課

TEL (052) 835-9863 〈受付時間〉 平日 9 : 00~17 : 00

E-mail gs-office@mng.chukyo-u.ac.jp

名古屋キャンパス

文学研究科・国際英語学研究科・心理学研究科・法学研究科・経済学研究科・経営学研究科
工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻）〈2017年4月開設〉

〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2

豊田キャンパス

社会学研究科・情報科学研究科※・体育学研究科・工学研究科（情報工学専攻）〈2017年4月開設〉

※情報科学研究科は指導教員の研究室の設置が名古屋キャンパスの場合、名古屋キャンパスに通学する場合があります。

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101